

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	DF-CROSSCOB
適用 バージョン・レベル	V21L20
製品コード	A93166D1-2120-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21

ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

参照 → 本書中の参照箇所を示しています。

【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例： 【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2013年12月

富士通株式会社

目 次

1 . 機能概要	1
2 . 構成プログラム	3
3 . 適用マニュアル	3
4 . 新機能	4
5 . 制限事項	6
6 . ソフトウェア組合せ条件	6
7 . 入出力装置	7
8 . 提供媒体形式と内容	7
9 . D A S D所要量	8
10 . インストレーションの手引	9
11 . 稼働確認	1 6
12 . 日本語名標辞書データ変換プログラム	2 5
13 . 日本語名標辞書↔項目ディクショナリ変換プログラム	2 9
14 . 日本語名標辞書作成支援プログラム	3 4
15 . 適用マニュアルの正誤表	3 8
16 . プログラム修正事項	1 4 4

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-CROSSCOB (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system / Document Facility of CROSSreference for COBoI) は、COBOLソースプログラムおよびCOBOLコピー句中の利用者語などの相互関係情報を出力するものである。

DF-CROSSCOBは、以下の機能を持つ。

1.1 クロスリファレンス情報出力機能

ソースプログラムおよびコピー句で記述された利用者語（データ項目、コピー句、レコード、ファイル、副プログラム、二次入口点、サブスキーマ、DD名）が、他のどの情報と相互関係があるかをドキュメント出力する。

データ項目情報編集出力	———	(対プログラム) (対コピー句) (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句)
コピー句情報編集出力	———	(対プログラム) (対プログラム, ファイル, レコード) (階層表示)
レコード情報編集出力	———	(対プログラム) (対プログラム, ファイル, コピー句)
ファイル情報編集出力	———	(対プログラム) (対プログラム, レコード, コピー句)
副プログラム情報編集出力	———	(対プログラム) (対プログラム, パラメタ)
二次入口点情報編集出力	———	(対一次入口点, 呼び出し元)
サブスキーマ情報編集出力	———	(対プログラム) (対プログラム, DML命令, レコード)
DD名情報編集出力	———	(対プログラム, ファイル)

1.2 マトリックス情報出力機能

プログラムがどの情報（コピー句、レコード、ファイル、副プログラム）を使用しているかマトリックス形式でドキュメント出力する。

コピー句	→	プログラム情報出力機能	———	業務種別名単位出力 英数字名順出力 コピー句種別名単位出力 業務種別名単位+コピー句種別名単位出力
レコード	→	プログラム情報出力機能	———	業務種別名単位出力 英数字名順出力
ファイル	→	プログラム情報出力機能	———	業務種別名単位出力 英数字名順出力
副プログラム	→	プログラム情報編集出力	———	業務種別名単位出力 英数字名順出力

1.3 CSV形式ファイル出力機能

クロスリファレンス情報出力機能のドキュメントをCSV形式でファイル出力する。

マトリックス情報出力機能のドキュメントをCSV形式でファイル出力する。

1.4 クロスリファレンス情報出力機能のファイル出力

クロスリファレンス情報出力機能のドキュメントを、PDF のBROWSEなどで確認できる形式でファイル出力する。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ DF-CROSSCOB	JSMK0010	V21L20	
2		JSMKCSV	V21L20	CSV形式ファイル出力用
3		JSMKDICT	V21L20	日本語名標辞書変換用
4		JSMKKN01	V21L20	日本語名標辞書←→ 項目ディクショナリ 変換用
5		JSMKDSS1	V21L20	日本語名標辞書作成 支援用
6		JSMKDSS2	V21L20	日本語名標辞書作成 支援用

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/DF-CROSSCOB 解説書	J1M0-9170-01	

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して、次のような機能追加および改良が行われている。

4.1 V20L13で行われた機能追加・改良

4.1.1 全機能

4.1.1.1 予約語指定オプションの追加

各機能で、プログラムの構文解釈での予約語集合の扱いを指定する以下の実行時オプションを追加した。

- V11L11 COBOL85(V11L11) が解析対象プログラムの場合指定
- V11L11R COBOL85(V11L11) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V11L20 COBOL85(V11L20) が解析対象プログラムの場合指定
- V11L20R COBOL85(V11L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L10 COBOL85(V12L10) が解析対象プログラムの場合指定
- V12L10R COBOL85(V12L10) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L20 COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定
- V12L20R COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L20R2 ... COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB2使用時)

4.1.1.2 IDENTIFICATION DIVISION の対応

ID DIVISION. の記述を可能とした。

4.1.1.3 PROGRAM-ID の対応

PROGRAM-ID. 定数-1. の記述を可能とした。

4.1.2 DD名情報編集出力機能

4.1.2.1 環境部記述形式追加の対応

SELECT ファイル名 ASSIGN TO ファイル識別名定数-1. の記述を可能とした。

4.2 V21L10で行われた機能追加・改良

4.2.1 CSV形式ファイル出力機能の追加

クロスリファレンス情報出力のドキュメントをCSV形式ファイルへ出力することを可能とした。

4.3 V21L20で行われた機能追加・改良

4.3.1 CSV形式ファイル出力機能の拡張

以下に示すドキュメントをCSV形式でファイルへ出力することを可能とした。

これにより、全ドキュメントがCSV形式ファイルとして出力可能となった。

- クロスリファレンス情報出力のコピー句情報編集出力 (階層表示)
- マトリックス情報出力の全ドキュメント

ただし、マトリックス情報出力は、マトリックス形式ドキュメントが作成できるクロス集計用のCSV形式ファイルである。

4.3.2 クロスリファレンス情報出力機能のファイル出力を追加

クロスリファレンス情報出力の全ドキュメントを、PFD のBROWSEなどで確認できる形式でファイル出力することを可能とした。

4.3.3 日本語名標辞書作成支援プログラムの提供

DF-CROSSCOBで使用する日本語名標辞書の作成を支援する機能（機能1と2）を提供した。

- ・ 機能1：DF-CROSSCOBが出力するクロスリファレンス情報出力機能の5種類のCSV形式ファイルを入力とし、日本語変換の対象となる単語をCSV形式の単語ファイルとして出力する。
出力された単語ファイルに、利用者は日本語を入力する。
なお、入力となるCSV形式ファイルは以下の5種類である。
 - － データ項目情報編集出力（対プログラム）
 - － データ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）
 - － コピー句情報編集出力（階層表示）
 - － 二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）
 - － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML命令、レコード）
- ・ 機能2：上記の単語ファイルを入力とし、ADJUSTの日本語名標辞書を作成する。

5. 制限事項

このソフトウェアでは、マニュアルに記載の事項のうち使用を制限しているものがある。

これらの制限事項の内容とその代行方法・解除予定を表5.1 に示す。

表5.1 制限事項

項番	制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1	本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールするまたはインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOB LIB DDまたはSTEP LIB DD文に本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して、実行する。	未定
2	サブスキーマ情報編集出力では、日本語変換出力する場合に、サブスキーマ名およびレコード名は実行時オプションSL=30となる。	単語に区切って日本語名標辞書を作成している場合は、実行時オプションSL=30で指定可能な日本語名を再登録する。	未定
3	解析ソースまたはコピー句中にGEMのINCLUDE制御文を使用し、INパラメタを指定した以下の場合には、INCLUDE展開を行わない。 -INCLUDE モジュール名, IN=ライブラリ名	以下の記述に変更することにより解析可能。 -INCLUDE モジュール名, IN=DD名 -INCLUDE モジュール名, IN=' データセット名'	未定

6. ソフトウェア組合せ条件

本ソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは表6.1 に示すとおりである。

表6.1 必要ソフトウェア（OSIV/MSP）

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備 考
		必 須	任 意	
A F II	V10L10以降			
C O B O L 8 5	V12L10以降			
ソートマージ	V10L30以降			
A D J U S T	V11L10以降			
J E F 基本辞書	V01L92以降			
G E M	V10L30以降			ソースライブラリまたはコピーライブラリがGEMの場合

7. 入出力装置

本ソフトウェアの帳票は、日本語ラインプリンタおよびカット紙プリンタで出力することができる。ただし、フォームオーバーレイが出力できるプリンタであること。

8. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表8.1 から表8.2 に示すとおりである。

表8.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
S L	C R O S S	7	1

表8.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	CROSSCOB.JCL	提供JCLファイル(インストール用ジョブ制御文, 実行用ジョブ制御文, フォームオーバーレイソース, 稼働確認用テストソースプログラム, 稼働確認用テストコピー句)のJSECOPY のアンロード版
2	CROSSCOB.LOAD	ロードモジュールのJSECOPY のアンロード版
3	CROSSCOB.IMLIB	イメージライブラリのJSECOPY のアンロード版
4	CROSSCOB.STABLE	稼働確認用種別テーブルのJSDGENERのアンロード版
5	CROSSCOB.NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
6	CROSSCOB.UTYLOAD	ユーティリティ用ロードモジュール(日本語名標辞書データ変換プログラム, 日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラム, 日本語名標辞書作成支援プログラム1および2)のJSECOPY のアンロード版 参照 → 12, 13, 14
7	CROSSCOB.UTYJCL	ユーティリティ用提供JCLファイル(日本語名標辞書データ変換プログラム, 日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラム, 日本語名標辞書作成支援プログラム1および2)のJSECOPY のアンロード版 参照 → 12, 13, 14

9. D A S D所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのD A S D所要量の見積りは表9.1 に示すとおりである。

表9.1 D A S D所要量

単位は各々次のとおり、
レコード長、ブロック長：バイト
ディレクトリ：ブロック
D A S D所要量：トラック

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	ディレ クトリ	算 出 式		備 考
	標準名	変更 可否			D A S D所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	CROSSCOB. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	2	1	
2	CROSSCOB. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	1 7	5 3	3 5	
3	CROSSCOB. IMLIB	可	区分編成 U 0 6144	1	5	3	
4	CROSSCOB. STABLE	可	順編成 FB 80 3120	0	2	1	
5	CROSSCOB. NDICT	可	順編成 FB 94 940	0	2	1	
6	CROSSCOB. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	5	3	日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書項目ディクショナリ変換プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラム1および2を使用する場合 参照 → 12, 13, 14
7	CROSSCOB. UTYJCL	可	区分編成 FB 80 3120	1	2	1	日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書項目ディクショナリ変換プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラム1および2を使用する場合 参照 → 12, 13, 14

10. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

10.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供 JCL ファイル中の 1 メンバとして提供している。

この提供 JCL ファイルを DASD にローディングするジョブ制御文の例を、図 10.1 に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB CROSSCOB,CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=CROSSCOB.JCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=CROSS,LABEL=(1,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.CROSSCOB.JCL,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(1,1,2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

図 10.1 インストール用ジョブ制御文ローディングのジョブ制御文例

10.2 インストール用ジョブ制御文の修正

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正する。図10.2にインストール用ジョブ制御文を示す。提供 JCLファイル中のメンバ名は 'INSTALL' である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、ユーティリティ用として提供している機能を使用しない場合は、INST04およびINST05のステップは実行しなくてよい。 参照→12, 13, 14

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。

参照→5

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB CROSSCOB,CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR
//*****
//***      DF-CROSSCOB   インストール用JCL      ***
//*****
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01   DD DSN=CROSSCOB.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(2,SL)
//IN02   DD DSN=CROSSCOB.IMLIB,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(3,SL)
//OUT01  DD DSN=USER01.CROSSCOB.LOAD,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
//        VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(35,1,17),RLSE)
//OUT02  DD DSN=USER01.CROSSCOB.IMLIB,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
//        VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(3,1,1),RLSE)
//SYS PRT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
//COPY   INDD=IN01,OUTDD=OUT01
//COPY   INDD=IN02,OUTDD=OUT02
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=CROSSCOB.STABLE,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(4,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.CROSSCOB.STABLE,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASD01,
//        DISP=(NEW,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1))
//SYS PRT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=CROSSCOB.NDICT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(5,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.CROSSCOB.NDICT,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASD01,
//        DISP=(NEW,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1))
//SYS PRT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD DUMMY
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01   DD DSN=CROSSCOB.UTYLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(6,SL)
//OUT01  DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
//        VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(3,1,1),RLSE)
//SYS PRT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
//COPY   INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//INST05 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01   DD DSN=CROSSCOB.UTYJCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//        VOL=SER=CROSS,LABEL=(7,SL)
//OUT01  DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYJCL,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
//        VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(1,1,1))
//SYS PRT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
//COPY   INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

図10.2 インストール用ジョブ制御文

< 補足説明 >

- ・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。

(KOL1K010,KOL1K020,KOL1K030)

10.3 インストールの実行

修正したインストール用ジョブ制御文を実行する。

10.4 フォームオーバーレイソース

このソフトウェアでは、マトリクス情報のドキュメント出力時にイメージライブラリを使用している。提供するイメージライブラリは、11インチ帳票用であり、デジタルスイッチの基準値を、垂直：4，水平：5で作成している。

そのため、これ以外の基準値で使用すると、プログラムの印字とオーバーレイがずれて出力される。この場合は、フォームオーバーレイソースのMANNER文を修正し、イメージライブラリを再作成する。

また、利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正および登録方法の詳細は、“OSIV/MSP ADJUST 使用手引書”を参照されたい。図10.3にMANNER文の修正方法を示す。

MANNER CHAR(10,6), MOVE(-1,0)

水平 ← → 垂直

図10.3 MANNER文の修正方法

MANNER文にMOVEオペランドを追加し、水平方向および垂直方向の位置を修正する。

フォームオーバーレイソースの提供JCLファイル中のメンバは下記のとおりである。

- K010 ——— コピー句 → プログラム情報編集出力（英数字名出力）
 副プログラム → プログラム情報編集出力（英数字名出力）
- K020 ——— レコード → プログラム情報編集出力（英数字名出力）
 ファイル → プログラム情報編集出力（英数字名出力）
- K030 ——— コピー句 → プログラム情報編集出力（並行出力）
 レコード → プログラム情報編集出力（並行出力）
 ファイル → プログラム情報編集出力（並行出力）
 副プログラム → プログラム情報編集出力（並行出力）

10.5 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文を修正する。

10.5.1 帳票出力機能

クロスリファレンス情報およびマトリックス情報のドキュメントを出力するジョブ制御文を図10.4に示し、その説明をする。提供JCLファイル中のメンバ名は'CROSSCOB'である。このジョブ制御文を参考にし、稼働確認をされたい。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB CROSSCOB, CLASS=A, MSGCLASS=R _____ ①
//JOBLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.LOAD, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR _____ ③
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ④
//IMAGELIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.IMLIB, DISP=SHR, UNIT=SYSDA, _____ ⑤
// VOL=SER=DASD01
//STEP1 EXEC PGM=JSMK0010, REGION=1024K,
// PARM='XREF(J=DATPR), HANYO, CPY' _____ ⑥
//SYSIN DD *
M='TESTSOC1' _____ ⑦
C=T/1
/*
//SOCLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.JCL, DISP=SHR _____ ⑧
//SYSLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.JCL, DISP=SHR _____ ⑨
//JIMLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.NDICT, DISP=SHR _____ ⑩
//JSMHKIYK DD DSN=USER01.CROSSCOB.STABLE, DISP=SHR _____ ⑪
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100), RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100), RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100), RLSE)
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100), RLSE)
//JSMHK010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11738
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHKMKJ DD SYSOUT=* _____ ⑫
//JSMHKINF DD SYSOUT=* _____ ⑬
//SYSOUT DD DUMMY
//
```

図10.4 CROSSCOBジョブ制御文

- ① 実行クラス、出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL85ライブラリ、ADJUSTなど必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ⑤ マトリックス情報出力機能の場合、イメージライブラリを指定する。
- ⑥ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑦ SYSIN制御文で範囲の指定をする。
- ⑧ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑪ マトリックス情報出力機能で単位出力の場合、種別テーブルを指定する。
- ⑫ マトリックス情報出力機能で単位出力の場合、目次の出力先を指定する。
- ⑬ クロスリファレンス情報またはマトリックス情報のドキュメントの出力先を指定する。

10.5.2 CSV形式ファイル出力機能

A) CSV形式ファイル出力のジョブフロー

本プログラムを使用して、CSV形式ファイルを作成する場合のジョブフローを図10.5に示す。

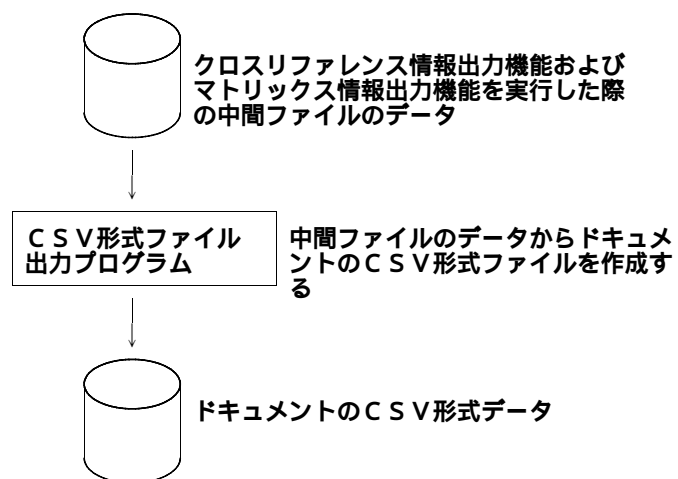


図10.5 CSV形式ファイル出力のジョブフロー

B) 実行ジョブ制御文の修正

CSV形式ファイル出力プログラムのジョブ制御文を図10.6に示し、その説明をする。提供JCLファイル中のメンバ名は`CROSSCSV`である。下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB CROSSCOB,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR _____ ③
//*
/** 情報出力 **
//CROSS EXEC PGM=JSMK0010,REGION=1024K,
// PARM='XREF(J=DATPR),NOHANYO,CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
M='TESTSOC1'
C=T/1
/*
//SOCLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.JCL,DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.JCL,DISP=SHR _____ ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMHK1YK DD DSN=USER01.CROSSCOB.STABLE,DISP=SHR _____ ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//JSMHK010 DD DSN=&&JSMHK010,UNIT=SYSDA,DISP=(,PASS),
// SPACE=(TRK,(100,100),RLSE), _____ ⑨
// DCB=BLKSIZE=11738
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHKMKJ DD DUMMY
//JSMHKINF DD DUMMY
//SYSOUT DD DUMMY
/*
/** CSV形式ファイル出力 **
//CSV EXEC PGM=JSMKCSV,REGION=1024K,
// PARM='DATPR,TITLE' _____ ⑩
//JSMHK010 DD DSN=&&JSMHK010,DISP=(OLD,DELETE)
//JSMHKCSV DD DSN=USER01.DATPR.CSV,UNIT=SYSDA,DISP=(,CATLG), _____ ⑪
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(50,50),RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11738
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図10.6 CSV形式ファイル出力プログラムのジョブ制御文例

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ,ADJUSTなど必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
注)ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ PARMパラメタに、クロスリファレンス情報出力機能またはマトリックス情報出力機能の実行時オプションを指定する。

- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
ただし、CSV形式ファイル出力においては、日本語名標辞書変換後の名称を出力しないため意味をなさない。
- ⑧ マトリックス情報出力機能のCSV形式ファイルを出力する場合、種別テーブルを指定する。
- ⑨ クロスリファレンス情報出力機能およびマトリックス情報出力機能の中間ファイルの割当て容量を指定する。
- ⑩ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。クロスリファレンス情報出力機能の場合は、情報オプションを指定する。マトリックス情報出力機能の場合は、情報オプションとCASEオプションを指定する。ただし、情報オプションおよびCASEオプションは上記④と同じ指定をする。
- ⑪ CSV形式ファイルのデータセット名、ボリューム通し番号、割当て容量、DCB情報等を指定する。

C) 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- － クロスリファレンス情報出力機能およびマトリックス情報出力機能の中間ファイル作成時の情報オプションおよびCASEオプションと、CSV形式ファイル出力時の情報オプションおよびCASEオプションが異なる場合、出力結果の保証はしない。
- － CSV形式のデータは、日本語名標辞書による日本語変換後の情報は出力しない。

11. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認方法を説明する。

11.1 クロスリファレンス情報出力機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ' CROSSCOB 'を修正し、実行する。

修正する箇所は、“ 10.5 実行用ジョブ制御文の修正 ”を参照し、以下の通りに修正されたい。

- － PARMパラメタに' XREF (J=DATPR) , HANYO , CPY 'を指定する。
- － SYSIN制御文を以下のとおり指定する。

```
//SYSIN DD *  
M='TESTSOC1'  
C=T/1
```

- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- － DD名JIMLIBに提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。

修正ジョブ制御文を実行した場合に、正常に稼働した場合は、図11.1と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

出力範囲：プログラム

SEQ	データ項目名	NO.	プログラム名
1	TESTDATA1 稼働確認用データ項目 1	1	TESTSOC1 稼働確認用テストプログラム 1
2	TESTDATA2 稼働確認用データ項目 2	1	TESTSOC1 稼働確認用テストプログラム 1
3	TESTFILE1 稼働確認用ファイル 1	1	TESTSOC1 稼働確認用テストプログラム 1

最終出力ページ

- 注1) 日付には、クロスリファレンス情報を出力した日付が出力される。
注2) 時刻には、クロスリファレンス情報を出力した時刻が出力される。

図11.1 クロスリファレンス情報出力機能の稼働確認ドキュメント

11.2 マトリックス情報出力機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ' CROSSCOB 'を修正し、実行する。

修正する箇所は、“ 10.5 実行用ジョブ制御文の修正 ”を参照し、以下の通りに修正されたい。

- PARMパラメタに' MATR (J=PCPY , CASE=4 , G=1:5 , C=1:5 , AN) , HANYO , CPY 'を指定する。
- SYSIN制御文を以下のとおり指定する。

```
//SYSIN DD *  
M='TESTSOC1'  
S=ALL
```

- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- DD名JIMLIBに提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。
- DD名JSMHKIYKに提供種別テーブルのデータセットを指定する。

修正ジョブ制御文を実行した場合に、正常に稼働した場合は、図11.2および図11.3と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

<目次帳票>

SEQ	業務名 (A/N)	業務名 (日本語)	種別名 (A/N)
1	TESTS	DF-CROSSCOB稼働確認用ソース	TESTC

種別名 (日本語)	コピー句	ページ数
DF-CROSSCOB稼働確認用コピー句	TESTCPY	1

注1) 日付には、マトリックス情報を出力した日付が出力される。
 注2) 時刻には、マトリックス情報を出力した時刻が出力される。

図11.2 マトリックス情報出力機能の稼働確認ドキュメント

コピー句 → プログラム

TESTS DF-CROSSCOB稼働確認用ソース
TESTC DF-CROSSCOB稼働確認用コピー句 / 1

プログラム名 TESTC1																				小	合	備	
																				計	計	考	
TESTCPY																					1	1	

注1) 日付には、マトリックス情報を出力した日付が出力される。

注2) 時刻には、マトリックス情報を出力した時刻が出力される。

図11.3 マトリックス情報出力機能の稼働確認ドキュメント

11.3 CSV形式ファイル出力プログラム(クロスリファレンス情報出力機能)の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ' CROSS CSV 'を修正し,実行する.

修正する箇所は,“ 10.5 実行用ジョブ制御文の修正 ”を参照し,以下の通りに修正されたい.

情報出力部分の各指定内容(ステップ名: CROSS)

- PARMパラメタに' XREF (J=DATPR), NOHANYO , CPY 'を指定する.
- SYSIN制御文を以下のとおり指定する.

```
//SYSIN      DD  *  
M='TESTSOC1'  
C=T/1
```

- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する.
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する.
- DD名JIMLIBはDUMMYとする.

CSV形式ファイル出力部分の各指定内容(ステップ名: CSV)

- PARMパラメタに' DATPR , TITLE 'を指定する.
- DD名JSMHKCSVにCSV形式ファイルを指定する.

修正ジョブ制御文を実行した場合に,正常に稼働した場合は,図11.4と同一のドキュメントおよび図11.5と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい.

なお,情報出力部分(ステップ名: CROSS)の実行結果については,正常終了していれば詳細を確認する必要はない.

```

SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 ****.*** 時刻 **.***  PAGE  1
                                     (注1)   (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----) )-----*-----0
DATPR,TITLE

** 確定パラメタ **
DATPR    TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      : データ項目情報編集
      出力範囲        : プログラム
      入力項目数      :                3 件
      CSVレコード数   :                4 件

** 実行結果メッセージ **
最大重大度コード = 00

```

- 注1) 日付には、CSV形式ファイル出力した日付が出力される。
- 注2) 時刻には、CSV形式ファイル出力した時刻が出力される。

図11.4 CSV形式ファイル出力プログラムの稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
データ項目名,プログラム名
TESTDATA1,TESTSOC1
TESTDATA2,TESTSOC1
TESTFILE1,TESTSOC1

```

図11.5 CSV形式ファイル出力プログラムの稼働確認CSV形式ファイル

11.4 CSV形式ファイル出力プログラム(マトリックス情報出力機能)の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ' CROSS CSV 'を修正し,実行する.

修正する箇所は,“ 10.5 実行用ジョブ制御文の修正 ”を参照し,以下の通りに修正されたい.

情報出力部分の各指定内容(ステップ名: CROSS)

- PARMパラメタに' MATR (J=PCPY , CASE=4 , G=1:5 , C=1:5 , AN) , NOHANYO , CPY 'を指定する.
- SYSIN制御文を以下のとおり指定する.

```
      //SYSIN      DD      *  
          M='TESTSOC1'  
          S=ALL
```
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する.
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセットを指定する.
- DD名JIMLIBはDUMMYとする.
- DD名JSMHKIYKに提供種別テーブルのデータセットを指定する.

CSV形式ファイル出力部分の各指定内容(ステップ名: CSV)

- PARMパラメタに' PCPY , CASE=4 , TITLE 'を指定する.
- DD名JSMHKCSVにCSV形式ファイルを指定する.

修正ジョブ制御文を実行した場合に,正常に稼働した場合は,図11.6と同一のドキュメントおよび図11.7と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい.

なお,情報出力部分(ステップ名: CROSS)の実行結果については,正常終了していれば詳細を確認する必要はない.

```

SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 ****.*** (注1) 時刻 **.*** (注2) PAGE 1
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----) )-----*-----0
PCPY,CASE=4,TITLE

** 確定パラメタ **
PCPY      TITLE      CASE(4)

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      : コピー句→プログラム情報
      出力順          : 業務種別+コピー句種別
      入力項目数      : 1 件
      CSVレコード数   : 2 件

** 実行結果メッセージ **
最大重大度コード = 00

```

- 注1) 日付には、CSV形式ファイル出力した日付が出力される。
- 注2) 時刻には、CSV形式ファイル出力した時刻が出力される。

図11.6 CSV形式ファイル出力プログラムの稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
業務種別名,コピー句種別名,コピー句名,プログラム名,集計用
TESTS,TESTC,TESTCPY,TESTSOC1,

```

図11.7 CSV形式ファイル出力プログラムの稼働確認CSV形式ファイル

12. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号6でロードモジュールが、格納番号7で実行ジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、本ソフトウェアで使用されたい。

A) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図12.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 参照【1】4.2.2

【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図12.1 フォーマットの変換方法

1) キー部

－ 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

－ 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

2) レコード数

レコード数に'01'が設定される。

3) 有効文字数

有効文字数に'30'が設定される。

4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

B) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図12.2に示す。

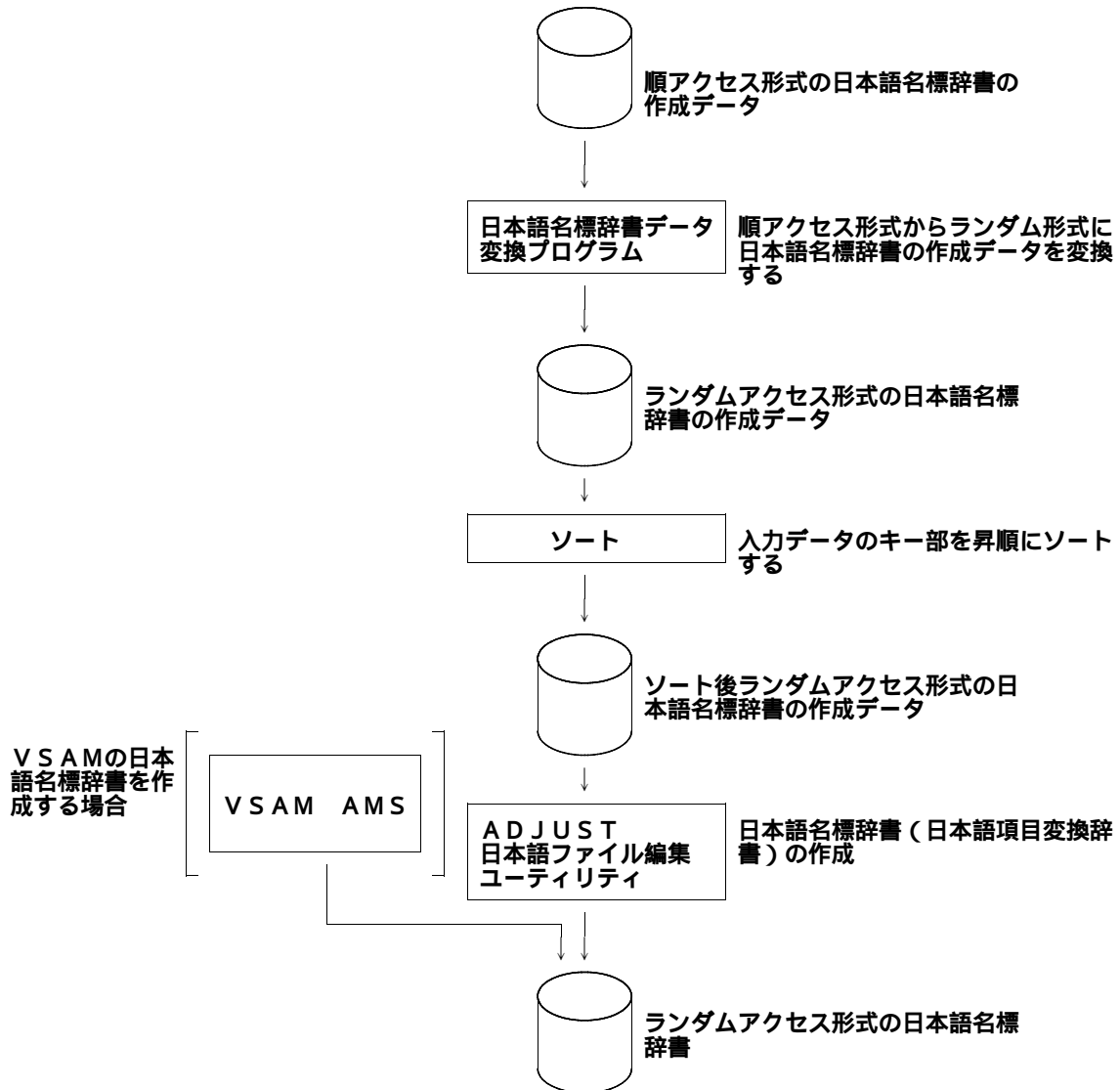


図12.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

C) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を図12.3に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMKDICT'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01Y JOB CROSSCOB,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*           日本語名標辞書      再創成           *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR      ①
//      DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR              ②
//      DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR                      ③
//*****
//*           DEFINE CLUSTER           *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
      (NAME(USER01.RAN.NDICT) - ④
      INDEXED -
      UNIQUE -
      KEYS(30 0) -
      IMBED -
      VOLUMES(DASDXX) - ⑤
      TRACKS(5 1) - ⑥
      RECORDSIZE(124 124)) -
      DATA -
      (NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) - ⑦
      INDEX -
      (NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX)) - ⑧
/*
//*****
//**      日本語名標辞書  入力データ変換JCL      *
//**      順アクセス→ランダムアクセス          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMKDICT,REGION=1024K
//JSMJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA,DISP=SHR          ⑨
//JSMRAN DD DSN=&&RAN,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//      DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
//      SPACE=(TRK,(50,10)) - ⑩
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*****
//**      ソート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&CROSSCOB,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//      SPACE=(TRK,(50,10)), - ⑩
//      DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*

```

図12.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例(続く)

```

//*****
//**      日本語ファイル編集ユーティリティ      *
//*****
//JAFE1   EXEC   PGM=JRQJAFE,REGION=1024K
//JAFLIB  DD     DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR          ⑪
//CHGLIB  DD     DSN=&&CROSSCOB,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD   SYSOUT=*
//SYSLIST DD     DUMMY
//SYSIN   DD     *
- ADD     OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT  SAME
- CHGIN   IN(CHGLIB)
- END
/*
//

```

図12.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例（続き）

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセット名を指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリおよびADJUSTのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットの割当て容量を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセットを指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

VSAMの場合は、④のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124バイトの固定長レコード形式のデータセットを指定する。

D) 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- キー部のデータに重複しているものがあるなど、入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、本プログラムはチェックおよびエラー処理を行わないためそのまま変換される。
- ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降が切り捨てて変換される。

13. 日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラム

このプログラムは、Windows版のDFシリーズを使用している利用者のために提供するものであり、ホスト版のDFシリーズで使用しているランダムアクセス形式の日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号6でロードモジュールが、格納番号7で実行ジョブ制御文を提供している。

なお、本ユーティリティは項目ディクショナリから日本語名標辞書を還元することも可能であるため、Windows版のDFシリーズを使用時に新たにデータを追加した場合等にもホスト上の日本語名標辞書を再作成することが可能である。

A) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを図13.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 参照【1】4.2.2

【日本語名標辞書】
レコード長：36バイト～124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	2～60バイト	0～30バイト

【項目ディクショナリ】
レコード長：1024バイト

カテゴリID	英数字データ項目名	日本語データ項目名	データ項目作成日	データ項目作成時刻
2バイト	30バイト	60バイト	6バイト	6バイト

図13.1 フォーマットの変換方法（日本語名標辞書の場合）

1) カテゴリID

データ項目情報を示す'DM'が設定される。

2) 英数字データ項目名

変換前の項目キーの内容が、30バイトの項目に設定される。後ろ2バイトには空白が設定される。

3) 日本語データ項目名

変換前の日本語データ部がそのまま日本語データ項目名に設定される。日本語データ部が60バイト以下の場合には、後ろバイトにすべて空白が設定される。

4) データ項目作成日

本データの作成日が設定される。

5) データ項目作成時刻

本データの作成時刻が設定される。

B) 項目ディクショナリ作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、項目ディクショナリを作成する場合のジョブフローを図13.2および図13.3に示す。

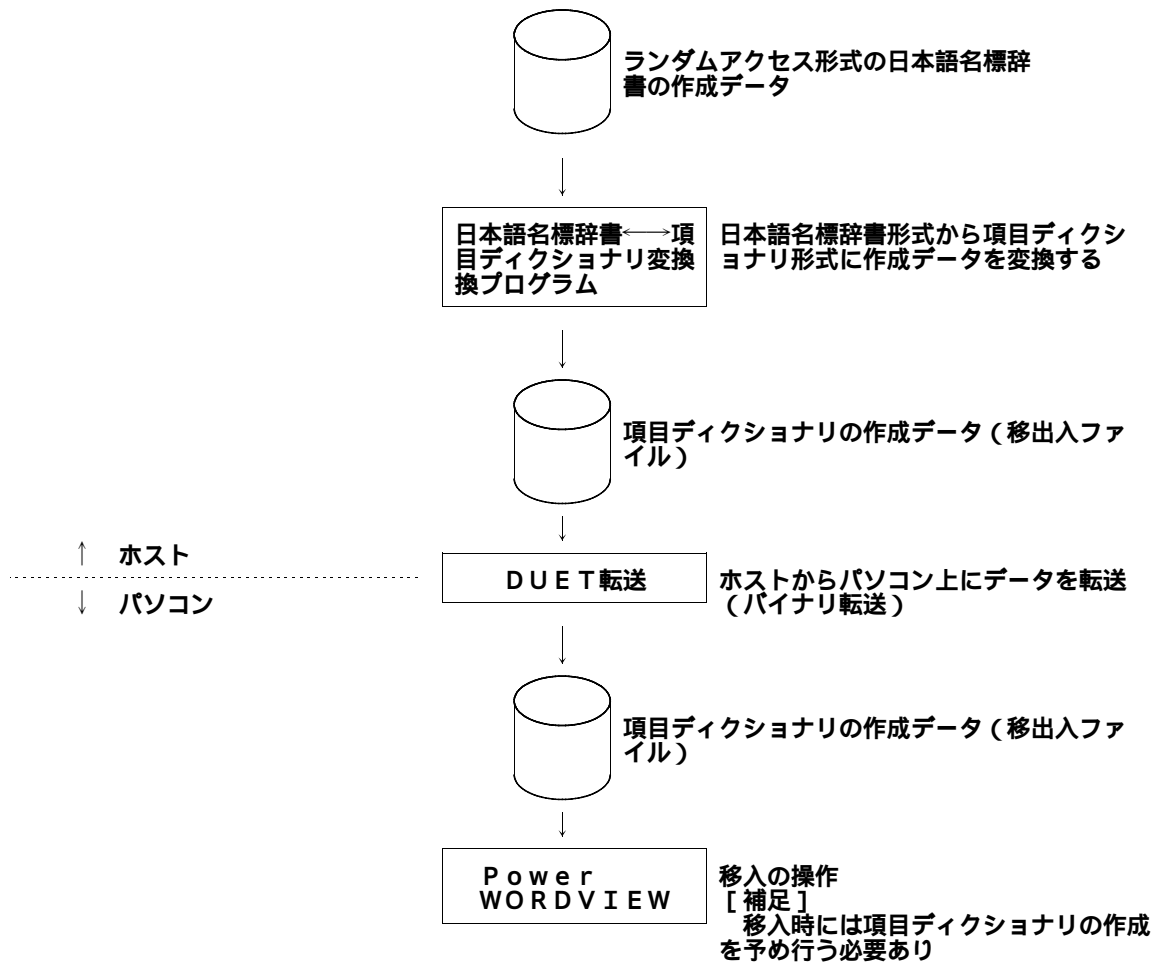


図13.2 項目ディクショナリへの移入操作

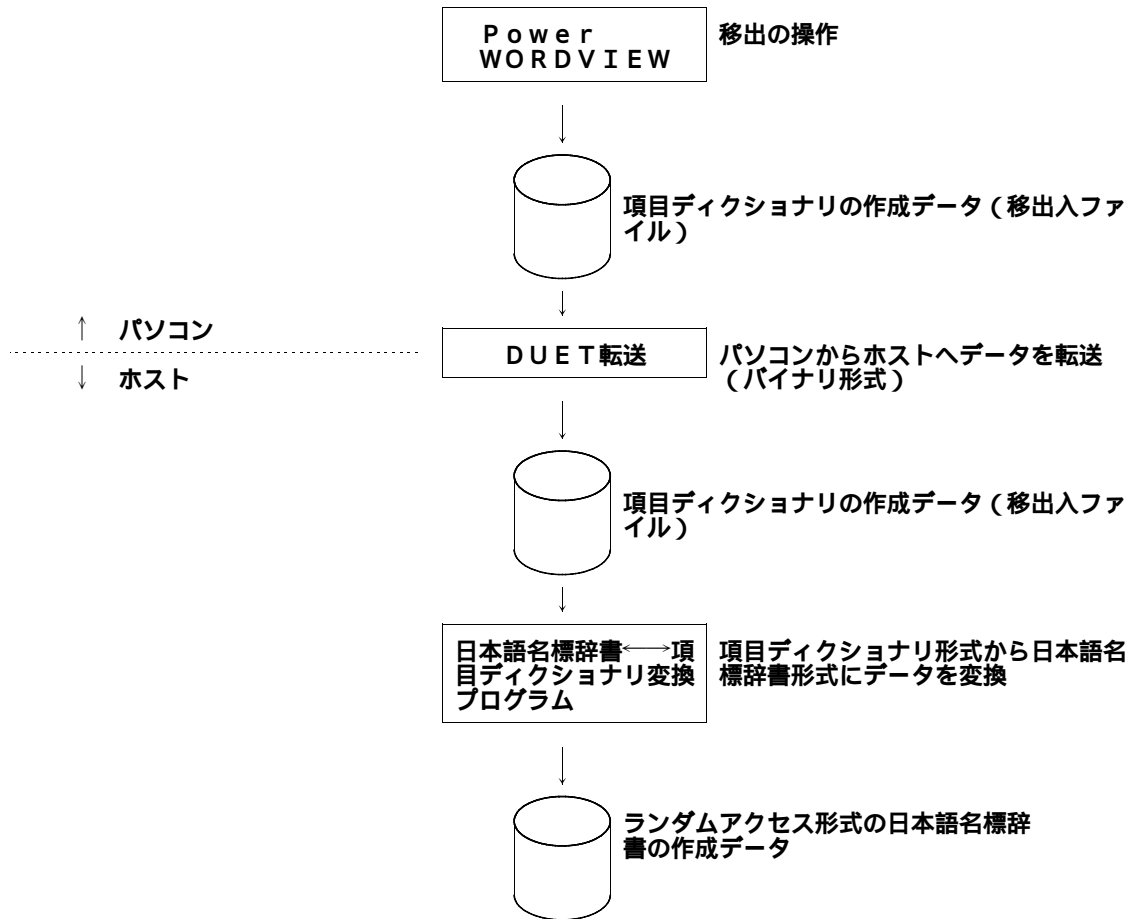


図13.3 項目ディクショナリからの移出操作

C) 実行ジョブ制御文

項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文を図13.4に示し説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMKKN01'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB CROSSCOB,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*   日本語名標辞書 ← 項目ディクショナリ移出入ファイル   *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR           ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR                         ②
// DD DSN=SYS1.C85.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR                            ③
//KMD1 EXEC PGM=JSMKKN01,REGION=1024K,PARM='KDCT'         ④
//*KMD1 EXEC PGM=JSMKKN01,REGION=1024K,PARM='NDCT'
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMNDCTI DD DSN=USER01.CROSSCOB.NDICT,DISP=SHR           ⑤
//JSMKDCTO DD DSN=USER01.CROSSCOB.ISYU,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ⑥
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),              ⑦
// DCB=(RECFM=F,LRECL=1024,BLKSIZE=1024)
//*JSMKDCTI DD DSN=USER01.CROSSCOB.ISYU,DISP=SHR           ⑧
//*JSMNDCTO DD DSN=USER01.CROSSCOB.NDICT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ⑨
//* VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),              ⑩
//* DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//

```

図13.4 日本語名標辞書←項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文例

- ① 項目ディクショナリ作成用プログラムのロードモジュールが、格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ 日本語名標変換処理に関するパラメタを指定する。
日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合：'KDCT'
項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合：'NDCT'
- ⑤ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に、入力となる日本語名標辞書の作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
アクセス名：'JSMNDCTI'
- ⑥ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に、出力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
アクセス名：'JSMKDCTO'
- ⑦ 項目ディクショナリの作成データのボリューム通し番号、割当て容量、DCB情報等を指定する。
- ⑧ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に、入力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
アクセス名：'JSMKDCTI'
- ⑨ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に、出力となる日本語名標辞書の作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
アクセス名：'JSMNDCTO'
- ⑩ 日本語名標辞書の作成データのボリューム通し番号、割当て容量、DCB情報等を指定する。

D) 制限事項

本プログラムの使用上の制限事項を説明する。

- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、扱える日本語名標辞書の形式は、ランダムアクセス形式のもののみである。
- － 日本語名標辞書のファイル編成は、入出力共に順編成ファイルのみ扱える。
- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、日本語名標辞書の読み部は出力されない。また、項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合、読み部には空白のみ出力される。
- － 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合は新規作成のみ可能であり、またその場合は124バイトの固定長で作成される。

14. 日本語名標辞書作成支援プログラム

このプログラムは、本ソフトウェアで使用する日本語名標辞書の作成を支援するプログラムである。なお、日本語名標辞書作成支援プログラムの詳細は、適用マニュアルを参照されたい。 参照 → 15

14.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1

DF-CROSSCOBが出力するクロスリファレンス情報出力（以降、表形式ドキュメントと呼ぶ）の5種類のCSV形式ファイルを入力として、日本語変換の対象となる単語（英数字）を出力する。

日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文の例を図14.1に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は「JSMKDSS1」である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム1 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMKDSS1,REGION=1024K,
// PARM='HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHKDPR DD DSN=USER01.DATPR.CSV,DISP=SHR _____ ④
//JSMHKDAL DD DSN=USER01.DATAL.CSV,DISP=SHR _____ ⑤
//JSMHKCNE DD DSN=USER01.CPYNE.CSV,DISP=SHR _____ ⑥
//JSMHKENT DD DSN=USER01.ENT.CSV,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMHKSAL DD DSN=USER01.SBSAL.CSV,DISP=SHR _____ ⑧
//JSMHKWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE), _____ ⑨
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE), _____ ⑩
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//
```

図14.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム1のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ 入力となる表形式ドキュメントのデータ項目情報編集出力（対プログラム）のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑤ 入力となる表形式ドキュメントのデータ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑥ 入力となる表形式ドキュメントのコピー句情報編集出力（階層表示）のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑦ 入力となる表形式ドキュメントの二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑧ 入力となる表形式ドキュメントのサブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML命令、レコード）のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑨ 出力となる表形式ドキュメントの単語ファイルを指定する。
- ⑩ 出力となる表形式ドキュメントの単語ファイルの割当て容量を指定する。

④～⑧の入力となる表形式ドキュメントのCSV形式ファイルは、必要なファイルを一つ以上指定する。
 unnecessary場合は、DUMMYで指定する。

14.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2

表形式ドキュメントの単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文の例を図14.2に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMKDSS2'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をV SAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム2 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMKDSS2,REGION=1024K
//JSMHKWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR _____ ④
//JSMHKRAN DD DSN=&&CROSSCOB,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240) _____ ⑤
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//*****
//* DEFINE CLUSTER *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(USER01.RAN.NDICT) - _____ ⑥
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(DASDXX) - _____ ⑦
TRK(5) - _____ ⑧
RECORDSIZE(124 124)) -
DATA -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) - _____ ⑨
INDEX -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX)) - _____ ⑩
/*
//*****
//** 日本語ファイル編集ユーティリティ *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR _____ ⑪
//CHGLIB DD DSN=&&CROSSCOB,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

図14.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム2のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL85およびADJUSTのライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ 入力となる表形式ドキュメントの単語ファイルを指定する。
- ⑤ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑦ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットの割当て容量を指定する。
- ⑨ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

VSAMの場合は、⑥のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124バイトの固定長レコード形式のデータセットを指定する。

15. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称			マニュアルコード
OS IV	SIMPLIA/DF-CROSSCOB	解説書	J1M0-9170-01

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
1	5	1.2 特長	(記述追加)	<ul style="list-style-type: none"> - CSV形式ファイルへの出力 検索結果およびマトリックスによる関連図のドキュメントをCSV形式のデータに変換することが可能である。 - 検索情報のファイル出力 検索結果のドキュメントをPF DのBROWSEなどで確認できる形式でファイル出力することができる。
2	7	1.4 機能概要	<p>a) クロスリファレンス情報出力機能 クロスリファレンス情報出力機能は次に示すドキュメントを出力する。 CSV形式に変換してファイルに出力することも可能である(ただし、COPY命令による階層関係を除く。)</p> <p>b) マトリックス情報出力機能 マトリックス情報出力機能は次に示すドキュメントを出力する。</p>	<p>a) クロスリファレンス情報出力機能 クロスリファレンス情報出力機能は次に示すドキュメントまたはファイル形式で出力する。 CSV形式に変換してファイルに出力することも可能である。</p> <p>b) マトリックス情報出力機能 マトリックス情報出力機能は次に示すドキュメントを出力する。 CSV形式に変換してファイルに出力することも可能である。</p>
3	16	2.1 クロスリファレンス情報出力機能	<p>クロスリファレンス情報をCSV形式のファイルとして出力することも可能である。</p> <p>-----</p> <p>これらの情報編集出力より出力されるドキュメントに共通した仕様を、図2.1に示す共通するドキュメント仕様(クロスリファレンス情報出力機能)で説明する。</p>	<p>クロスリファレンス情報をPF DのBROWSEなどで確認できる形式やCSV形式のファイルとして出力することも可能である。</p> <p>-----</p> <p>これらの情報編集出力より出力されるドキュメントおよびファイルに共通した仕様を図2.1に示す共通するドキュメント仕様(クロスリファレンス情報出力機能)および図2.1-1共通するファイル仕様(クロスリファレンス情報出力機能)で説明する。</p>
4	17	2.1 クロスリファレンス情報出力機能 図2.1-1	クロスリファレンス情報出力で共通するファイル仕様を追加	参照 → 15.1
5	19	2.1.1.1 データ項目情報編集出力(対プログラム) 図2.2-1	データ項目情報編集出力例(対プログラム)ファイルを追加	参照 → 15.2
6	20	2.1.1.2 データ項目情報編集出力(対コピー句) 図2.3-1	データ項目情報編集出力例(対コピー句)ファイルを追加	参照 → 15.3

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
7	22	2.1.1.3 データ項目情報編集出力(対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) 図2.4-1	データ項目情報編集出力例(対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) ファイルを追加	参照 → 15.4
8	24	2.1.2.1 コピー句情報編集出力(対プログラム) 図2.5-1	コピー句情報編集出力例(対プログラム) ファイルを追加	参照 → 15.5
9	25	2.1.2.2 コピー句情報編集出力(対プログラム, ファイル, レコード) 図2.6-1	コピー句情報編集出力例(対プログラム, ファイル, レコード) ファイルを追加	参照 → 15.6
10	26	2.1.2.3 コピー句情報編集出力(階層表示) 図2.7-1	コピー句情報編集出力例(階層表示) ファイルを追加	参照 → 15.7
11	28	2.1.3.1 レコード情報編集出力(対プログラム) 図2.8-1	レコード情報編集出力(対プログラム) ファイルを追加	参照 → 15.8
12	29	2.1.3.2 レコード情報編集出力(対プログラム, ファイル, コピー句) 図2.9-1	レコード情報編集出力(対プログラム, ファイル, コピー句) ファイルを追加	参照 → 15.9
13	31	2.1.4.1 ファイル情報編集出力(対プログラム) 図2.10-1	ファイル情報編集出力(対プログラム) ファイルを追加	参照 → 15.10
14	32	2.1.4.2 ファイル情報編集出力(対プログラム, レコード, コピー句) 図2.11-1	ファイル情報編集出力(対プログラム, レコード, コピー句) ファイルを追加	参照 → 15.11
15	34	2.1.5.1 副プログラム情報編集出力(対プログラム) 図2.12-1	副プログラム情報編集出力(対プログラム) ファイルを追加	参照 → 15.12
16	35	2.1.5.2 副プログラム情報編集出力(対プログラム, パラメタ) 図2.13-1	副プログラム情報編集出力(対プログラム, パラメタ) ファイルを追加	参照 → 15.13
17	37	2.1.6.1 二次入口点情報編集出力(対一次入口点, 呼び出し元) 図2.14-1	二次入口点情報編集出力(対一次入口点, 呼び出し元) ファイルを追加	参照 → 15.14
18	39	2.1.7.1 サブスキーマ情報編集出力(対プログラム) 図2.15-1	サブスキーマ情報編集出力(対プログラム) ファイルを追加	参照 → 15.15

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
19	40	2.1.7.2 サブスキーマ情報編集出力(対プログラム, DML命令, レコード)ファイルを追加 図2.16-1	サブスキーマ情報編集出力(対プログラム, DML命令, レコード)ファイルを追加	参照 → 15.16
20	42	2.1.8.1 DD名情報編集出力(対プログラム, ファイル)ファイル 図2.17-1	DD名情報編集出力例(対プログラム, ファイル)ファイルを追加	参照 → 15.17
21	43	2.2 マトリックス情報出力機能 3行目	~する。これにより、一目で関連を把握することができる。 マトリックス情報出力機能は、次の機能に分けることができる。	~する。これにより、一目で関連を把握することができる。 マトリックス情報をCSV形式のファイルとして出力することも可能である。CSV形式ファイル作成方法は、“付録E マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法”を参照されたい。
22	51	2.2.2 レコード→プログラム情報編集出力	レコード→プログラム情報編集出力は、COBOL ソースプログラム及びコピー句に定義されているレコード名と、COBOL ソースライブラリのメンバ名の関連をマトリックス形式でドキュメントに出力する。	レコード→プログラム情報編集出力は、COBOL ソースプログラム及びコピー句に定義されているレコード名と、COBOL ソースライブラリのプログラム名の関連をマトリックス形式でドキュメントに出力する。
23	83	3.1.2 実行時オプション 図3.1 実行時オプション一覧	LINE = { $\frac{62}{n}$ }	{ LINE = { $\frac{62}{n}$ } FILE }
24	84	3.1.2.1 クロスリファレンス情報出力機能オプション 図3.2 クロスリファレンス情報出力機能オプション	クロスリファレンス情報出力機能オプションを変更	参照 → 15.18
25	85	3.1.2.1 クロスリファレンス情報出力機能オプション LINE	FILEオプション説明を追加	参照 → 15.19
26	86	3.1.2.2 マトリックス情報出力機能オプション	マトリックス情報出力機能の情報編集出力を実行するための実行時オプションを図3.3に示し各実行時オプションの意味を説明する。	マトリックス情報出力機能の情報編集出力を実行するための実行時オプションを図3.3に示し各実行時オプションの意味を説明する。 マトリックス情報をCSV形式ファイルに出力する方法は、“付録E マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法”を参照されたい。
27	104	3.1.4 必要DD文 表3.5 必要DD文一覧	DD文：IMAGELIBのブロック長を変更 JSMHXXRFを追加	参照 → 15.20

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
28	106	3.1.4 必要DD文 14-1) JSMKHXRFB	(記述追加)	14-1) JSMKHXRFB DF-CROSSCOB のファイル 形式ファイルを指定する。 クロスリファレンス情報 出力機能でファイル出力の場合 に必要である。
29	110	3.2.1.1 クロス リファレンス情報 出力機能のジョブ フロー 図3.23 クロスリ ファレンス情報出 力機能のジョブフ ロー	(記述追加)	(記述内容の説明) 出力としてファイル{JSMKHXRFB} を追加 ドキュメント[JSMKHINF]と選択 になる。
30	124 127 128 130 131	4.2.2 日本語名 標辞書	(表記の変更)	(変更内容の説明) 変更前：ユティリティ 変更後：ユーティリティ
31	133	4.3 システム構成 図4.10 システム 構成図	システム構成図を変更	参照 → 15.21
32	134	4.4 プロセスフロ ー 図4.11 プロセス フロー	(記述追加)	(記述内容の説明) 出力としてドキュメントと並行に ファイルを追加
33	135	4.5 DASD容量 見積り 表4.5 DASD容量 見積り	DD名：JSMKHXRFBの容量見積りを追加	参照 → 15.22
34	138	4.6 制限事項	m) ドキュメントに出力される 文字数の制限 クロスリファレンス情報出 力機能では、利用者語の英数字 名及び日本語名は、COBOL の仕 様と同じ文字数を出力する。た だし、サブスキーマ情報出力機 能(対プログラム、DML 命令、 レコード)で、レコード名が一 意名で日本語の場合は、20文字 までを出力する。日本語変換出 力による日本語名の出力は、30 文字まで出力する。 マトリックス情報出力機能 では、英数字名、日本語名又は 日本語変換出力による日本語名 の出力は15文字までを出力す る。また、業務種別名及びコピー 種別名は英数字名は8文字、日 本語名は24文字まで出力する。	m) ドキュメントに出力される 文字数の制限 クロスリファレンス情報出 力機能では、利用者語の英数字 名および日本語名は、COBOL の 仕様と同じ文字数を出力する。 ただし、以下のドキュメントに ついては制限がある。 - レコード情報編集出力 (対プログラム) レコード名が日本語の 場合は、24文字までを出力する。 日本語変換後の日本語名は30文 字までを出力する。 - ファイル情報編集出力 (対プログラム) ファイル名が日本語の 場合は、24文字までを出力する。 日本語変換後の日本語名は30文 字までを出力する。 - サブスキーマ情報編集 出力(対プログラム、DML 命令、 レコード) レコード名が一 意名で 日本語の 場合は、20文字 までを 出力す る。日 本語 変換 後の 日 本 語 名 は 30 文 字 ま で 出 力 す る。 マ ト リ ク ス 情 報 出 力 機 能 で は、 英 数 字 名、 日 本 語 名 又 は 日 本 語 変 換 出 力 に よ る 日 本 語 名 の 出 力 は 15 文 字 ま で を 出 力 す る。 ま た、 業 務 種 別 名 お よ び コ ピ ー 種 別 名 の 英 数 字 名 は 8 文 字、 日 本 語 名 は 24 文 字 ま で を 出 力 す る。

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続き）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
35	139	4.7 注意事項	e) 7カラム目にハイフン“－”を持つ文の扱い － PROCEDURE DIVISIONでは予約語、数字及びリテラル項目以外は、データ項目として扱うために、7カラム目にハイフン“－”で語が分かれた場合は、それぞれデータとして扱う。	e) 7カラム目にハイフン“－”を持つ文の扱い 7カラム目にハイフン“－”で語が分かれた場合は、それぞれを一つの語として扱う。
36	140	4.8 解析対象	(記述追加)	－ コピー句名
37	140	4.8 解析対象 c) サブスキーマ名	－ GLOBALサブスキーマ名の判断 サブスキーマ名の後の文字列中に、～判断される。	－ GLOBALサブスキーマ名の判断 GLOBALサブスキーマの判断は行わない。
38	142	4.8 解析対象 g) データ項目名 (DATA DIVISION内)	DATA DIVISION内のデータ項目名は、02～49, 66, 77, 88のレベル番号から取得する(2～9は02～09と同様) データ項目レベル番号の判定方法を以下に示す。 1) 文字列の一番最初に、02～49, 66, 77, 88が出現した。 2) 前文がピリオドで終了している。 3) 文字列の二番目以降に、02～49, 66, 77, 88が出現した。 4) 1つ前の文字列がピリオドで終了している。	DATA DIVISION内のデータ項目名は、01～49, 66, 77, 88のレベル番号から取得する(1～9は01～09と同様) データ項目レベル番号の判定方法を以下に示す。 1) 文字列の一番最初に、01～49, 66, 77, 88が出現した。 2) 前文がピリオドで終了している。 3) 文字列の二番目以降に、02～49, 66, 88が出現した。 4) 一つ前の文字列がピリオドで終了している。
39	144	4.8 解析対象	(記述追加)	m) コピー句名 コピー句名は、COPY命令から取得する。図4.28に解析対象となるコピー句名を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">COPY コピー句名。</div> 図4.28 解析対象(コピー句名)
40	145	第5章 診断メッセージ	－ メッセージIDの付与基準を修正 JSMKC022-W, JSMKC028-U, JSMKC051-W, JSMKC060-U, JSMKC076-U, JSMKC101-W, JSMKC104-U, JSMKC111-Wの日本語詳細メッセージ内容を修正 JSMKC114-U, JSMKC115-Uを追加	参照 → 15.23
41	206	付C.2.1.2 実行時オプション 付図C.2 実行時オプション一覧	実行時オプションにCPYNEを追加	参照 → 15.24
42	207	付C.2.1.2.1 CSVファイル出力オプション 付表C.1 CSV形式ファイル出力の情報オプション	情報オプションにCPYNEを追加	参照 → 15.25
43	210	付C.2.1.3 必要DD文 付表C.3 情報オプション別必要DD文内容一覧	情報オプションにCPYNEを追加	参照 → 15.26
44	214	付C.2.2.2 CSV形式ファイルのレコード形式	コピー句情報編集出力(階層表示)を追加	参照 → 15.27

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続き）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
45	221	付C.2.2.2.5-1 コピー句情報編集出力(階層表示)のレコード形式	コピー句情報編集出力(階層表示)のレコード形式を追加 参照 → 15.28	
46	239	付C.2.3.2 CSV出力結果リスト	① クロスリファレンス情報出力情報名称が出力される。 ② クロスリファレンス情報出力情報の出力範囲が出力される。	① クロスリファレンス情報出力機能の情報編集名が出力される。 ② クロスリファレンス情報出力情報の出力範囲が出力される。ただし、情報編集名がコピー句階層表示の場合には、出力されない。
47	241	付C.2.4 制限事項	(記述追加)	－ CSV ファイルに出力される文字数の制限 c) CSV ファイルに出力される文字数の制限 サブキーマ情報編集出力機能(対プログラム, DML 命令, レコード)では、レコードが一意名で日本語の場合は、20文字までを出力する。
48	252	付D.2.2 ユーザルーチンへのプロフィール通知 付表D.1 パラメタの指定内容と説明	リターンコードの内容を変更 日付, 時刻の出力形式の説明を追加 参照 → 15.29	
49	—	付録E マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法	マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法を追加 参照 → 15.30	
50	—	付録F 日本語名標辞書作成支援プログラム	日本語名標辞書作成支援プログラムの説明を追加 参照 → 15.31	

15.1 図2.1-1 クロスリファレンス情報出力機能で共通するファイル仕様

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

① * SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 ② ③ ④
⑤ * データ項目情報 (出力範囲: プログラム) ↓
⑥ * ⑦ * ⑧ * 凡例: DATA=データ項目名, PROG=プログラム名 ↓
SEQ=0001 DATA=KWKC-ADDINF 利率規定加算変更 ↓
  PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
  PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
SEQ=0002 DATA=KWKC-CBL85VL 利率規定85年規格 ↓
  PROG=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
SEQ=0003 DATA=KWKC-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
  PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
  PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
  PROG=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
  PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
SEQ=0004 DATA=KWKC-CNDTION-CODE 利率規定コンディションコード ↓
  PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
  PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
SEQ=0005 DATA=KWKC-CPY-LIB-HENSEI 利率規定コピー展開領域編成 ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
SEQ=0006 DATA=KWKC-CPY-LIB-RECFMAT 利率規定コピー展開領域フォーマット ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.1-1 クロスリファレンス情報出力機能で共通するファイル仕様

- ① ツール名称, “ SIMPLIA/DF-CORSSCOB ” が出力される。
- ② ツールのバージョンレベルが出力される。
- ③ 実行した日付 (西暦年.月.日) が出力される。
- ④ 実行した時刻が出力される。
- ⑤ クロスリファレンス情報の種類と出力範囲が出力される。
- ⑥ 出力するデータキーワードの説明が出力される。
- ⑦ タイトルと明細の区切りが出力される。
- ⑧ 利用者が, 日本語名標辞書による日本語変換出力 (実行時オプションHANYO) を指定した場合, 英数字の横に日本語名が出力される。

15.2 図2.2-1 データ項目情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:15.39.56 ↓
* データ項目情報 (出力範囲:プログラム) ↓
* 凡例: DATA=データ項目名, PROG=プログラム名 ↓
* ↓
① SEQ=0001 DATA=KWKC-ADDINF 利率規定加算変更 ↓
  ③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
  SEQ=0002 DATA=KWKC-CBL85VL 利率規定85年規格 ↓
    PROG=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
  SEQ=0003 DATA=KWKC-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
    PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
    PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
  SEQ=0004 DATA=KWKC-CNDT ION-CODE 利率規定コンディションコード ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
  SEQ=0005 DATA=KWKC-CPY-LIB-HENSE I 利率規定コピー展開領域編成 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
  SEQ=0006 DATA=KWKC-CPY-LIB-RECFMAT 利率規定コピー展開領域フォーマット ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.2-1 データ項目情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のデータ項目名が出力される。
- ③ 検索元のデータ項目名を定義しているプログラム名が出力される。

15.3 図2.3-1 データ項目情報編集出力例 (対コピー句) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```
* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:15.57.15 ↓
* データ項目情報 (出力範囲:コピー句) ↓
* 凡例: DATA=データ項目名, COPY=コピー句名 ↓
* ↓
②
① SEQ=0001 DATA=SECENT-NAME 入金項目名称 ↓
  ③ COPY=K041REC 内部貯金入力 ↓
  SEQ=0002 DATA=SEI SABP 利率 ↓
    COPY=K091REC 営業入力 ↓
  SEQ=0003 DATA=SEI SABP-JTAI INF 利率自社情報 ↓
    COPY=K091REC 営業入力 ↓
  SEQ=0004 DATA=SUBPRO-NAME サブプロジェクト名称 ↓
    COPY=K014REC 決算日時 ↓
    COPY=K015REC 海外入力 ↓
    COPY=K041REC 内部貯金入力 ↓
  SEQ=0005 DATA=SUBPRO-SYUBETU-FLG サブプロジェクト種別マーク ↓
    COPY=K014REC 決算日時 ↓
    COPY=K015REC 海外入力 ↓
  SEQ=0006 DATA=SUBSCM-NAME サブチーム名称 ↓
    COPY=K051REC 外部貯金入力 ↓
  SEQ=0007 DATA=SYUBETU 種別 ↓
    COPY=K071REC 外部委託入力 ↓
    COPY=K081REC 諸費入力 ↓
    COPY=K091REC 営業入力 ↓
```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.3-1 データ項目情報編集出力例 (対コピー句) ファイル

- ① 検索元のカウン트가出力される .
- ② 検索元のデータ項目名が出力される .
- ③ 検索元のデータ項目名を定義しているコピー句名が出力される .

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:15.58.49 ↓
* データ項目情報 ↓
* (出力範囲: プログラム, ファイル, レコード, 親コピー句, 子コピー句) ↓
* 凡例: DATA=データ項目名, PROG=プログラム名, FILE=ファイル名 ↓
* REC =レコード名, OCPY=親コピー句名, KCPY=子コピー句名 ↓
* ↓
① ↓
① SEQ=0001 DATA=KMSGREC      メッセージレコード ↓
③ PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
④ FILE=KMSG-FILE      メッセージファイル ↓
⑤ REC =KMSGREC      メッセージレコード ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
  FILE=KMSG-FILE      メッセージファイル ↓
  REC =KMSGREC      メッセージレコード ↓
  ↓
SEQ=0005 DATA=K014REC      決算日時 ↓
  PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配1 ↓
  FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
  REC =K014REC      決算日時 ↓
  OCPY=K010REC      マスタ情報指定銘柄 ↓
  KCPY=K014REC      決算日時 ↓
  PROG=JSMK0190 貯金高更新 ↓
  FILE=K010-FILE      K010ファイル ↓
  REC =K014REC      決算日時 ↓
  OCPY=K010REC      マスタ情報指定銘柄 ↓
  KCPY=K014REC      決算日時 ↓
SEQ=0006 DATA=K015REC      海外入力 ↓
  PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配1 ↓
  FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
  REC =K015REC G 海外入力 ↓
  OCPY=K010REC      マスタ情報指定銘柄 ↓
  KCPY=K015REC      海外入力 ↓
  PROG=JSMK0190 貯金高更新 ↓
  FILE=K010-FILE      K010ファイル ↓
  REC =K015REC G 海外入力 ↓
  OCPY=K010REC      マスタ情報指定銘柄 ↓
  KCPY=K015REC      海外入力 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.4-1 データ項目情報編集出力例 (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
 - ② 検索元のデータ項目名が出力される .
 - ③ 検索元のデータ項目名を定義しているプログラム名が出力される .
 - ④ 検索元のデータ項目名を定義しているファイル名が出力される .
 - ⑤ 検索元のデータ項目名を定義しているレコード名が出力される .
 - ⑥ ④のファイルが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される .
 - ⑦ ⑤のレコードが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される .
 - ⑧ 検索元のデータ項目名を定義しているコピー句 (親コピー句) 名が出力される .
 - ⑨ ⑧のコピー句 (親コピー句) にCOPY命令で定義されたコピー句 (子コピー句) があり, そのコピー句中に検索元のデータ項目名を定義している場合にコピー句名が出力される .
- このコピー句の検索は8階層まで行われ, 9階層以降のコピー句にCOPY命令がある場合, 実行結果リストにその旨のメッセージが出力される .

15.5 図2.5-1 コピー句情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:16.15.49 ↓
* コピー句情報 (出力範囲:プログラム) ↓
* 凡例: COPY=コピー句名, PROG=プログラム名 ↓
* ↓
②
① SEQ=0001 COPY=KWK00001 住宅貸付一括利率修正 (月別変動) ↓
③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
PROG=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
PROG=JSMK0110 移管勘定系列利息分配 2 ↓
PROG=JSMK0120 移管勘定系列利息分配 3 ↓
PROG=JSMK0130 一般利率変更参照 ↓
PROG=JSMK0140 地方系列利率参照 ↓
PROG=JSMK0150 都市系列利率参照 ↓
PROG=JSMK0160 利率一覧出力 1 ↓
PROG=JSMK0170 利率一覧出力 2 ↓
PROG=JSMK0180 利率一覧出力 3 ↓
PROG=JSMK0190 貯金高更新 ↓
SEQ=0002 COPY=KWK00003 預金利率計算 ↓
PROG=JSMK0190 貯金高更新 ↓
SEQ=0003 COPY=KWK00004 金利手数料 ↓
PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
PROG=JSMK0120 移管勘定系列利息分配 3 ↓
PROG=JSMK0130 一般利率変更参照 ↓
PROG=JSMK0190 貯金高更新 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.5-1 コピー句情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元のコピー句名が出力される .
- ③ 検索元のコピー句名を定義しているプログラム名が出力される .

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:16.08.32 ↓
* コピー句情報 (出力範囲: プログラム, ファイル, レコード) ↓
* 凡例: COPY=コピー句名, PROG=プログラム名, ↓
*       FILE=ファイル名, REC =レコード名 ↓
* ↓
① SEQ=0001 COPY=KWK00010 利息配分 ↓
③ PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
   REC =KWKP-PRM-AREA 利率パラメタ領域 ↓
SEQ=0002 COPY=KWK00011 利率変動危険率 ↓
   PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配1 ↓
   REC =KWKA-KAISEKI-AREA ↓
SEQ=0003 COPY=KWK00012 利率差額 ↓
   PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
   REC =KWKE-JSMK0030-WKAREA ↓
SEQ=0004 COPY=KWK00013 利率転換 ↓
   PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
   REC =KWKF-SYSIN-KAISEKI-WKAREA ↓
SEQ=0005 COPY=K010REC マスタ情報指定銘柄 ↓
   PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配1 ↓
④ FILE=K010-FILE G⑤ K010ファイル ↓
   ⑥ REC =K011REC 貸出入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K012REC 貸出変更入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K014REC 決算日時 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K015REC G⑦ 海外入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K022REC 西地区入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K031REC 東地区入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K041REC 内部貯金入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K051REC 外部貯金入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K061REC 内部委託入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K071REC 外部委託入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K081REC 諸費入力 ↓
   FILE=K010-FILE G K010ファイル ↓
   REC =K091REC 営業入力 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.6-1 コピー句情報編集出力例 (対プログラム, ファイル, レコード) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元のコピー句名が出力される .
- ③ 検索元のコピー句名を定義しているプログラム名が出力される .
- ④ 検索元のコピー句名を定義しているファイル名が出力される .
- ⑤ ④のファイルが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される .
- ⑥ 検索元のコピー句名を定義しているレコード名が出力される .
- ⑦ ⑥のレコードが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される .

15.7 図2.7-1 コピー句情報編集出力例（階層表示）ファイル

【旧記述】

（記述追加）

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:16.16.59 ↓
* コピー句階層表示 ↓
* 凡例：COPY=コピー句名,2LVL= 2階層,3LVL= 3階層,4LVL= 4階層, ↓
* 5LVL= 5階層,6LVL= 6階層,7LVL= 7階層,8LVL= 8階層 ↓
* ↓
SEQ=0001 COPY=K010REC マスタ情報指定銘柄 ↓
2LVL=K011REC 貸出入力 ↓
3LVL=K031REC 東地区入力 ↓
4LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
5LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
6LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
2LVL=K012REC 貸出変更入力 ↓
2LVL=K014REC 決算日時 ↓
3LVL=K011REC 貸出入力 ↓
4LVL=K031REC 東地区入力 ↓
5LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
6LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
7LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
: ②
①SEQ=0004 COPY=K013REC 支店入力 ↓
③2LVL=K011REC 貸出入力 ↓
3LVL=K011REC 貸出入力 ↓
4LVL=K031REC 東地区入力 ↓
5LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
6LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
7LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K012REC 貸出変更入力 ↓
④3LVL=K014REC 決算日時 ↓
⑤4LVL=K011REC 貸出入力 ↓
⑥5LVL=K031REC 東地区入力 ↓
⑦6LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
⑧7LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
⑨8LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K015REC 海外入力 ↓
3LVL=K022REC 西地区入力 ↓
3LVL=K031REC 東地区入力 ↓
4LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
5LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
6LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K041REC 内部貯金入力 ↓
4LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
5LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K051REC 外部貯金入力 ↓
4LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K061REC 内部委託入力 ↓
3LVL=K071REC 外部委託入力 ↓
3LVL=K081REC 諸費入力 ↓
3LVL=K091REC 営業入力 ↓

```

注）“ ↓ ” はレコード（行）の終わり（改行）を示す。

図2.7-1 コピー句情報編集出力例（階層表示）ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のコピー句名が出力される。このコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名を
- ③に出力する。以下、同様に8階層まで（④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨）COPY命令によるコピー句名の出力を行う。

15.8 図2.8-1 レコード情報編集出力例（対プログラム）ファイル

【旧記述】

（記述追加）

【新記述】

```
* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:16.20.28 ↓
* レコード情報（出力範囲：プログラム） ↓
* 凡例：REC =レコード名,PROG=プログラム名 ↓
* ↓
②
①SEQ=0001 REC =KUIINREC      利息入力レコード ↓
   PROG=JSMK0070   ローン利息計算 ↓
SEQ=0002 REC =K015REC   G③海外入力 ↓
④PROG=JSMKC410   新利率変更 ↓
   PROG=JSMK0100   移管勘定系列利息分配1 ↓
   PROG=JSMK0190   貯金高更新 ↓
   PROG=JSMK0210   株上げ幅取得 ↓
   PROG=JSMK0220   有価証券関連利率変更 ↓
   PROG=JSMK0250   新興住宅地区開発計画 ↓
   PROG=JSMK0260   東部住宅地区 ↓
   PROG=JSMK0270   西部住宅地区 ↓
   PROG=JSMK0280   南部住宅地区 ↓
   PROG=JSMK0290   北部住宅地区 ↓
```

注） “ ↓ ” はレコード（行）の終わり（改行）を示す。

図2.8-1 レコード情報編集出力例（対プログラム）ファイル

- ① 検索元のカウントが出力される。
- ② 検索元のレコード名が出力される。
- ③ ②のレコードが、GLOBAL句で定義されている場合、“G”が出力される。
- ④ 検索元のレコード名を定義しているプログラム名が出力される。

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.18 TIME:16.43.19 ↓
* レコード情報(出力範囲:プログラム, ファイル, コピー句) ↓
* 凡例: REC =レコード名, PROG=プログラム名, ↓
*       FILE=ファイル名, COPY=コピー句名 ↓
* ↓
SEQ=0001 REC =KMSG-REC      メッセージレコード ↓
PROG=JSMKCSV      利率変更コンバート ↓
FILE=KMSG-FILE    メッセージファイル ↓
PROG=JSMK0010     貸付け業務利率変更 ↓
FILE=KMSG-FILE    メッセージファイル ↓
SEQ=0002 REC =KMSGREC      メッセージレコード ↓
PROG=JSMK0030     利率差額区分変更 ↓
FILE=KMSG-FILE    メッセージファイル ↓
PROG=JSMK0070     ローン利息計算 ↓
FILE=KMSG-FILE    メッセージファイル ↓
SEQ=0003 REC =KUIINREC     利息入力レコード ↓
PROG=JSMK0070     ローン利息計算 ↓
FILE=KUIIN-FILE   利息入力ファイル ↓
SEQ=0004 REC =KWKC-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
PROG=JSMKCSV      利率変更コンバート ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0010     貸付け業務利率変更 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0020     利率変更一覧 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0030     利率差額区分変更 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0060     国債利率変更依頼 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0070     ローン利息計算 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0080     ローン利率参照 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
PROG=JSMK0100     移管勘定系列利息分配1 ↓
COPY=KWK00001     住宅貸付一括利率修正(月別変動) ↓
①SEQ=0005 REC =K015REC②G③海外入力 ↓
④PROG=JSMKC410     新利率変更 ↓
FILE= 販101FSC集計ファイル ↓
COPY=K015REC      海外入力 ↓
FILE=KSRT-FILE    金利入力ファイル ↓
COPY=K015REC      海外入力 ↓
PROG=JSMK0100     移管勘定系列利息分配1 ↓
⑤FILE=K010-FILE G⑥K010ファイル ↓
⑦COPY=K010REC     マスタ情報指定銘柄 ↓
    
```

注) “ ↓ ” はレコード(行)の終わり(改行)を示す。

図2.9-1 レコード情報編集出力例 (対プログラム, ファイル, コピー句) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のレコード名が出力される。
- ③ ②のレコードが, GLOBAL句で定義されている場合, “G” が出力される。
- ④ 検索元のレコード名を定義しているプログラム名が出力される。
- ⑤ 検索元のレコード名を定義しているファイル名が出力される。
- ⑥ ⑤のファイルが, GLOBAL句で定義されている場合, “G” が出力される。
- ⑦ 検索元のレコード名を定義しているコピー句名が出力される。

15.10 図2.10-1 ファイル情報編集出力例(対プログラム)ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```
* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.47.12 ↓
* ファイル情報(出力範囲:プログラム) ↓
* 凡例: FILE= ②ファイル名, PROG=プログラム名 ↓
* ↓
① SEQ=0001 FILE=KMSG-FILE ②メッセージファイル ↓
  ③ PROG=JSMKCSV 利率変更コンバート ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
SEQ=0002 FILE=KSIN-FILE 利率入力ファイル ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
SEQ=0003 FILE=KUIN-FILE 利息入力ファイル ↓
  PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
SEQ=0004 FILE=K010-FILE ④G K 0 1 0 ファイル ↓
  PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配1 ↓
```

注) “ ↓ ” はレコード(行)の終わり(改行)を示す。

図2.10-1 ファイル情報編集出力例(対プログラム)ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のファイル名が出力される。
- ③ 検索元のファイル名を定義しているプログラム名が出力される。
- ④ ②のファイルが、GLOBAL句で定義されている場合、“G”が出力される。

15.11 図2.11-1 ファイル情報編集出力例 (対プログラム, レコード, コピー句) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.51.10 ↓
* ファイル情報 (出力範囲: プログラム, レコード, コピー句) ↓
* 凡例: FILE=ファイル名, PROG=プログラム名, ↓
*       REC =レコード名, COPY=コピー句名 ↓
* ↓
②
① SEQ=0001 FILE=KMSG-FILE   メッセージファイル ↓
③ PROG=JSMKCSV   利率変更コンパート ↓
④ REC =KMSG-REC   メッセージレコード ↓
  PROG=JSMK0010   貸付け業務利率変更 ↓
  REC =KMSG-REC   メッセージレコード ↓
  PROG=JSMK0030   利率差額区分変更 ↓
  REC =KMSGREC    メッセージレコード ↓
  PROG=JSMK0070   ローン利息計算 ↓
  REC =KMSGREC    メッセージレコード ↓
SEQ=0002 FILE=KSIN-FILE   利率入力ファイル ↓
  PROG=JSMK0070   ローン利息計算 ↓
  REC =KSINREC ↓
SEQ=0003 FILE=KUIN-FILE   利息入力ファイル ↓
  PROG=JSMK0070   ローン利息計算 ↓
  REC =KUINREC   利息入力レコード ↓
SEQ=0004 FILE=K010-FILE G⑤ K 0 1 0 ファイル ↓
  PROG=JSMK0100   移管勘定系列利息分配 1 ↓
  REC =K011REC   貸出入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K012REC   貸出変更入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K014REC   決算日時 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K015REC G⑥ 海外入力 ↓
  ⑦ COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K022REC   西地区入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K031REC   東地区入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K041REC   内部貯金入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K051REC   外部貯金入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K061REC   内部委託入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K071REC   外部委託入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K081REC   諸費入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓
  REC =K091REC   営業入力 ↓
  COPY=K010REC   マスタ情報指定銘柄 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.11-1 ファイル情報編集出力例 (対プログラム, レコード, コピー句) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のファイル名が出力される。
- ③ 検索元のファイル名を定義しているプログラム名が出力される。
- ④ 検索元のファイル名に定義しているレコード名が出力される。
- ⑤ ②のファイルが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される。
- ⑥ ④のレコードが, GLOBAL句で定義されている場合, “ G ” が出力される。
- ⑦ 検索元のファイル名を定義しているコピー句名が出力される。

15.12 図2.12-1 副プログラム情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.53.48 ↓
* 副プログラム情報 (出力範囲: プログラム) ↓
* 凡例: SPGM=副プログラム名, PROG=プログラム名 ↓
* ↓
① SEQ=0001 SPGM=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
  ③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  SEQ=0002 SPGM=JSMK0050 定期預金利率修正 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
  SEQ=0003 SPGM=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
  SEQ=0004 SPGM=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  SEQ=0005 SPGM=JSMK0090 ↓
    PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
  SEQ=0006 SPGM=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  SEQ=0007 SPGM=JSMK0110 移管勘定系列利息分配 2 ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
  SEQ=0008 SPGM=JSMK0120 移管勘定系列利息分配 3 ↓
    PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
  SEQ=0009 SPGM=JSMK0121 *④ ↓
    PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
  SEQ=0010 SPGM=JSMK0240 利率月別参照 ↓
    PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
    PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
  SEQ=0011 SPGM=JSMK0290 北部住宅地区 ↓
    PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.12-1 副プログラム情報編集出力例 (対プログラム) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元の副プログラム名が出力される .
- ③ 検索元の副プログラム名をCALLしているプログラム名が出力される .
- ④ ②の副プログラム名が一意名の場合に , “ * ” が出力される .

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.54.53 ↓
* 副プログラム情報 (出力範囲: プログラム, パラメタ) ↓
* 凡例: SPGM=副プログラム名, PROG=プログラム名, PARM=パラメタ ↓
* ↓
②
① SEQ=0001 SPM=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
④ PARM=KWK6-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
  PARM=KWK6-PRM-AREA 利率パラメタ領域 ↓
SEQ=0002 SPM=JSMK0050 定期預金利率修正 ↓
  PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-1 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-2 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-3 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-4 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-5 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-6 ↓
    PARM=KWK6-DVDPRM-7 ↓
  PROG=JSMK0080 ローン利率参照 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-1 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-2 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-3 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-4 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-5 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-6 ↓
    PARM=KWK2-DVDPRM-7 ↓
SEQ=0003 SPM=JSMK0060 国債利率変更依頼 ↓
  PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
    PARM=KWK6-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
    :
SEQ=0008 SPM=JSMK0120 移管勘定系列利息分配 3 ↓
  PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
    PARM=KPRP-ANZWK-AREA ↓
    PARM=KWK6-KAISEKI-AREA ↓
    PARM=KWK6-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
    PARM=KWK6-SYSIN-KAISEKI-AREA ↓
SEQ=0009 SPM=JSMK0121 *⑤ ↓
  PROG=JSMK0100 移管勘定系列利息分配 1 ↓
    PARM=KPRP-ANZWK-AREA ↓
    PARM=KWK6-KAISEKI-AREA ↓
    PARM=KWK6-CMN-AREA 利率規定利率作業領域 ↓
    PARM=KWK6-SYSIN-KAISEKI-AREA ↓
  
```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.13-1 副プログラム情報編集出力例 (対プログラム, パラメタ) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元の副プログラム名が出力される .
- ③ 検索元の副プログラム名をCALLしているプログラム名が出力される .
- ④ ②の副プログラム名をCALLしているプログラムが, USING 句で定義しているパラメタが出力される .
- ⑤ ②の副プログラム名が一意名の場合に, “ * ” が出力される .

15.14 図2.14-1 二次入口点情報編集出力例 (対一次入口点, 呼び出し元) ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.56.00 ↓
* 二次入口点情報 (出力範囲: 一次入口点, 呼び出し元) ↓
* 凡例: ENT =二次入口点名, MAIN=一次入口点名, CALL=呼び出し元名 ↓
* ↓
②
①SEQ=0001 ENT =ENT01 入力電文編集 1 ↓
③MAIN=JSMK0230 全国系列利率収益参照 ↓
④CALL=JSMK0190 S ⑤貯金高更新 ↓
CALL=JSMK0210 S 株上げ幅取得 ↓
CALL=JSMK0220 S 有価証券関連利率変更 ↓
CALL=JSMK0250 S 新興住宅地区開発計画 ↓
CALL=JSMK0260 S 東部住宅地区 ↓
CALL=JSMK0290 S 北部住宅地区 ↓
SEQ=0002 ENT =ENT02 入力電文編集 2 ↓
MAIN=JSMK0090 ↓
CALL=JSMK0080 S ローン利率参照 ↓
SEQ=0003 ENT =ENT03 入力電文編集 3 ↓
MAIN=JSMK0160 利率一覧出力 1 ↓
CALL=JSMK0150 S 都市系列利率参照 ↓
CALL=JSMK0170 S 利率一覧出力 2 ↓
CALL=JSMK0190 S 貯金高更新 ↓
CALL=JSMK0200 S ↓
CALL=JSMK0210 S 株上げ幅取得 ↓
CALL=JSMK0220 S 有価証券関連利率変更 ↓
CALL=JSMK0250 S 新興住宅地区開発計画 ↓
CALL=JSMK0260 S 東部住宅地区 ↓
CALL=JSMK0270 S 西部住宅地区 ↓
CALL=JSMK0280 S 南部住宅地区 ↓
CALL=JSMK0290 S 北部住宅地区 ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.14-1 二次入口点情報編集出力例 (対一次入口点, 呼び出し元) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元の二次入口点名 (ENTRY 命令で定義されている) が出力される .
- ③ 検索元の二次入口点名を定義している一次入口点名 (プログラム名) が出力される .
- ④ 検索元の二次入口点名または一次入口点名をCALLしている呼び出し元 (プログラム名) が出力される .
- ⑤ 検索元の二次入口点または一次入口点を④の呼び出し元がCALLしている時の形式を出力する .

以下にその意味を示す .

E : 二次入口点名を直接CALLしている場合

S : 二次入口点名を定義している一次入口点名をCALLしている場合

A : 二次入口点名を直接CALLかつ二次入口点名を定義している一次入口点名をCALLしている場合

15.15 図2.15-1 サブスキーマ情報編集出力例(対プログラム)ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```
* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.58.25 ↓
* サブスキーマ情報(出力範囲:プログラム) ↓
* 凡例:SSCH=サブスキーマ名,PROG=プログラム名 ↓
* ↓
  ②
① SEQ=0001 SSCH=SUBSC01 利息サブスキーマ1 ↓
  ③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0130 一般利率変更参照 ↓
    PROG=JSMK0140 地方系列利率参照 ↓
SEQ=0002 SSCH=SUBSC02 利息サブスキーマ2 ↓
  PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
  PROG=JSMK0250 新興住宅地区開発計画 ↓
SEQ=0003 SSCH=SUBSC03 利息サブスキーマ3 ↓
  PROG=JSMK0340 利率変動参照 ↓
```

注) “ ↓ ” はレコード(行)の終わり(改行)を示す。

図2.15-1 サブスキーマ情報編集出力例(対プログラム)ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のサブスキーマ名が出力される。
- ③ 検索元のサブスキーマ名を定義しているプログラム名が出力される。

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:09.59.23 ↓
* サブスキーマ情報 (出力範囲: プログラム, DML命令, レコード) ↓
* 凡例: SSCH=サブスキーマ名, PROG=プログラム名, ↓
*       DML =DML命令, REC =レコード名 ↓
* ↓
②
① SEQ=0001 SSCH=SUBSC01 利息サブスキーマ1 ↓
  ③ PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
    PROG=JSMK0130 一般利率変更参照 ↓
    PROG=JSMK0140 地方系列利率参照 ↓
  SEQ=0002 SSCH=SUBSC02 利息サブスキーマ2 ↓
    PROG=JSMK0020 利率変更一覧 ↓
    PROG=JSMK0250 新興住宅地区開発計画 ↓
  ④ DML =GET ANY ↓
    ⑤ REC =CP01-REC * ↓ ⑥⑦
      DML =GET ANY ↓
      REC =CP02-REC * ↓
      DML =GET NEXT ↓
      REC =CP01-REC * ↓
      DML =GET NEXT ↓
      REC =CP02-REC * ↓
  SEQ=0003 SSCH=SUBSC03 利息サブスキーマ3 ↓
    PROG=JSMK0340 利率変動参照 ↓
      DML =GET ANY ↓
      REC =KINFREC 情報レコード ↓
      DML =GET NEXT ↓
      REC =KINFREC 情報レコード ↓
      DML =MODIFY ↓
      REC =KINFREC 情報レコード ↓
      DML =STORE
      REC =KINFREC 情報レコード ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

図2.16-1 サブスキーマ情報編集出力例 (対プログラム, DML命令, レコード) ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される .
- ② 検索元のサブスキーマ名が出力される .
- ③ 検索元のサブスキーマ名を定義しているプログラム名が出力される .
- ④ ③のプログラムに記述されているDML 命令が出力される .
- ⑤ ④のDML 命令に指定されているレコード名が出力される .
- ⑥ ⑤のレコード名が一意名の場合, “ * ” が出力される .
- ⑦ ⑤のレコード名がリスト形態の場合, “ L ” が出力される .

15.17 図2.17-1 DD名情報編集出力例(対プログラム,ファイル)ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

* SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20 DATE:2013.06.19 TIME:10.00.24 ↓
* DD名情報(出力範囲:DD名,プログラム,ファイル) ↓
* 凡例:DDN =DD名,PROG=プログラム名,FILE=ファイル名 ↓
* ↓
②
①SEQ=0001 DDN =JSMHK010 ↓
③PROG=JSMK0210 株上げ幅取得 ↓
④FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0220 有価証券関連利率変更 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0250 新興住宅地区開発計画 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0260 東部住宅地区 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0270 西部住宅地区 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0280 南部住宅地区 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
PROG=JSMK0290 北部住宅地区 ↓
FILE=K010-FILE K010ファイル ↓
SEQ=0002 DDN =SYSIN ↓
PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
FILE=KSIN-FILE 利率入力ファイル ↓
SEQ=0003 DDN =SYSPRINT ↓
PROG=JSMK0010 貸付け業務利率変更 ↓
FILE=KMSG-FILE メッセージファイル ↓
PROG=JSMK0030 利率差額区分変更 ↓
FILE=KMSG-FILE メッセージファイル ↓
PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
FILE=KMSG-FILE メッセージファイル ↓
PROG=JSMK0240 利率月別参照 ↓
FILE=KMSG-FILE メッセージファイル ↓
SEQ=0004 DDN =UIN ↓
PROG=JSMK0070 ローン利息計算 ↓
FILE=KUIN-FILE 利率入力ファイル ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード(行)の終わり(改行)を示す。

図2.17-1 DD名情報編集出力例(対プログラム,ファイル)ファイル

- ① 検索元のカウンタが出力される。
- ② 検索元のDD名が出力される。
- ③ 検索元のDD名を定義しているプログラム名が出力される。
- ④ 検索元のDD名を定義しているSELECT句のファイル名が出力される。

15.18 図3.2 クロスリファレンス情報出力機能オプション

【旧記述】

$$\text{XREF}(\text{JOHO}=\{\text{情報オプション}\}, \text{LINE}=\{\frac{62}{n}\})$$

図3.2 クロスリファレンス情報出力機能オプション

【新記述】

$$\text{XREF}(\text{JOHO}=\{\text{情報オプション}\} \left[, \left\{ \begin{array}{l} \text{LINE}=\{\frac{62}{n}\} \\ \text{FILE} \end{array} \right\} \right])$$

図3.2 クロスリファレンス情報出力機能オプション

15.19 LINEオプション説明

【旧記述】

$$\text{LINE}=\{\frac{62}{n}\}$$

利用者のプリンタ規格に合う帳票出力を行うため、～

～

当オプションを省略した場合は、“62”が指定されたものとみなす。

【新記述】

$$\left[, \left\{ \begin{array}{l} \text{LINE}=\{\frac{62}{n}\} \\ \text{FILE} \end{array} \right\} \right]$$

クロスリファレンス情報をドキュメントで出力するかまたはファイルで出力するかを指定する。

ドキュメントで出力する場合は、“LINE=n”を指定する。nは利用者のプリンタ規格に合う帳票出力を行うための1ページの帳票印字ライン数の値で15～62の数字を指定する。ドキュメントは、nの値で改ページする。

ファイルで出力する場合は、“FILE”を指定する。

当オプションを省略した場合は、“LINE=62”が指定されたものとみなす。

【旧記述】

表3.5 必要DD文一覧

DD文	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
IMAGELIB	PO	U	0	26793 (6144)	DASD
JSMHKINF	PS	(注2)	(注2)	(注2)	PR

()内の値: FSP, XSPの値

PS : 順データセット

注1) ISAMはFSP, XSPのみ可.

注2) “表3.6 情報オプション別必要DD文内容一覧”を参照されたい.

表3.6 情報オプション別必要DD文内容一覧

情報オプション	フォームオー パレイ識別名	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長
---------	------------------	----	--------	-------	-------

【新記述】

表3.5 必要DD文一覧

DD文	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
IMAGELIB	PO	U	0	6144	DASD
JSMHKINF	PS	(注2)	(注2)	(注2)	PR
JSMHKXRF	PS	(注3)	(注3)	(注3)	DASD

PS : 順データセット

注1) ISAMはXSPのみ可.

注2) “表3.6 情報オプション別JSMHKINF内容一覧”を参照されたい.

注3) “表3.6-1 情報オプション別JSMHKXRF内容一覧”を参照されたい.

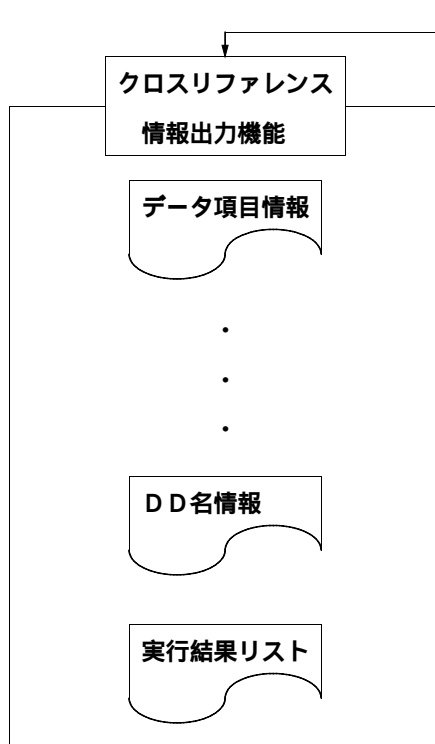
表3.6 情報オプション別 J S M H K I N F 内容一覧

情報オプション	フォームオー バレイ識別名	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長
---------	------------------	----	--------	-------	-------

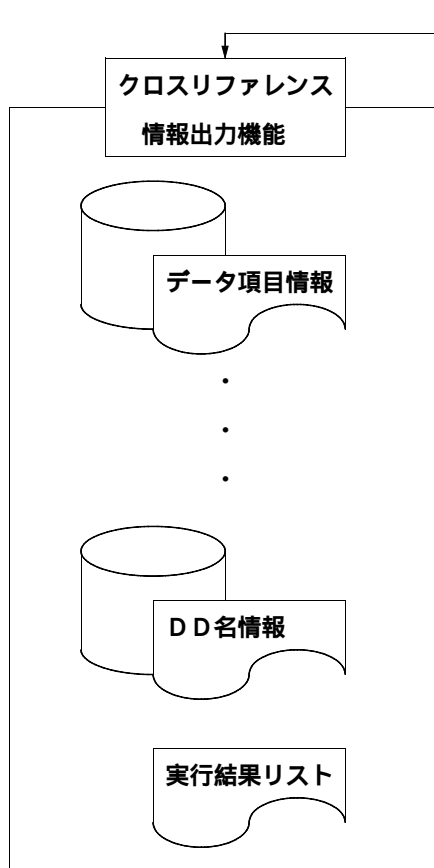
表3.6-1 情報オプション別 J S M H K X R F 内容一覧

情報オプション	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長
DATPR	PS	V, VB	112	レコード長+4以上
DATCP	PS	V, VB	112	レコード長+4以上
DATAL	PS	V, VB	112	レコード長+4以上
CPYPR	PS	V, VB	90	レコード長+4以上
CPYAL	PS	V, VB	111	レコード長+4以上
CPYNE	PS	V, VB	95	レコード長+4以上
RECP R	PS	V, VB	114	レコード長+4以上
RECAL	PS	V, VB	114	レコード長+4以上
FILPR	PS	V, VB	114	レコード長+4以上
FILAL	PS	V, VB	114	レコード長+4以上
SUBPR	PS	V, VB	92	レコード長+4以上
SUBAL	PS	V, VB	107	レコード長+4以上
ENT	PS	V, VB	90	レコード長+4以上
SBSPR	PS	V, VB	94	レコード長+4以上
SBSAL	PS	V, VB	94	レコード長+4以上
DDNPR	PS	V, VB	107	レコード長+4以上

【旧記述】



【新記述】



【旧記述】

表4.5 DASD容量見積り

ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

【新記述】

表4.5 DASD容量見積り

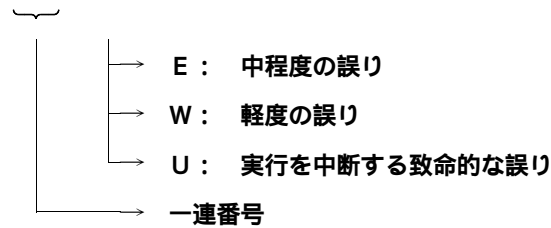
ファイル名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
情報編集出力 ファイル	JSMHKXRF	PS	VB	各ドキュメントによって異なる。前述“表3.6-1”を参照	レコード長 + 4 以上	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実行時オプションおよびSYSIN 制御文で指定した条件に該当する COBOL 利用者語の総数 $\left[\frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] * n$ </div>

15.23 第5章 診断メッセージ

【旧記述】

- メッセージIDの付与基準

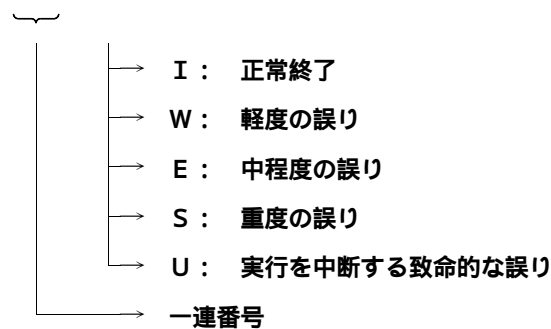
J S M K C - X



【新記述】

- メッセージIDの付与基準

J S M K C - X



【旧記述】

JSMKC022-W

GEMの形式に誤りがあります(ソースライブラリ)。メンバ名=@1

【新記述】

JSMKC022-W

GEMのレコード形式に誤りがあります(ソースライブラリ)。メンバ名=@1

【旧記述】

JSMKC028-U

指定された日本語名標辞書のレコード内の形式が正しくありません。

【新記述】

JSMKC028-U

指定された日本語名標辞書のレコード内の形式が正しくありません。DD(FD)名=@1

【旧記述】

JSMKC051-W

プログラム名がありません。処理メンバ名,メンバ名=@1

【新記述】

JSMKC051-W

プログラム名がありません。処理メンバ名=@1

【旧記述】

JSMKC060-U

実行時オプションCASE及びG = n : mの指定に誤りがあります。

【新記述】

JSMKC060-U

実行時オプションCASE及びC = n : mの指定に誤りがあります。

【旧記述】

JSMKC076-U

動的情報に失敗しました。エラーコード、情報コード、DD(FD)名=@1, @2, @3

[メッセージの意味]

動的情報収集処理でエラーが発生した。@1はエラーコード、@2は情報コード、@3はエラーとなったDD(FD)名。

【新記述】

JSMKC076-U

動的情報収集に失敗しました。エラーコード、情報コード、DD(FD)名=@1, @2, @3

[メッセージの意味]

動的情報収集処理でエラーが発生した。@1はエラーコード、@2は情報コード、@3はエラーとなったDD(FD)名。DD(FD)文の定義がない場合、エラーコード：0438、情報コード：0000が出力される。

【旧記述】

JSMKC101-W

コピーライブラリ中に該当メンバがありません。メンバ名=@1

【新記述】

JSMKC101-W

コピーライブラリ中に該当するメンバが存在しません。メンバ名=@1

【旧記述】

JSMKC104-U

種別テーブルが存在しません。

【新記述】

JSMKC104-U

種別テーブルの形式に誤りがあるか、種別テーブルが存在しません。

【旧記述】

JSMKC111-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用(更新)中の為処理できません。処理メンバ名、コピー句名=@1, @2

【新記述】

JSMKC111-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用(更新)中の為処理できません。メンバ名、コピー句名=@1, @2

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

JSMKC114-U

実行時オプションFILEの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

PARMパラメタの実行時オプションFILEの指定に誤りがある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタに実行時オプションを正しく指定しなおして、再度実行する。

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

JSMKC115-U

指定されたファイル名のファイル編成又はレコード形式が正しくありません。DD(FD)名
=@1

[メッセージの意味]

指定されたファイル名のファイル編成またはレコード形式が本ツールで使用可能な形式ではない。

@1はエラーとなったファイルのDD(FD)名。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

ファイル編成またはレコード形式を正しい形式に指定しなおして、再度実行する。

15.24 付図C.2 実行時オプション一覧

【旧記述】

分類	実行時オプション
C S V 形 式 フ ァ イ ル 出 カ オ プ シ ヨ ン	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> DATPR DATCP DATAL CPYPR CPYAL RECPR RECAL FILPR FILAL SUBPR SUBAL ENT SBSPR SBSAL DDNPR </div> <div style="margin: 0 20px;">[, {</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> TITLE NOTITLE </div> <div style="margin: 0 20px;">}]</div> </div>

付図C.2 実行時オプション一覧

【新記述】

分類	実行時オプション	
C S V 形 式 フ ァ イ ル 出 力 オ プ シ ヨ ン	DATPR	[, { <u>TITLE</u> }] [, { NOTITLE }]
	DATCP	
	DATA L	
	CPYPR	
	CPYAL	
	CPYNE	
	RECPR	
	RECAL	
	FILPR	
	FILAL	
	SUBPR	
	SUBAL	
	ENT	
	SBSPR	
SBSAL		
DDNPR		

付図C.2 実行時オプション一覧

15.25 付表C.1 CSV 形式ファイル出力の情報オプション

【旧記述】

付表C.1 CSV 形式ファイルの情報オプション

情報編集出力名 (出力内容)	情報 オプション	出力範囲
データ項目情報編集出力 (データ項目の変更による 影響範囲及び使用状況)	DATPR	対プログラム
	DATCP	対コピー句
	DATAL	対プログラム, ファイル, レコード, コピー句
コピー句情報編集出力 (コピー句の変更による 影響範囲及び使用状況)	CPYPR	対プログラム
	CPYAL	対プログラム, ファイル, レコード
レコード情報編集出力 (レコードの変更による 影響範囲及び使用状況)	RECPR	対プログラム
	RECAL	対プログラム, ファイル, コピー句
ファイル情報編集出力 (ファイルの変更による 影響範囲及び使用状況)	FILPR	対プログラム
	FILAL	対プログラム, ファイル, コピー句
副プログラム情報編集出力 (副プログラムの変更による 影響範囲及び使用状況)	SUBPR	対プログラム
	SUBAL	対プログラム, パラメタ
二次入口点情報編集出力 (二次入口点の変更による 影響範囲及び使用状況)	ENT	対一次入口点, 呼び出し元
サブスキーマ情報編集出力 (副プログラムの変更による 影響範囲及び使用状況)	SBSPR	対プログラム
	SBSAL	対プログラム, DML命令, レコード
DD名情報編集出力 (DD名の変更による 影響範囲及び使用状況)	DDNPR	対プログラム, ファイル

【新記述】

付表C.1 CSV 形式ファイルの情報オプション

情報編集出力名 (出力内容)	情報 オプション	出力範囲
データ項目情報編集出力 (データ項目の変更による 影響範囲および使用状況)	DATPR	対プログラム
	DATCP	対コピー句
	DATAL	対プログラム, ファイル, レコード, コピー句
コピー句情報編集出力 (コピー句の変更による 影響範囲および使用状況)	CPYPR	対プログラム
	CPYAL	対プログラム, ファイル, レコード
	CPYNE	階層表示
レコード情報編集出力 (レコードの変更による 影響範囲および使用状況)	RECPR	対プログラム
	RECAL	対プログラム, ファイル, コピー句
ファイル情報編集出力 (ファイルの変更による 影響範囲および使用状況)	FILPR	対プログラム
	FILAL	対プログラム, レコード, コピー句
副プログラム情報編集出力 (副プログラムの変更による 影響範囲および使用状況)	SUBPR	対プログラム
	SUBAL	対プログラム, パラメタ
二次入口点情報編集出力 (二次入口点の変更による 影響範囲および使用状況)	ENT	対一次入口点, 呼び出し元
サブスキーマ情報編集出力 (副プログラムの変更による 影響範囲および使用状況)	SBSPR	対プログラム
	SBSAL	対プログラム, DML命令, レコード
DD名情報編集出力 (DD名の変更による 影響範囲および使用状況)	DDNPR	対プログラム, ファイル

15.26 付表C.3 情報オプション別必要DD文内容一覧

【旧記述】

付表C.3 情報オプション別必要DD文内容一覧

情報オプション	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
DATPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
DATCP	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
DATAL	PS	V,VB	223	レコード長+4以上	DASD
CPYPR	PS	V,VB	31	レコード長+4以上	DASD
CPYAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
RECPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
RECAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
FILPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
FILAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
SUBPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
SUBAL	PS	V,VB	140	レコード長+4以上	DASD
ENT	PS	V,VB	55	レコード長+4以上	DASD
SBSPR	PS	V,VB	104	レコード長+4以上	DASD
SBSAL	PS	V,VB	104	レコード長+4以上	DASD
DDNPR	PS	V,VB	86	レコード長+4以上	DASD

【新記述】

付表C.3 情報オプション別 JSMHKCSV 内容一覧

情報オプション	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
DATPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
DATCP	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
DATAL	PS	V,VB	223	レコード長+4以上	DASD
CPYPR	PS	V,VB	31	レコード長+4以上	DASD
CPYAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
CPYNE	PS	V,VB	79	レコード長+4以上	DASD
RECPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
RECAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
FILPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
FILAL	PS	V,VB	151	レコード長+4以上	DASD
SUBPR	PS	V,VB	77	レコード長+4以上	DASD
SUBAL	PS	V,VB	140	レコード長+4以上	DASD
ENT	PS	V,VB	55	レコード長+4以上	DASD
SBSPR	PS	V,VB	104	レコード長+4以上	DASD
SBSAL	PS	V,VB	104	レコード長+4以上	DASD
DDNPR	PS	V,VB	86	レコード長+4以上	DASD

15.27 CSV形式ファイルのレコード形式

【旧記述】

CSV 形式ファイルのレコード形式について、次の事項を説明する。

- － データ項目情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － データ項目情報編集出力（対コピー句）のレコード形式
- － データ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）のレコード形式
- － コピー句情報編集出力（対プログラム名）のレコード形式
- － コピー句情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード）のレコード形式
- － レコード情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － レコード情報編集出力（対プログラム、ファイル、コピー句）のレコード形式
- － ファイル情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － ファイル情報編集出力（対プログラム、レコード、コピー句）のレコード形式
- － 副プログラム情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － 副プログラム情報編集出力（対プログラム、パラメタ）のレコード形式
- － 二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）のレコード形式
- － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML 命令、レコード）のレコード形式
- － DD名情報編集出力（対プログラム、ファイル）のレコード形式

【新記述】

CSV 形式ファイルのレコード形式について、次の事項を説明する。

- － データ項目情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － データ項目情報編集出力（対コピー句）のレコード形式
- － データ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）のレコード形式
- － コピー句情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － コピー句情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード）のレコード形式
- － コピー句情報編集出力（階層表示）のレコード形式
- － レコード情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － レコード情報編集出力（対プログラム、ファイル、コピー句）のレコード形式
- － ファイル情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － ファイル情報編集出力（対プログラム、レコード、コピー句）のレコード形式
- － 副プログラム情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － 副プログラム情報編集出力（対プログラム、パラメタ）のレコード形式
- － 二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）のレコード形式
- － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム）のレコード形式
- － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML 命令、レコード）のレコード形式
- － DD名情報編集出力（対プログラム、ファイル）のレコード形式

15.28 付C.2.2.2.5-1 コピー句情報編集出力（階層表示）のレコード形式

【旧記述】

（記述追加）

【新記述】

情報オプション"CPYNE" を指定した場合のレコード形式を示す。

1) タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図C.18-1に示す。

コピー句名，2階層，3階層，4階層，5階層，6階層，7階層，8階層

付図C.18-1 コピー句情報編集出力（階層表示）のタイトルレコード

2) ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図C.18-2に示し説明する。

① コピー句名 1～8バイト	② 区切り 1バイト	③ 2階層目のコピー句名 0～8バイト	④ 区切り 1バイト
⑤ 3階層目のコピー句名 0～8バイト	⑥ 区切り 1バイト	⑦ 4階層目のコピー句名 0～8バイト	⑧ 区切り 1バイト
⑨ 5階層目のコピー句名 0～8バイト	⑩ 区切り 1バイト	⑪ 6階層目のコピー句名 0～8バイト	⑫ 区切り 1バイト
⑬ 7階層目のコピー句名 0～8バイト	⑭ 区切り 1バイト	⑮ 8階層目のコピー句名 0～8バイト	

付図C.18-2 コピー句情報編集出力（階層表示）のドキュメントレコード

- ① 検索元のコピー句名が出力される。
- ② “，” が出力される。
- ③ 検索元のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて2階層目となる。
- ④ “，” が出力される。
- ⑤ 2階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて3階層目となる。
- ⑥ “，” が出力される。
- ⑦ 3階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて4階層目となる。
- ⑧ “，” が出力される。

- ⑨ 4階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて5階層目となる。
- ⑩ “ , ” が出力される。
- ⑪ 5階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて6階層目となる。
- ⑫ “ , ” が出力される。
- ⑬ 6階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて7階層目となる。
- ⑭ “ , ” が出力される。
- ⑮ 7階層目のコピー句がCOPY命令で指定しているコピー句名が出力される。
検索元のコピー句からみて8階層目となる。
このコピー句の検索は、8階層まで行われ9階層以降のコピー句にCOPY命令がある場合、
DF-CROSSCOB クロスリファレンス情報出力機能の実行結果リストにその旨のメッセージ
が出力されている。

CSV 形式ファイルの出力例を付図C.18-3に示す。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----
コピー句名, 2階層, 3階層, 4階層, 5階層, 6階層, 7階層, 8階層 ↓
K010REC,K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K010REC,K012REC,,,,, ↓
K010REC,K014REC,K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC, ↓
K010REC,K015REC,,,,, ↓
K010REC,K022REC,,,,, ↓
K010REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K010REC,K041REC,K051REC,K061REC,,,, ↓
K010REC,K051REC,K061REC,,,, ↓
K010REC,K061REC,,,,, ↓
K010REC,K071REC,,,,, ↓
K010REC,K081REC,,,,, ↓
K010REC,K091REC,,,,, ↓
K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K012REC,,,,, ↓
K013REC,K010REC,K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC, ↓
K013REC,K010REC,K012REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K014REC,K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC ↓
K013REC,K010REC,K015REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K022REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K013REC,K010REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K013REC,K010REC,K051REC,K061REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K061REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K071REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K081REC,,,, ↓
K013REC,K010REC,K091REC,,,, ↓
K014REC,K011REC,K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K015REC,,,,, ↓
K022REC,,,,, ↓
K031REC,K041REC,K051REC,K061REC,, ↓
K041REC,K051REC,K061REC,,,, ↓
K051REC,K061REC,,,, ↓
K061REC,,,,, ↓
K071REC,,,,, ↓
K081REC,,,,, ↓
K091REC,,,,, ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図C.18-3 コピー句情報編集出力 (階層表示) のCSV 形式ファイル出力例

15.29 付表D.1 パラメタの指定内容と説明

【旧記述】

付表D.1 パラメタの指定内容と説明

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		ユーザーテンで設定する領域
05	修正日付	X(08)	CROSSCOBの修正日付
05	修正時間	X(08)	CROSSCOBの修正時刻
05	実行日付	X(08)	JSMKPRF1の実行日付
05	実行時刻	X(08)	JSMKPRF1の実行時刻
05	リターンコード	9(02)	MSP:00,XSP:10 ...正常 MSP:08,XSP:30 ...依頼パラメタ不当
05	FILLER	X(08)	

【新記述】

付表D.1 パラメタの指定内容と説明

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		ユーザーテンで設定する領域
05	修正日付	X(08)	CROSSCOBの修正日付 (yy.mm.dd)
05	修正時間	X(08)	CROSSCOBの修正時刻 (hh.mm)
05	実行日付	X(08)	JSMKPRF1の実行日付 (yy.mm.dd)
05	実行時刻	X(08)	JSMKPRF1の実行時刻 (hh.mm.ss)
05	リターンコード	9(02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X(08)	

15.30 付録E マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

付録E

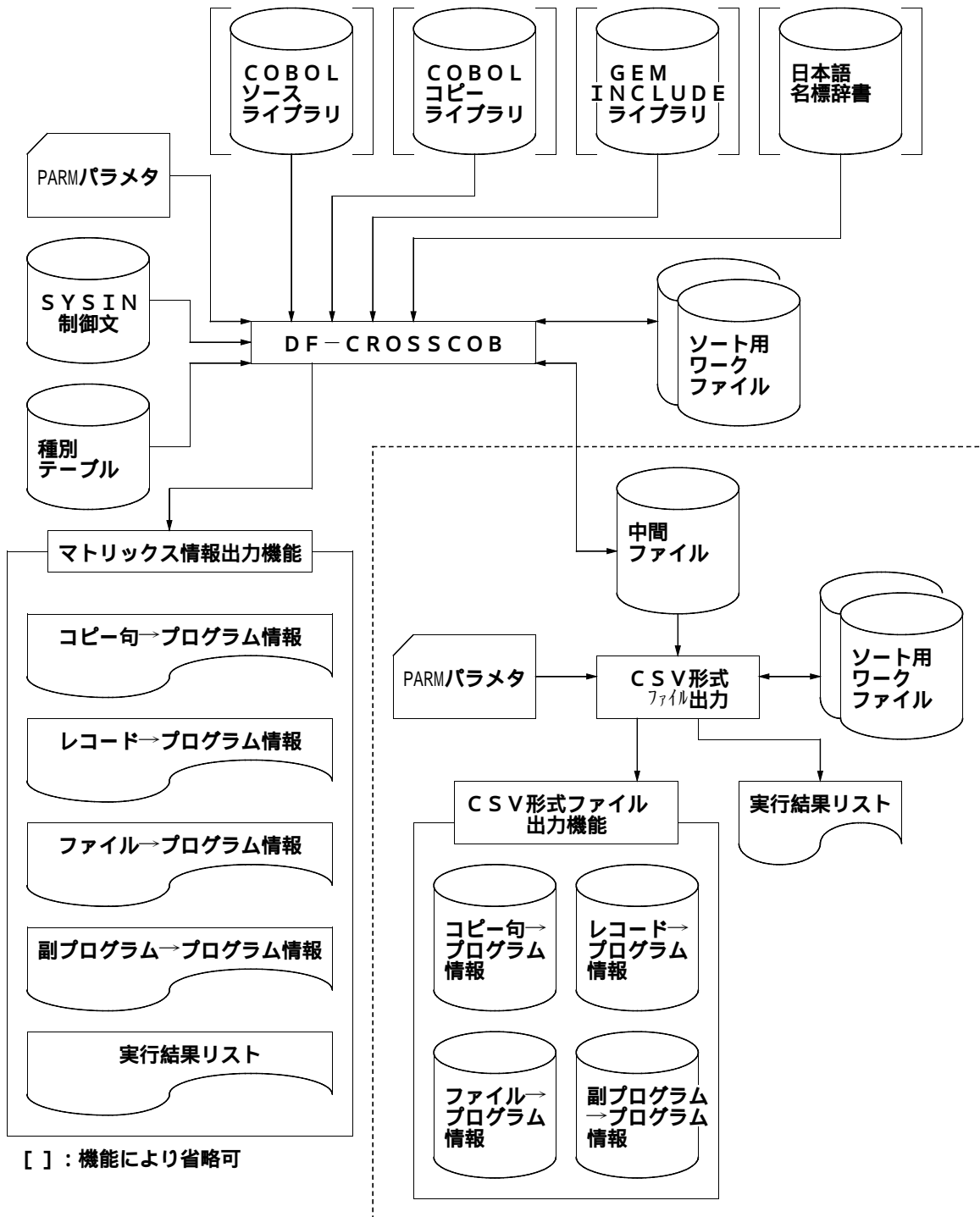
マトリックス形式ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法

DF-CROSSCOB のマトリックス形式ドキュメントのCSV 形式ファイル作成機能を説明する。

- － 機能概要
- － 使用手引き

DF-CROSSCOB のマトリックス情報出力機能を実行した際に作成された中間ファイルを入力として、CSV 形式ファイル出力プログラムを実行させることにより、マトリックス形式ドキュメントが作成できるクロス集計用のCSV 形式（カンマ区切）でファイル出力することが可能である。

付図E.1 にマトリックス形式ドキュメントのCSV 形式ファイル作成のシステム構成図を示す。



付図E.1 マトリックス形式ドキュメントのCSV 形式ファイル作成のシステム構成図

CSV 形式ファイル出力機能にあたって次の事項を説明する。

ジョブ制御文

CSV 形式ファイルの形式

実行結果リスト

制限事項

使用例

付E.2.1 ジョブ制御文

CSV 形式ファイル出力機能のジョブ制御文について、次の事項を説明する。

- － EXEC文
- － 実行時オプション
- － 必要DD文
- － DASD容量見積り

付E.2.1.1 EXEC 文

CSV 形式ファイル出力機能を実行させるためのジョブ制御文である。次の事項を指定する。

- － プログラム名
- － リージョンサイズ
- － PARM/パラメタ

1) プログラム名

CSV 形式ファイル出力機能の呼出しプログラム名 “ JSMKCSV ” を指定する。

2) リージョンサイズ

リージョンサイズは、1024K バイトを指定する。

3) PARM/パラメタ

PARM/パラメタに各機能を選択する実行時オプションを指定する。

実行時オプションの記述形式と意味については、“ 付E.2.1.2 実行時オプション ” を参照されたい。

付E.2.1.2 実行時オプション

PARM/パラメタに指定する実行時オプションは、実行する機能の選択などを指定する。

PARM/パラメタに指定する実行時オプションの記述形式の一覧を付図E.2 に示す。

なお、以降の説明で次に示す括弧は、それぞれ次の意味を持つ。

- － 大括弧 [] で囲んである部分は、省略することができるオプションである。
- － 中括弧 { } で囲んである部分は、そのうちいずれかを選択することを示す。省略した場合は下線のものを選択したとみなされる。

分 類	実行時オプション
C 出 S 力 V オ 形 プ 式 シ フ ヨ ァ ン イ ル	$\left\{ \begin{array}{l} \text{PCPY} \\ \text{PREC} \\ \text{PFIL} \\ \text{PSUB} \end{array} \right\}, \text{CASE} = \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{array} \right\} [, \left\{ \begin{array}{l} \text{TITLE} \\ \text{NOTITLE} \end{array} \right\}]$

付図E.2 実行時オプション一覧

付E.2.1.2.1 CSV形式ファイル出力オプション

CSV形式ファイル出力機能の各情報出力を実行するための実行時オプションを付図E.3に示し、各実行時オプションの意味を説明する。

情報オプション, 入力形式オプション [, TITLEオプション]

付図E.3 CSV形式ファイル出力オプション

・ 情報オプション

CSV形式ファイル出力機能の情報出力の指定を行う。情報オプションは、DF-CROSSCOBマトリックス情報出力機能の情報編集出力の情報オプションと同じものを指定する。情報オプションの意味を次の付表E.1に示す。

付表E.1 CSV形式ファイル出力の情報オプション

情報編集出力名	情報 オプション	出力内容
コピー句→プログラム情報編集出力	P C P Y	プログラムおよびコピー句に定義されているコピー句名と、プログラム名の関連を出力する。
レコード→プログラム情報編集出力	P R E C	プログラムおよびコピー句に定義されているレコード名と、プログラム名の関連を出力する。
ファイル→プログラム情報編集出力	P R I L	プログラムおよびコピー句に定義されているファイル名と、プログラム名の関連を出力する。
副プログラム→ プログラム情報編集出力	P S U B	プログラムおよびコピー句に出現する副プログラム名と、プログラム名の関連を出力する。

・ 入力形式オプション

$$C A S E = \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{array} \right\}$$

CSV形式ファイル出力機能の入力形式の指定を行う。入力形式オプションは、DF-CROSSCOBのマトリックス情報出力機能の情報編集出力の出力形式と同じものを指定する。

入力形式オプションの意味を次に示す。

- 1：業務名種別単位出力の情報を入力とする。
- 2：英数字名順出力の情報を入力とする。
- 3：コピー句種別名単位出力の情報を入力とする。コピー句→プログラム情報編集出力の場合に指定できる。その他の情報オプションで指定された場合は、“2：英数字名順出力情報入力”を指定したものとみなす。
- 4：業務種別名単位+コピー句種別名単位出力の情報を入力とする。コピー句→プログラム情報編集出力の場合に指定できる。その他の情報オプションで指定された場合は、“2：英数字名順出力情報入力”を指定したものとみなす。

・ TITLE オプション

```
{
  TITLE
}
NOTITLE
```

CSV 形式ファイル情報出力時にタイトルレコードを出力するか、出力しないかの指定を行う。

TITLE : タイトルレコードを出力する。

NOTITLE : タイトルレコードを出力しない。

付E.2.1.3 必要DD文

CSV 形式ファイル出力機能を実行する際のジョブ制御文に必要なDD文の一覧を付表E.2 に示し、各DD文の内容を説明する。

付表E.2 必要DD文一覧

DD名	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
J O B L I Bまたは S T E P L I B	P O	U	0	————	D A S D
J O B C A Tまたは S T E P C A T	V S A M	詳細は各システムの“ V S A M機能説明書 ” を参照されたい。			D A S D
J S M H K 0 1 0	P S	V , V B	2 6 5	レコード長+ 4以上	D A S D
S O R T W K n n	P S	————	——	————	D A S D
S Y S P R I N T	P S	F A , F B A	2 5 1	2 5 1 × n	P R
J S M H K C S V	P S	V , V B	(注)	(注)	D A S D
S Y S O U T	P S	F , F B	1 2 1 以上	レコード長× n	D A S D
	P S	V B A	1 2 5 以上	レコード長+ 4以上	P R

P S : 順データセット

P O : 区分データセット

V S A M : V S A Mデータセット

D A S D : 大記憶装置

P R : 印刷装置

注) : “付表E.3 情報オプション別必要DD文内容一覧”を参照されたい。

付表E.3 情報オプション別必要DD文内容一覧

情報 オプション	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
PCPY	PS	V, VB	70	レコード長+4以上	DASD
PREC	PS	V, VB	59	レコード長+4以上	DASD
PFIL	PS	V, VB	59	レコード長+4以上	DASD
P SUB	PS	V, VB	66	レコード長+4以上	DASD

1) JOBLIB(PRGLIB)またはSETPLIB

CSV 形式ファイル出力機能および必要プログラムのロードモジュールがインストールされているデータセットを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。

2) JOBCATまたはSTEPCAT

ユーザカタログを使用する場合、そのユーザカタログ名を指定する。

3) JSMHK010

DF-CROSSCOB のマトリックス情報出力機能の実行後の中間ファイルを指定する。

4) SORTWKnn

ソート用のワークデータセットを指定する。

nnの値は00から99の数字を指定する。

5) SYSPRINT

CSV 形式ファイル出力機能の実行結果リストの出力先を指定する。

6) JSMHKCSV

CSV 形式ファイルを出力するデータセットを指定する。

7) SYSOUT

COBOL のソートマージプログラムの実行結果を出力するデータセットである。

“ DUMMY ” を指定する。

付E.2.1.4 DASD容量見積り

CSV 形式ファイルの容量見積りを付表E.4 に示す。

付表E.4 DASD容量見積り

	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
JSMHKCSV	PS	V, VB	70 (MAX)	レコード長 + 4以上	$\left[\frac{\text{中間ファイル (JSMHK010) の 総データ件数}}{\left[\frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right]} \right] \times n$

注) F6425の場合

付E.2.2 CSV形式ファイルの形式

CSV 形式ファイル出力機能のファイルについて、次の事項を説明する。

- － CSV 形式ファイルの出力レコード
- － CSV 形式ファイルのレコード形式

付E.2.2.1 CSV形式ファイルの出力レコード

CSV 形式ファイルの出力レコードについて、次の事項を説明する。

- － タイトルレコード
- － ドキュメントレコード

1) タイトルレコード

ドキュメントレコードの各フィールドの見出しのレコードである。

TITLE オプション “TITLE” の場合に出力され、データセットの1レコード目に1件出力する。

見出し(フィールド名称)は、日本語シフトコードを付加した日本語(全角)で出力する。なお、見出しの区切りは“,”(半角)である。

レコードフォーマットは、情報オプションおよび入力形式オプション毎に異なる。各レコードフォーマットについては、“付E.2.2.2 CSV形式ファイルのレコード形式”を参照されたい。

2) ドキュメントレコード

マトリクス情報出力機能のドキュメントが作成できるようなクロス集計用のCSV形式(カンマ区切)のレコードである。

TITLE オプション “TITLE” の場合、データセットの2レコード目以降に出力する。

TITLE オプション “NOTITLE” の場合、データセットの1レコード目以降に出力する。

各フィールドのデータは空白詰めを行い出力する。また、日本語データの場合、日本語シフトコードを付加した日本語(全角)で出力する。

レコードフォーマットは、情報オプションおよび入力形式オプション毎に異なる。各レコードフォーマットについては、“付E.2.2.2 CSV形式ファイルのレコード形式”を参照されたい。

付E.2.2.2 CSV形式ファイルのレコード形式

CSV 形式ファイルのレコード形式について、次の事項を説明する。

- － コピー句→プログラム情報編集出力のレコード形式
- － レコード→プログラム情報編集出力のレコード形式
- － ファイル→プログラム情報編集出力のレコード形式
- － 副プログラム→プログラム情報編集出力のレコード形式

付E.2.2.2.1 コピー句→プログラム情報編集出力のレコード形式

情報オプション“PCPY”を指定した場合のレコード形式を示す。

実行時オプションCASEによりレコード形式は異なる。

1) 業務種別名単位 (CASE=1)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.4 に示す。

業務種別名, コピー句名, プログラム名, 集計用

付図E.4 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.5 に示す。

① 業務種別名	② 区切り	③ コピー句名	② 区切り	④ プログラム名	② 区切り	⑤ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.5 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションG=n:m で指定されたCOBOL ソースライブラリのメンバ名の文字列が出力される。
- ② “,” が出力される。
- ③ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているコピー句名が出力される。
- ④ ③のコピー句が定義されているプログラム名が出力される。
- ⑤ クロス集計のための“ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.6 に示す。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7
業務種別名,コピー句名,プログラム名,集計用 ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0010, ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0020, ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0030, ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0060, ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0070, ↓
JSMK00,KWK00001,JSMK0080, ↓
JSMK00,KWK00004,JSMK0010, ↓
JSMK00,KWK00004,JSMK0070, ↓
JSMK00,KWK00007,JSMK0040, ↓
JSMK00,KWK00008,JSMK0080, ↓
JSMK00,KWK00009,JSMK0080, ↓
JSMK00,KWK00009,JSMK0090, ↓
JSMK00,KWK00010,JSMK0010, ↓
JSMK00,KWK00010,JSMK0030, ↓
JSMK00,KWK00012,JSMK0030, ↓
JSMK00,KWK00013,JSMK0070, ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.6 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位)

のCSV 形式ファイルの出力例

2) 英数字名順 (CASE=2)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.7 に示す。

コピー句名, プログラム名, 集計用

付図E.7 コピー句→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.8 に示す。

① コピー句名	② 区切り	③ プログラム名	② 区切り	④ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.8 コピー句→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のドキュメントレコード

- ① COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているコピー句名が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ ①のコピー句が定義されているプログラム名が出力される。
- ④ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.9 に示す。

1	2	3	4	5	6	7
コピー句名, プログラム名, 集計用 ↓						
KWK00001, JSMK0010,						
KWK00001, JSMK0020,						
KWK00001, JSMK0030,						
KWK00001, JSMK0060,						
KWK00001, JSMK0070,						
KWK00001, JSMK0080,						
KWK00004, JSMK0010,						
KWK00004, JSMK0070,						
KWK00007, JSMK0040,						
KWK00008, JSMK0080,						
KWK00009, JSMK0080,						
KWK00009, JSMK0090,						
KWK00010, JSMK0010,						
KWK00010, JSMK0030,						
KWK00012, JSMK0030,						
KWK00013, JSMK0070,						

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.9 コピー句→プログラム情報編集出力 (英数字名順)

のCSV 形式ファイルの出力例

3) コピー句種別名単位 (CASE=3)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.10に示す。

コピー句種別名, コピー句名, プログラム名, 集計用

付図E.10 コピー句→プログラム情報編集出力 (コピー句種別名単位) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.11に示す。

① コピー句種別名	② 区切り	③ コピー句名	② 区切り	④ プログラム名	② 区切り	⑤ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.11 コピー句→プログラム情報編集出力 (コピー句種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションC=n:m で指定されたコピー句名の文字列が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているコピー句名が出力される。
- ④ ③のコピー句が定義されているプログラム名が出力される。
- ⑤ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.12に示す。

1	2	3	4	5	6	7
コピー句種別名, コピー句名, プログラム名, 集計用 ↓						
KWK, KWK00001, JSMK0010,						
KWK, KWK00001, JSMK0020,						
KWK, KWK00001, JSMK0030,						
KWK, KWK00001, JSMK0060,						
KWK, KWK00001, JSMK0070,						
KWK, KWK00001, JSMK0080,						
KWK, KWK00004, JSMK0010,						
KWK, KWK00004, JSMK0070,						
KWK, KWK00007, JSMK0040,						
KWK, KWK00008, JSMK0080,						
KWK, KWK00009, JSMK0080,						
KWK, KWK00009, JSMK0090,						
KWK, KWK00010, JSMK0010,						
KWK, KWK00010, JSMK0030,						
KWK, KWK00012, JSMK0030,						
KWK, KWK00013, JSMK0070,						

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.12 コピー句→プログラム情報編集出力 (コピー句種別名単位) のCSV 形式ファイルの出力例

4) 業務種別名単位+コピー句種別名単位 (CASE=4)

ー タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.13に示す。

業務種別名, コピー句種別名, コピー句名, プログラム名, 集計用

付図E.13 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位+コピー句種別名単位) のタイトルレコード

ー ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.14に示す。

①	②	③	②	④	②
業務種別名	区切り	コピー句種別名	区切り	コピー句名	区切り
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト

⑤	②	⑥
プログラム名	区切り	集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.14 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位+コピー句種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションG=n:m で指定されたCOBOL ソースライブラリのメンバ名の文字列が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ 本体実行時のオプションC=n:m で指定されたコピー句名の文字列が出力される。
- ④ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているコピー句名の文字列が出力される。
- ⑤ ④のコピー句が定義されているプログラム名が出力される。
- ⑥ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.15に示す。

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7
業務種別名, コピー句種別名, コピー句名, プログラム名, 集計用 ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0010, ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0020, ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0030, ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0060, ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0070, ↓
JSMK00, KWK, KWK00001, JSMK0080, ↓
JSMK00, KWK, KWK00004, JSMK0010, ↓
JSMK00, KWK, KWK00004, JSMK0070, ↓
JSMK00, KWK, KWK00007, JSMK0040, ↓
JSMK00, KWK, KWK00008, JSMK0080, ↓
JSMK00, KWK, KWK00009, JSMK0080, ↓
JSMK00, KWK, KWK00009, JSMK0090, ↓
JSMK00, KWK, KWK00010, JSMK0010, ↓
JSMK00, KWK, KWK00010, JSMK0030, ↓
JSMK00, KWK, KWK00012, JSMK0030, ↓
JSMK00, KWK, KWK00013, JSMK0070, ↓

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

付図E.15 コピー句→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位+コピー句種別名単位)
のCSV 形式ファイルの出力例

付E.2.2.2.2 レコード→プログラム情報編集出力のレコード形式

情報オプション“PREC”を指定した場合のレコード形式を示す。
 実行時オプションCASEによりレコード形式は異なる。

1) 業務種別名単位 (CASE=1)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.16に示す。

業務種別名, レコード名, プログラム名, 集計用

付図E.16 レコード→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.17に示す。

① 業務種別名	② 区切り	③ レコード名	② 区切り	④ プログラム名	② 区切り	⑤ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 3 2 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.17 レコード→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションG=n:m で指定されたCOBOL ソースライブラリのメンバ名の文字列が出力される。
- ② “,” が出力される。
- ③ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているレコード名が出力される。
- ④ ③のレコードが定義されているプログラム名が出力される。
- ⑤ クロス集計のための“ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.18に示す。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----
業務種別名,レコード名,プログラム名,集計用 ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0330, ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0350, ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0360, ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0370, ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0380, ↓
JSMK03,KINF-REC,JSMK0390, ↓
JSMK03,KINFREC,JSMK0340, ↓
JSMK03,KPRP-ANZWK-AREA,JSMK0300, ↓
JSMK03,KPRP-ANZWK-AREA,JSMK0310, ↓
JSMK03,KTBH-MSG-SUPTBL,JSMK0320, ↓
JSMK03,KWKA-KAISEKI-AREA,JSMK0300, ↓
JSMK03,KWKA-KAISEKI-AREA,JSMK0310, ↓
JSMK03,KWKC-CMN-AREA,JSMK0300, ↓
JSMK03,KWKC-CMN-AREA,JSMK0310, ↓
:
    
```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.18 レコード→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位)

のCSV 形式ファイルの出力例

2) 英数字名順 (CASE=2)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.19に示す。

レコード名, プログラム名, 集計用

付図E.19 レコード→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.20に示す。

① レコード名	② 区切り	③ プログラム名	② 区切り	④ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.20 レコード→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のドキュメントレコード

- ① COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているレコード名が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ ①のレコードが定義されているプログラム名が出力される。
- ④ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.21に示す。

1	2	3	4	5
レコード名, プログラム名, 集計用 ↓				
COPYRIGHT-INFO, JSMK0010,				
KMSG-REC, JSMK0010,				
KMSGREC, JSMK0030,				
KMSGREC, JSMK0070,				
KMSGREC, JSMK0240,				
KPRD-DVD-TBL-CRNTIDX, JSMK0150,				
KPRD-DVD-TBL-CRNTIDX, JSMK0170,				
KPRD-DVDPRM-1, JSMK0150,				
KPRD-DVDPRM-1, JSMK0170,				
KPRD-DVDPRM-2, JSMK0150,				
KPRD-DVDPRM-2, JSMK0170,				
KPRD-DVDPRM-3, JSMK0150,				
KPRD-DVDPRM-3, JSMK0170,				
KPRD-DVDPRM-4, JSMK0150,				
:				

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.21 レコード→プログラム情報編集出力 (英数字名順)
のCSV 形式ファイルの出力例

付E.2.2.2.3 ファイル→プログラム情報編集出力のレコード形式

情報オプション“PFIL”を指定した場合のレコード形式を示す。
 実行時オプションCASEによりレコード形式は異なる。

1) 業務種別名単位 (CASE=1)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.22に示す。

業務種別名, ファイル名, プログラム名, 集計用

付図E.22 ファイル→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.23に示す。

① 業務種別名	② 区切り	③ ファイル名	② 区切り	④ プログラム名	② 区切り	⑤ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 3 2 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.23 ファイル→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションG=n:m で指定されたCOBOL ソースライブラリのメンバ名の文字列が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているファイル名が出力される。
- ④ ③のファイルが定義されているプログラム名が出力される。
- ⑤ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.24に示す。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----
業務種別名,ファイル名,プログラム名,集計用↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0330,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0340,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0350,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0360,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0370,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0380,↓
JSMK03,KINF-FILE,JSMK0390,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0330,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0340,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0350,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0360,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0370,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0380,↓
JSMK03,KSRT-FILE,JSMK0390,↓
:
    
```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.24 ファイル→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位)

のCSV 形式ファイルの出力例

2) 英数字名順 (CASE=2)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.25に示す。

ファイル名, プログラム名, 集計用

付図E.25 ファイル→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.26に示す。

① ファイル名	② 区切り	③ プログラム名	② 区切り	④ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.26 ファイル→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のドキュメントレコード

- ① COBOL ソースプログラムおよびコピー句に定義されているファイル名が出力される。
- ② “ , ” が出力される。
- ③ ①のファイルが定義されているプログラム名が出力される。
- ④ クロス集計のための “ ” が出力される。

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.27に示す。

1	2	3	4	5
ファイル名	,	プログラム名	,	集計用 ↓
KINF-FILE, JSMK0330,				↓
KINF-FILE, JSMK0340,				↓
KINF-FILE, JSMK0350,				↓
KINF-FILE, JSMK0360,				↓
KINF-FILE, JSMK0370,				↓
KINF-FILE, JSMK0380,				↓
KINF-FILE, JSMK0390,				↓
KMSG-FILE, JSMK0010,				↓
KMSG-FILE, JSMK0030,				↓
KMSG-FILE, JSMK0070,				↓
KMSG-FILE, JSMK0240,				↓
KSIN-FILE, JSMK0070,				↓
KSRT-FILE, JSMK0330,				↓
KSRT-FILE, JSMK0340,				↓
:				

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

付図E.27 ファイル→プログラム情報編集出力 (英数字名順)
のCSV 形式ファイルの出力例

付E.2.2.2.4 副プログラム→プログラム情報編集出力のレコード形式

情報オプション “ PSUB ” を指定した場合のレコード形式を示す .

実行時オプションCASEによりレコード形式は異なる .

1) 業務種別名単位 (CASE=1)

ー タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.28に示す .

業務種別名, 副プログラム名, 一意名, プログラム名, 集計用

付図E.28 副プログラム→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のタイトルレコード

ー ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.29に示す .

① 業務種別名	② 区切り	③ 副プログラム名	② 区切り	④ 一意名	② 区切り
1 ~ 8 バイト	1 バイト	1 ~ 18 バイト	1 バイト	0 ~ 1 バイト	1 バイト

⑤ プログラム名	② 区切り	⑥ 集計用
1 ~ 8 バイト	1 バイト	4 バイト

付図E.29 副プログラム→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位) のドキュメントレコード

- ① 本体実行時のオプションG=n:m で指定されたCOBOL ソースライブラリのメンバ名の文字列が出力される .
- ② “ , ” が出力される .
- ③ COBOL ソースプログラムおよびコピー句に出現した副プログラム名が出力される .
- ④ ③の副プログラムが一意名の場合 “ * ” が出力される .
- ⑤ ③の副プログラムが出現したプログラム名が出力される .
- ⑥ クロス集計のための “ ” が出力される .

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.30に示す .

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----+
業務種別名, 副プログラム名, 一意名, プログラム名, 集計用 ↓
JSMK00, JSMK0030, , JSMK0010, ↓
JSMK00, JSMK0050, , JSMK0030, ↓
JSMK00, JSMK0050, , JSMK0080, ↓
JSMK00, JSMK0060, , JSMK0030, ↓
JSMK00, JSMK0070, , JSMK0010, ↓
JSMK00, JSMK0090, , JSMK0080, ↓
JSMK00, JSMK0100, , JSMK0010, ↓
JSMK00, JSMK0110, , JSMK0010, ↓
JSMK00, JSMK0240, , JSMK0010, ↓
JSMK00, JSMK0240, , JSMK0020, ↓
JSMK00, JSMK0240, , JSMK0030, ↓
JSMK00, JSMK0240, , JSMK0070, ↓
JSMK00, JSMK0570, , JSMK0040, ↓
JSMK00, JSMK0670, , JSMK0010, ↓
:

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

付図E.30 副プログラム→プログラム情報編集出力 (業務種別名単位)
のCSV 形式ファイルの出力例

2) 英数字名順 (CASE=2)

－ タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図E.31に示す .

副プログラム名,一意名,プログラム名,集計用

付図E.31 副プログラム→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のタイトルレコード

－ ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図E.32に示す .

① 副プログラム名	② 区切り	③ 一意名	② 区切り	④ プログラム名	② 区切り	⑤ 集計用
1 ~ 18バイト	1バイト	0 ~ 1バイト	1バイト	1 ~ 8バイト	1バイト	4バイト

付図E.32 ファイル→プログラム情報編集出力 (英数字名順) のドキュメントレコード

- ① COBOL ソースプログラムおよびコピー句に出現する副プログラム名が出力される .
- ② “ , ” が出力される .
- ③ ①の副プログラムが一意名の場合 “ * ” が出力される .
- ④ ①の副プログラムが出現したプログラム名が出力される .
- ⑤ クロス集計のための “ ” が出力される .

CSV 形式ファイルの出力例を付図E.33に示す .

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----+
副プログラム名,一意名,プログラム名,集計用 ↓
JCVEBCC,,JSMK0320,
JQHLCL,,JSMK0120,
JQHLCL,,JSMK0300,
JQHLOP,,JSMK0120,
JQHLOP,,JSMK0300,
JQHMF D,,JSMK0120,
JQHMF D,,JSMK0170,
JQHMF D,,JSMK0300,
JQHRGT,,JSMK0140,
JQHRGT,,JSMK0180,
JSMK0030,,JSMK0010,
JSMK0050,,JSMK0030,
JSMK0050,,JSMK0080,
JSMK0050,,JSMK0150,
:

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す .

付図E.33 副プログラム→プログラム情報編集出力 (英数字名順)
のCSV 形式ファイルの出力例

付E.2.3 実行結果リスト

CSV 形式ファイル出力機能を運用する際に出力する、次の実行結果リストを出力する順に説明する。
ただし、実行時オプションでエラー終了した場合は、CSV 出力結果リストは出力されない。

また、エラーメッセージの詳細は、“第5章 診断メッセージ”を参照されたい。

PARMパラメタ結果リスト

CSV 出力結果リスト

－ 実行結果メッセージリスト

実行結果リストのヘッダ部について付図E.34に示し説明する。

```
①          ②          ③          ④          ⑤
SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20      日付 2013.06.17 時刻 14.51.03      PAGE 1

**  指定パラメタ  **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----* . .
PCPY,CASE=1

**  確定パラメタ  **
PCPY      TITLE      CASE(1)

**  CSV出力メッセージ  **
      情報編集名      :      コピー句→プログラム情報
      出力順          :      業務種別
      入力項目数      :              16 件
      CSVレコード数   :              32 件

**  実行結果メッセージ  **
      最大重大度コード = 00
```

付図E.34 実行結果リストのヘッダ部

- ① ツール名称，“SIMPLIA/DF-CROSSCOB”が出力される。
- ② ツールのバージョンレベルが出力される。
- ③ 実行した日付（西暦，月，日）が出力される。
- ④ 実行した時刻が出力される。
- ⑤ 実行結果リストのページ数が出力される。

付E.2.3.1 PARMパラメタ結果リスト

ジョブ制御文のPARMパラメタに指定された実行時オプションの指定に対するメッセージが出力される。正常終了の場合の出力例を付図E.35に、エラー終了の場合の出力例を付図E.36に示し説明する。

```
          SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 2013.06.17 時刻 14.51.03  PAGE  1
**      指定パラメタ      **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----* . .
① PCPY,CASE=1
**      確定パラメタ      **
② PCPY  ③TITLE ④ CASE(1)
**      CSV出力メッセージ      **
情報編集名      :   コピー句→プログラム情報
出力順          :   業務種別
入力項目数      :           16 件
CSVレコード数   :           32 件
**      実行結果メッセージ      **
最大重大度コード = 00
```

付図E.35 PARMパラメタ結果リスト例（正常終了）

```
          SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 2013.06.17 時刻 14.51.03  PAGE  1
**      指定パラメタ      **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----* . .
① PCPY
⑤JSMKC054-U   実行時オプションの指定に誤りがあります。
**      実行結果メッセージ      **
最大重大度コード = 16
```

付図E.36 PARMパラメタ結果リスト例（エラー終了）

- ① ジョブ制御文のPARMパラメタに指定した実行時オプションの内容が出力される。
- ② 確定した情報オプションが出力される。
- ③ 確定したTITLE オプションが出力される。
- ④ 確定した入力形式オプションが出力される。
- ⑤ 実行時オプションのエラーについての診断メッセージが出力される。

付E.2.3.2 CSV出力結果リスト

CSV 形式ファイル出力機能の実行結果が出力される。出力例を付図C.37に示し説明する。

```
          SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 2013.06.17 時刻 14.51.03  PAGE  1
**   指定パラメタ   **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----* . .
PCPY,CASE=1
**   確定パラメタ   **
PCPY  TITLE  CASE(1)
**   CSV出力メッセージ   **
      情報編集名      : ①コピー句→プログラム情報
      出力順          : ②業務種別
      入力項目数      : ③          16 件
      CSVレコード数   : ④          32 件
**   実行結果メッセージ   **
      最大重大度コード = 00
```

付図E.37 CSV出力結果リスト例

- ① マトリックス情報出力の情報名称が出力される。
- ② マトリックス情報出力の出力順（入力形式）が出力される。
- ③ 検索元の入力項目数が出力される。
- ④ タイトルレコードを含む，CSV レコードの出力件数が出力される。

付E.2.3.3 実行結果メッセージリスト

CSV 形式ファイル出力機能の最大重大度コードが出力される．出力例を付図E.38に示し説明する．

```
SIMPLIA/DF-CROSSCOB V21L20          日付 2013.06.17 時刻 14.51.03  PAGE  1
**   指定パラメタ   **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----* . .
PCPY

JSMKC054-U   実行時オプションの指定に誤りがあります。
**   実行結果メッセージ   **
          ①
  最大重大度コード   = 16
```

付図E.38 実行結果メッセージリスト例

- ① ツール終了時の最大重大度コードが出力される．最大重大度コードの意味を付表E.5 に示す．

付表E.5 最大重大度コード

M S P	X S P	意 味
0 0	1 0	正常終了
0 4	2 0	軽度エラー
1 6	5 0	致命的エラー

付E.2.4 制限事項

次に示す制限事項の説明をする．

- CSV ファイルに出力される文字数の制限

a) CSV ファイルに出力される文字数の制限

レコード→プログラム情報出力機能では，レコード名が日本語の場合は，15文字までを出力する．
ファイル→プログラム情報出力機能では，ファイル名が日本語の場合は，15文字までを出力する．
副プログラム→プログラム情報出力機能では，副プログラム名が一意名の場合，英数字は18文字まで，日本語は8文字までを出力する．

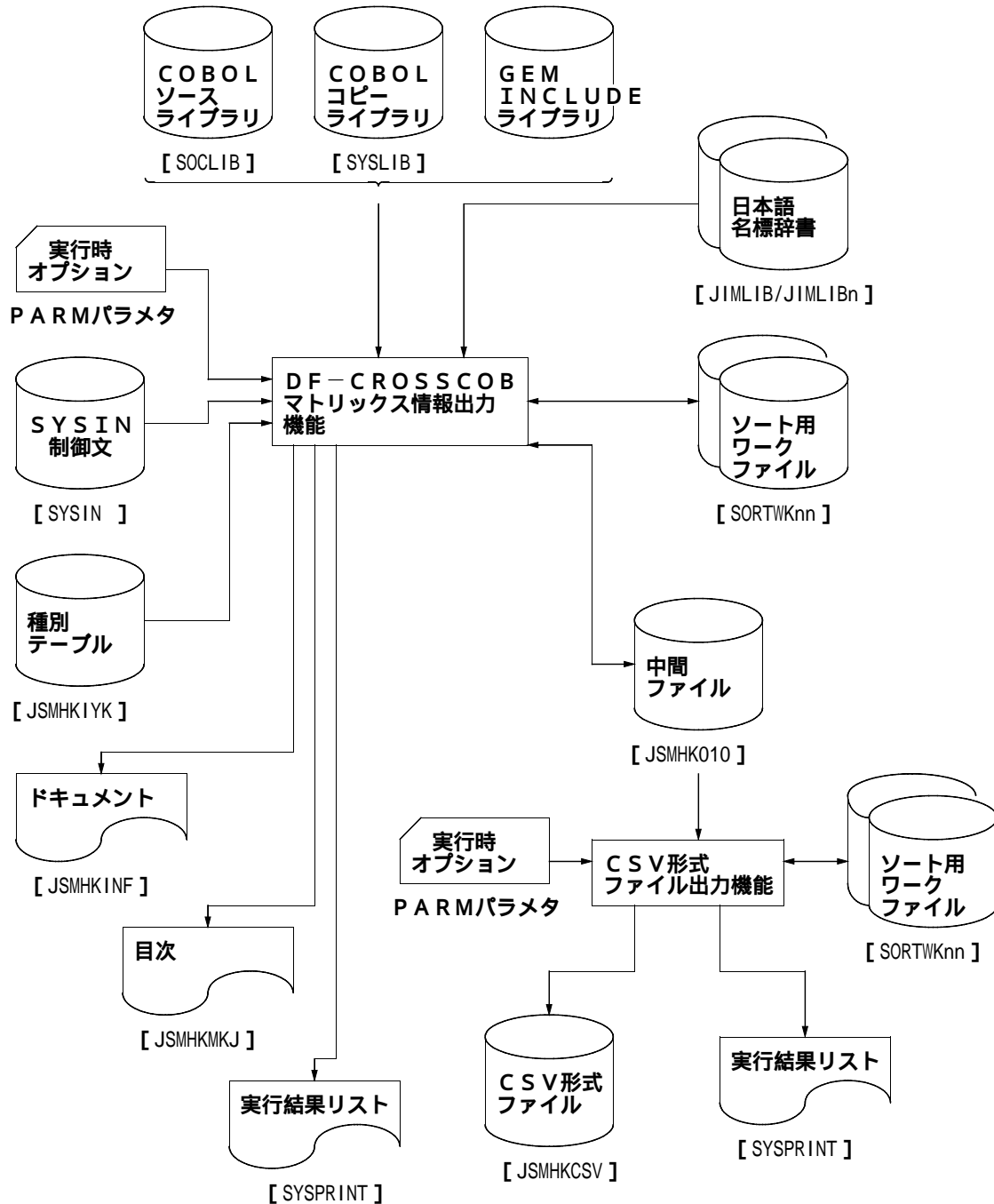
付E.2.5 使用例

CSV 形式ファイル出力機能の使用例として，次の内容を説明する．

- CSV 形式ファイル出力機能のジョブフロー
- CSV 形式ファイル出力機能のジョブ制御文例

付E.2.5.1 CSV形式ファイル出力機能のジョブフロー

CSV形式ファイル出力機能を使用するために必要な入出力データセットと各DD名を付図E.39に示す。



[] : DD名を示す

付図E.39 CSV形式ファイル出力機能のジョブフロー

付E.2.5.2 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例

CSV形式ファイル出力機能を実行するのに必要なジョブ制御文について、MSPのジョブ制御文例を付図E.40に、XSPのジョブ制御文例を付図E.41に示す。

DF-CROSSCOBマトリックス情報出力機能の各指定内容の詳細については、“3.1 ジョブ制御文”を参照されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//SF17CSV JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=SF.CROSSCOB.LOAD,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=SF1USR,DISP=SHR
//*** 情報出力 ***
//*
//CROSSCOB EXEC PGM=JSMK0010,REGION=1024K,
// PARM='MATR(JOHO=PCPY,CASE=2),CPY,NOHANYO'
//SYS IN DD *
M=MATR/2
/*
//SOCLIB DD DSN=SF.MASTER.SOCLIB,DISP=SHR
//SYSLIB DD DSN=SF.MASTER.CPYLIB,DISP=SHR
//JIMLIB DD DSN=SF.JISHO.NDCT,DISP=SHR
//JSMHKIYK DD DSN=SF.CROSSCOB.STABLE,DISP=SHR
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//JSMHK010 DD DSN=&&JSMHK010,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),DCB=(BLKSIZE=11738)
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//JSMHKMKJ DD DUMMY
//JSMHKINF DD DUMMY
//SYS OUT DD DUMMY
//*** CSV形式ファイル出力 ***
//MATRCV EXEC PGM=JSMKCSV,REGION=1024K,
// PARM='PCPY,CASE=2'
//JSMHK010 DD DSN=&&JSMHK010,DISP=(OLD,DELETE)
//JSMHKCSV DD DSN=SF.PCPY.CSV,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
// VOL=SER=USER01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(BLKSIZE=11738)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS OUT DD DUMMY
//

```

付図E.40 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例(MSP)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
¥ JOB SF17CSV,LIST(N,JD),PSW=TEST
¥*** 情報出力 ***
¥CROSSCOB EX JSMK0010,RSIZE=1024
¥      PARA MATR(JOHO=PCPY,CASE=2),CPY,NOHANYO
¥ FD STEPCAT=DA,FILE=SF1USR
¥ FD PRGLIB=DA,FILE=SF.CROSSCOB.LOAD
¥ FD UIN=*
      M=MATR/2
¥/
¥ FD SOCLIB=DA,FILE=SF.MASTER.SOCLIB
¥ FD SYSLIB=DA,FILE=SF.MASTER.CPYLIB
¥ FD JIMLIB=DA,FILE=SF.JISHO.NDCT
¥ FD JSMHK1YK=DA,FILE=SF.CROSSCOB.STABLE
¥ FD SORTWK01=DA,TRK=(100,100,RLSE)
¥ FD SORTWK02=DA,TRK=(100,100,RLSE)
¥ FD SORTWK03=DA,TRK=(100,100,RLSE)
¥ FD JSMHK010=DA,TRK=(10,10,RLSE),VOL=WORK,DISP=CONT,
      FCB=(BLKSIZE=11738)
¥ FD SYSPRINT=DA,TRK=(10,10),VOL=WORK,SOUT=N
¥ FD JSMHKMKJ=DUMMY
¥ FD JSMHKINF=DUMMY
¥ FD SYSOUT=DUMMY
¥*** CSV形式ファイル出力 ***
¥MATRCSV EX JSMKCSV,RSIZE=1024,
¥      PARA PCPY,CASE=2,TITLE
¥ FD JSMHK010=/,SW=JSMHK010
¥ FD JSMHKCSV=DA,FILE=SF.PCPLY.CSV,VOL=USER01,DISP=CAT,
      TRK=(10,10,RLSE),FCB=(BLKSIZE=11738)
¥ FD SORTWK01=DA,TRK=(10,10,RLSE)
¥ FD SORTWK02=DA,TRK=(10,10,RLSE)
¥ FD SORTWK03=DA,TRK=(10,10,RLSE)
¥ FD SYSPRINT=DA,TRK=(10,10),VOL=WORK,SOUT=N
¥ FD SYSOUT=DUMMY
¥ JEND

```

付図E.41 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例(XSP)

15.31 付録F 日本語名標辞書作成支援プログラム

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

日本語名標辞書作成支援プログラム

DF-CROSSCOB では、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語名標辞書を使用して、利用者語（データ項目名、プログラム名、ファイル名、レコード名、コピー句名、二次入口点名、一次入口点名、呼び出し元名およびサブスキーマ名）を日本語変換して出力する。本プログラムは、この日本語名標辞書の作成を支援することを目的としている。

- － 機能説明
- － 日本語名標辞書の作成手順
- － 表形式ドキュメント単語ファイル
- － 実行結果リスト
- － 使用手引
- － 制限事項
- － 診断メッセージ

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能について述べる。

日本語名標辞書作成支援プログラムは、以下に示す二つの機能から構成される。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1

日本語名標辞書作成支援プログラム 2

付F.1.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1

クロスリファレンス情報出力機能にて出力される表形式ドキュメントの5種類のCSV形式ファイルを入力として、利用者語を単語に分割しCSV形式ファイルとして出力する。単語が出力されたCSV形式ファイルを表形式ドキュメント単語ファイルと呼ぶ。

単語とは、日本語変換の単位であり、単語の単位で対応する日本語に変換される。

なお、入力となるCSV形式ファイルは以下の5種類である。

- － データ項目情報編集出力（対プログラム）
- － データ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）
- － コピー句情報編集出力（階層表示）
- － 二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）
- － サブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML命令、レコード）

付F.1.2 日本語名標辞書作成支援プログラム 2

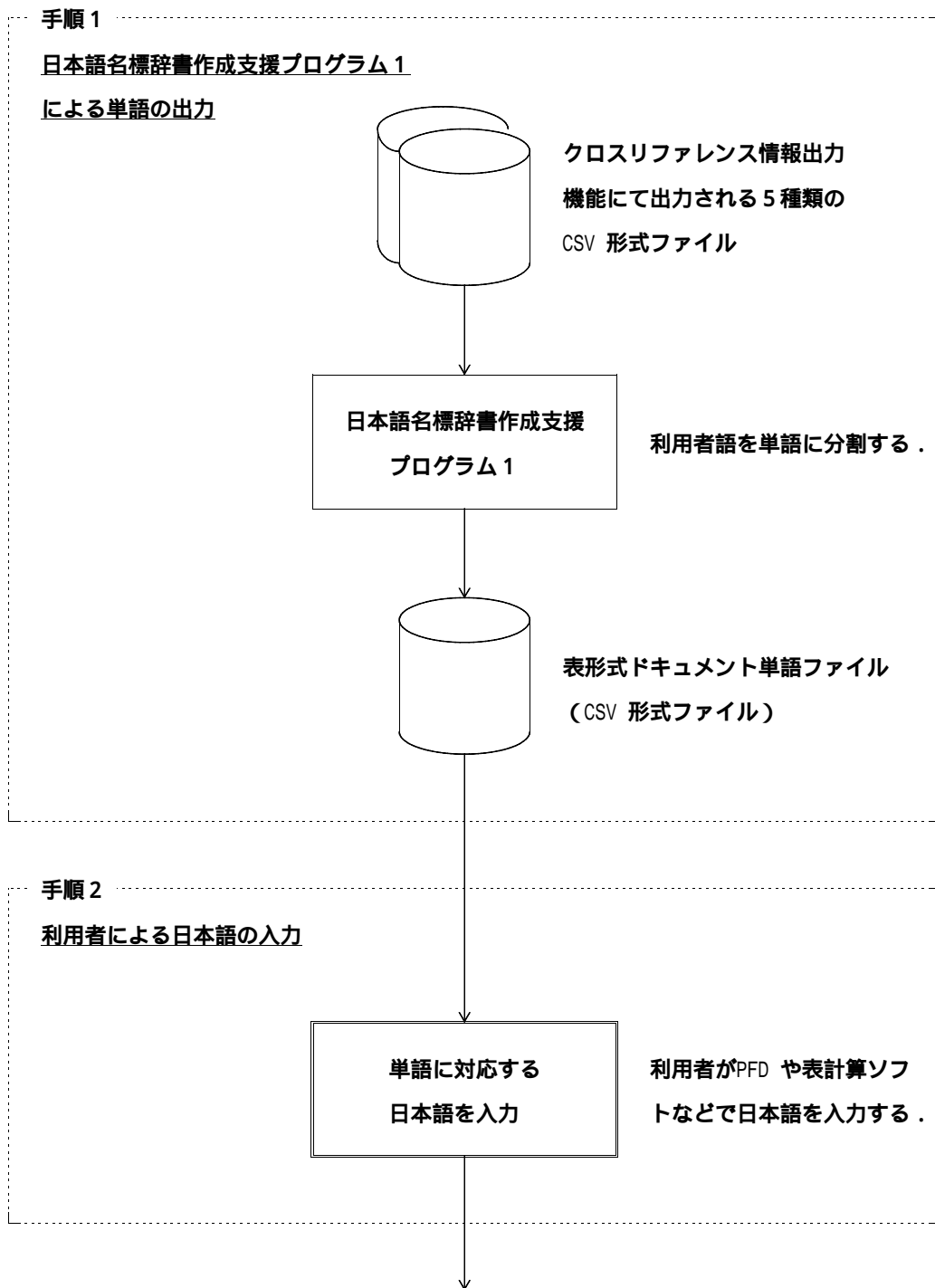
単語に対応する日本語が入力された表形式ドキュメント単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

日本語名標辞書の作成手順について述べる。

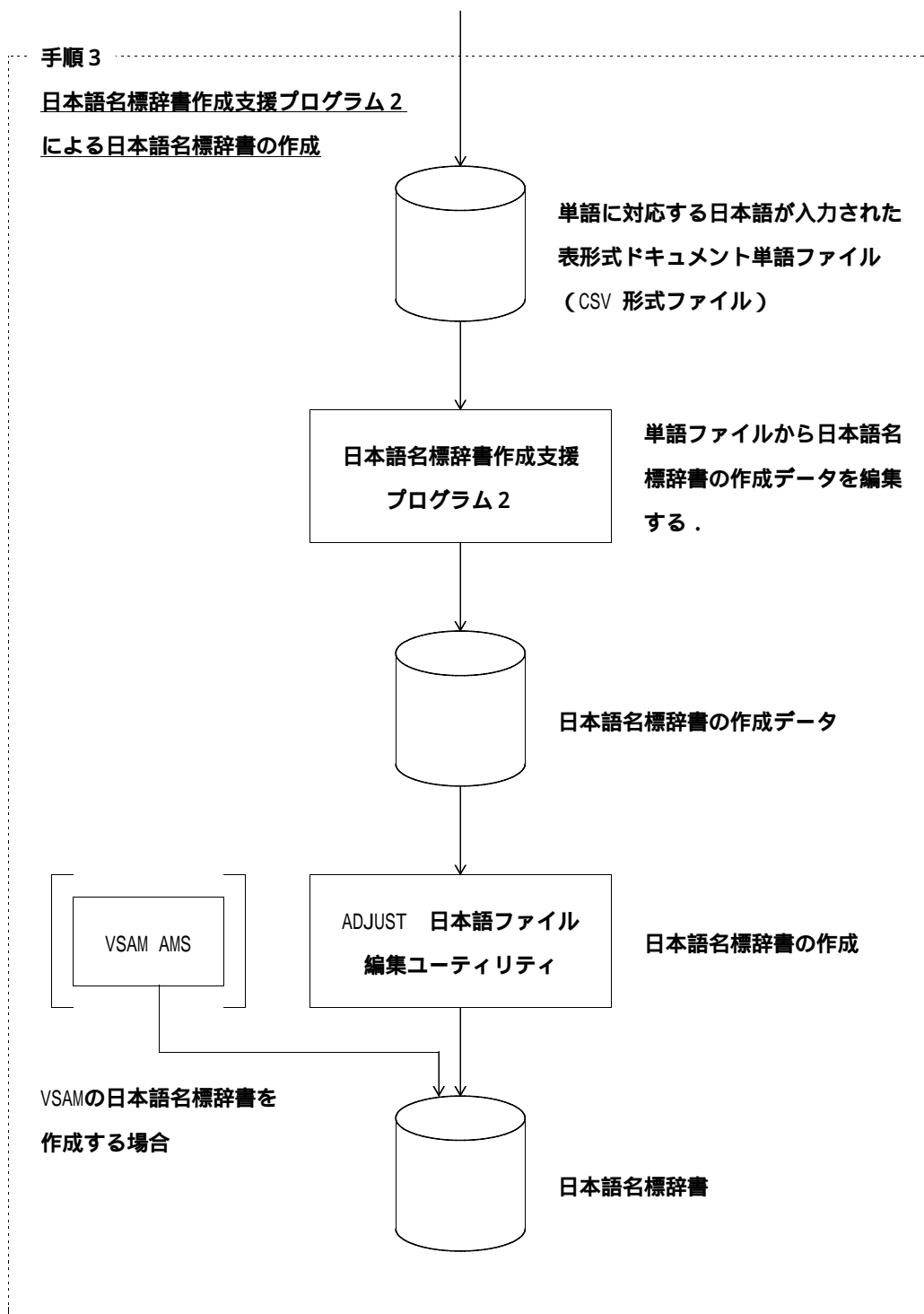
日本語名標辞書作成支援プログラムを使用した日本語名標辞書の作成は、次の三つの手順からなる。

- 1) 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 による単語の出力
- 2) 利用者による日本語の入力
- 3) 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 による日本語名標辞書の作成

付図F.1 に日本語名標辞書の作成手順を示す。

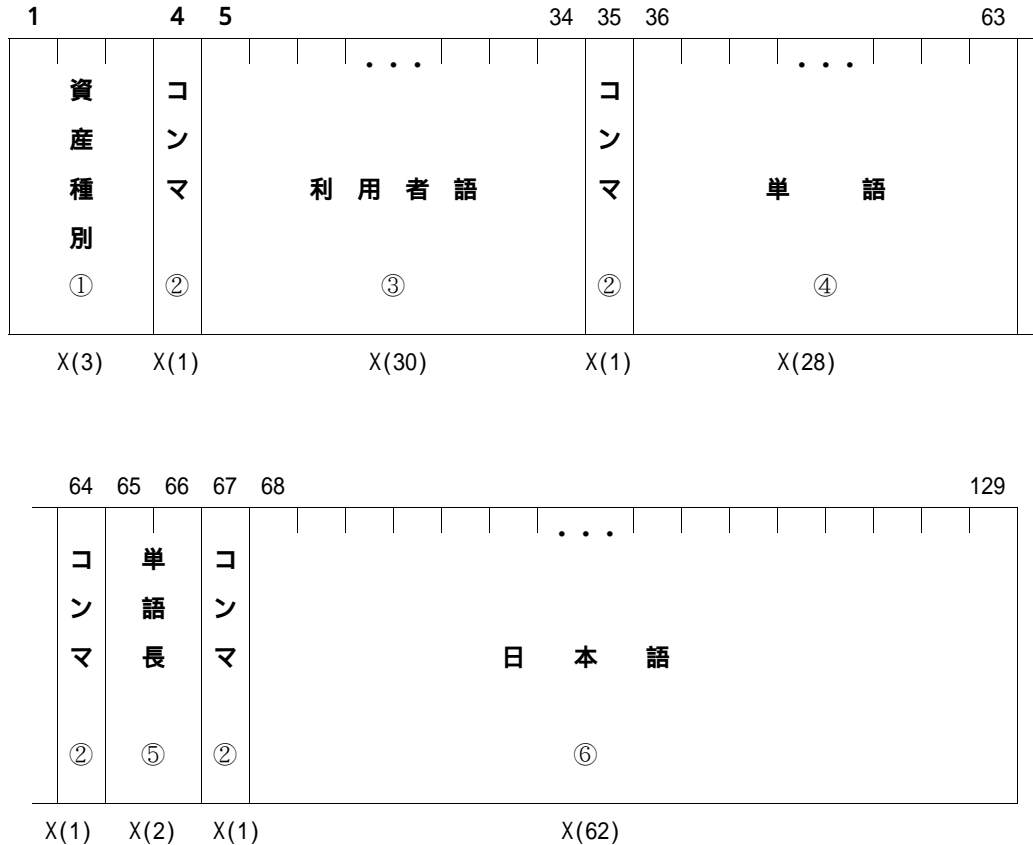


付図F.1 日本語名標辞書の作成手順 (続く)



付図F.1 日本語名標辞書の作成手順（続き）

表形式ドキュメント単語ファイルは、レコード形式がV/VB、レコード長が133バイト（RDW 含む）の順編成ファイル（CSV 形式ファイル）である。付図F.2 にフォーマットを示し説明する。



付図F.2 表形式ドキュメント単語ファイルのレコード形式

[付図F.2 の説明]

日本語名標辞書作成支援プログラム1にて出力される情報

- ① 以下に示す利用者語の資産種別が格納される。
 - C1D : データ項目名
 - C2P : プログラム名, 二次入口点名, 一次入口点名および呼び出し元名
 - C3F : ファイル名
 - C4R : レコード名 (レベル番号が01, 1 または77のデータ項目名)
 - C5C : コピー句名
 - C6S : サブスキーマ名
 - C7R : サブスキーマのレコード名 (一意名以外)
- ② CSV 形式ファイルの区切り文字であるコンマ “ , ” が格納される。
- ③ 利用者語 (データ項目名, プログラム名, ファイル名, レコード名, コピー句名, 二次入口点名, 一次入口点名, 呼び出し元名またはサブスキーマ名) が格納される。
- ④ 利用者語が分割された単語が格納される。(日本語名標辞書の項目キーとなる。)

- ⑤ 単語長が格納される。
- ⑥ 空白が格納される。

利用者が入力する情報

- ①～⑤ 利用者は、格納されている情報を変更してはならない。
- ⑥ 利用者が単語に対応する日本語を入力する。(シフトコードを含む。)
単語が重複している場合は、一意となるように不要な単語のレコードを削除する。
日本語名標辞書を作成する必要のない単語においては、該当単語のレコードを削除しても構わない。

備考1. 表形式ドキュメント単語ファイルは、④(単語)、①(資産種別)および③(利用者語)の順でソートされる。

備考2. 表形式ドキュメント単語ファイルは、可変長レコードでCSV形式ファイルだが、各フィールドの値は固定長イメージ(後続の空白は詰まらない)で出力される。なお、フィールドは引用符では囲まれない。

日本語名標辞書作成支援プログラム1にて出力される表形式ドキュメント単語ファイルと、利用者にて日本語を入力した後の表形式ドキュメント単語ファイルの例を付図F.3に示す。

なお、例は利用者語を3文字で分割し、単語の重複は出力しない場合である。利用者語の分割などに関しては、後述の“付F.5 使用手引”を参照されたい。

日本語名標辞書作成支援プログラム1にて出力される表形式ドキュメント単語ファイルの例

C5C,CPYTST01	},CPY	},03,
C1D,ITMTSTNAM001	},ITM	},03,
C1D,ITMTSTNAM001	},NAM	},03,
C1D,ITMTSTNAM001	},TST	},03,
C1D,ITMTSTNAM001	},001	},03,
C5C,CPYTST01	},01	},02,
⋮	⋮	⋮

利用者にて日本語が入力された表形式ドキュメント単語ファイルの例

(PFD による入力で、フィールドが固定長イメージ)

C5C,CPYTST01	},CPY	},03,コピー句
C1D,ITMTSTNAM001	},ITM	},03,アイテム
C1D,ITMTSTNAM001	},NAM	},03,名称
C1D,ITMTSTNAM001	},TST	},03,テスト
C1D,ITMTSTNAM001	},001	},03,0 0 1
C5C,CPYTST01	},01	},02,0 1
⋮	⋮	⋮

利用者にて日本語が入力された表形式ドキュメント単語ファイルの例

(表計算ソフトによる入力で、フィールドが可変長イメージ)

C5C,CPYTST01,CPY,3,コピー句
C1D,ITMTSTNAM001,ITM,3,アイテム
C1D,ITMTSTNAM001,NAM,3,名称
C1D,ITMTSTNAM001,TST,3,テスト
C1D,ITMTSTNAM001,1,3,0 0 1
C5C,CPYTST01,1,2,0 1
⋮

付図F.3 表形式ドキュメント単語ファイルの例

日本語名標辞書作成支援プログラムを運用する際に出力する次の実行結果リストを説明する。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1
 - PARMパラメタ結果リスト
 - 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト
 - エラー情報リスト
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2
 - 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト
 - エラー情報リスト

付F.4.1 PARMパラメタ結果リスト

ジョブ制御文中で指定されたPARMパラメタの内容、指定に誤りがある場合のエラーメッセージおよび実行時に有効となった確定パラメタを出力する。エラーメッセージについては、“付F.7 診断メッセージ”を参照されたい。

付F.4.2 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト

入力のレコード件数と出力のレコード件数が出力される。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1
 - 入力：データ項目情報編集出力（対プログラム）CSV 形式ファイル(JSMHKDPR)
データ項目情報編集出力（対プログラム、ファイル、レコード、コピー句）CSV 形式ファイル(JSMHKDAL)
コピー句情報編集出力（階層表示）CSV 形式ファイル(JSMHKCNE)
二次入口点情報編集出力（対一次入口点、呼び出し元）CSV 形式ファイル(JSMHKENT)
サブスキーマ情報編集出力（対プログラム、DML 命令、レコード）CSV 形式ファイル(JSMHKSAL)
 - 出力：表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD)
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2
 - 入力：表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD)
 - 出力：日本語名標辞書作成ファイル(JSMHKRAN)

付F.4.3 エラー情報リスト

日本語名標辞書作成支援プログラムのエラーメッセージが出力される。エラーメッセージについては、“付F.7 診断メッセージ”を参照されたい。

付F.4.4 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行結果リスト例

PARMパラメタでのエラー発生時と正常終了時の実行結果リスト例を付図F.4 に示し、説明する。

付F.4.5 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 の実行結果リスト例

正常終了時の実行結果リスト例を付図F.5 に示し、説明する。

PARMパラメタでのエラー発生時

```

**      指定パラメタ      **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-- . . . -9-----*-----0
① ISL=0, IPL=0, UNIQUE

② JSMKU004-S ISL オプションの指定に誤りがあります .

**      実行結果      **

③ データ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル . . .   レコード件数=0000000
④ データ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコー . . . AL) レコード件数=0000000
⑤ コピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル(JSMHK . . .   レコード件数=0000000
⑥ 二次入口点情報編集出力 (対一次入口点, 呼び出し元) CSV . . .   レコード件数=0000000
⑦ サブスキーマ情報編集出力 (対プログラム, DML 命令, レコ . . .   レコード件数=0000000
⑧ 表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD) . . .   レコード件数=0000000

```

正常終了時

```

**      指定パラメタ      **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-- . . . -9-----*-----0
① ISL=8, IPL=0, UNIQUE

**      確定パラメタ      **

⑨ SL(30)   DPL(0)   ISL(8)   IPL(0)   UNIQUE

**      実行結果      **

③ データ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル . . .   レコード件数=0000500
④ データ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコー . . . AL) レコード件数=0000000
⑤ コピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル(JSMHK . . .   レコード件数=0000350
⑥ 二次入口点情報編集出力 (対一次入口点, 呼び出し元) CSV . . .   レコード件数=0000000
⑦ サブスキーマ情報編集出力 (対プログラム, DML 命令, レコ . . .   レコード件数=0000100
⑧ 表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD) . . .   レコード件数=0000550

```

付図F.4 PARMパラメタ結果リスト例

[付図F.4 の説明]

- ① ジョブ制御文に指定されたPARMパラメタが出力される .
- ② ①の内容に誤りがあった場合, エラーメッセージが出力される .
- ③ クロスリファレンス情報出力機能のデータ項目情報編集出力 (対プログラム) にて出力されたCSV形式ファイルを入力とし, 処理されたレコード件数が出力される .
- ④ クロスリファレンス情報出力機能のデータ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) にて出力されたCSV形式ファイルを入力とし, 処理されたレコード件数が出力される .
- ⑤ クロスリファレンス情報出力機能のコピー句情報編集出力 (階層表示) にて出力されたCSV形式ファイルを入力とし, 処理されたレコード件数が出力される .

- ⑥ クロスリファレンス情報出力機能の二次入口点情報編集出力（対一次入口点，呼び出し元）にて出力されたCSV 形式ファイルを入力とし，処理されたレコード件数が出力される．
- ⑦ クロスリファレンス情報出力機能のサブスキーマ情報編集出力（対プログラム，DML 命令，レコード）にて出力されたCSV 形式ファイルを入力とし，処理されたレコード件数が出力される．
- ⑧ 表形式ドキュメント単語ファイルとして出力されたレコード件数が出力される．
- ⑨ ①の内容が重大なエラーまたは致命的なエラーでない場合，確定パラメタが出力される．

備考． レコード件数が7桁を超えた場合，レコード件数の最後に“*”が出力される．

正常終了時

** 実行結果 **
①表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD) レコード件数=0000500
②日本語名標辞書作成ファイル(JSMHKRAN) レコード件数=0000500

付図F.5 日本語名標辞書作成支援プログラム2の実行結果リスト例

[付図F.5 の説明]

- ① 表形式ドキュメント単語ファイルを入力とし，処理されたレコード件数が出力される．
- ② 日本語名標辞書作成ファイルとして出力されたレコード件数が出力される．

備考． レコード件数が7桁を超えた場合，レコード件数の最後に“*”が出力される．

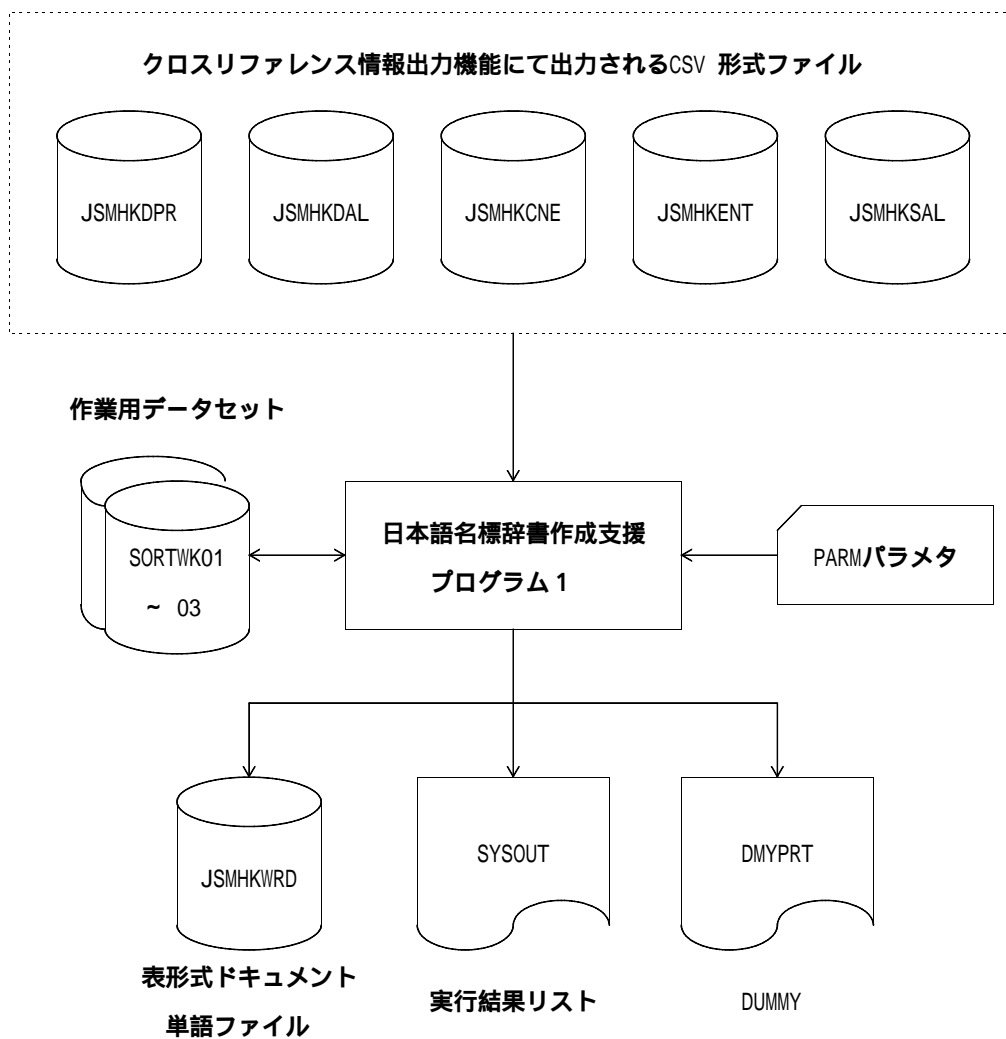
日本語名標辞書作成支援プログラムの使用手引について、以下の事項を述べる。

ジョブ制御文

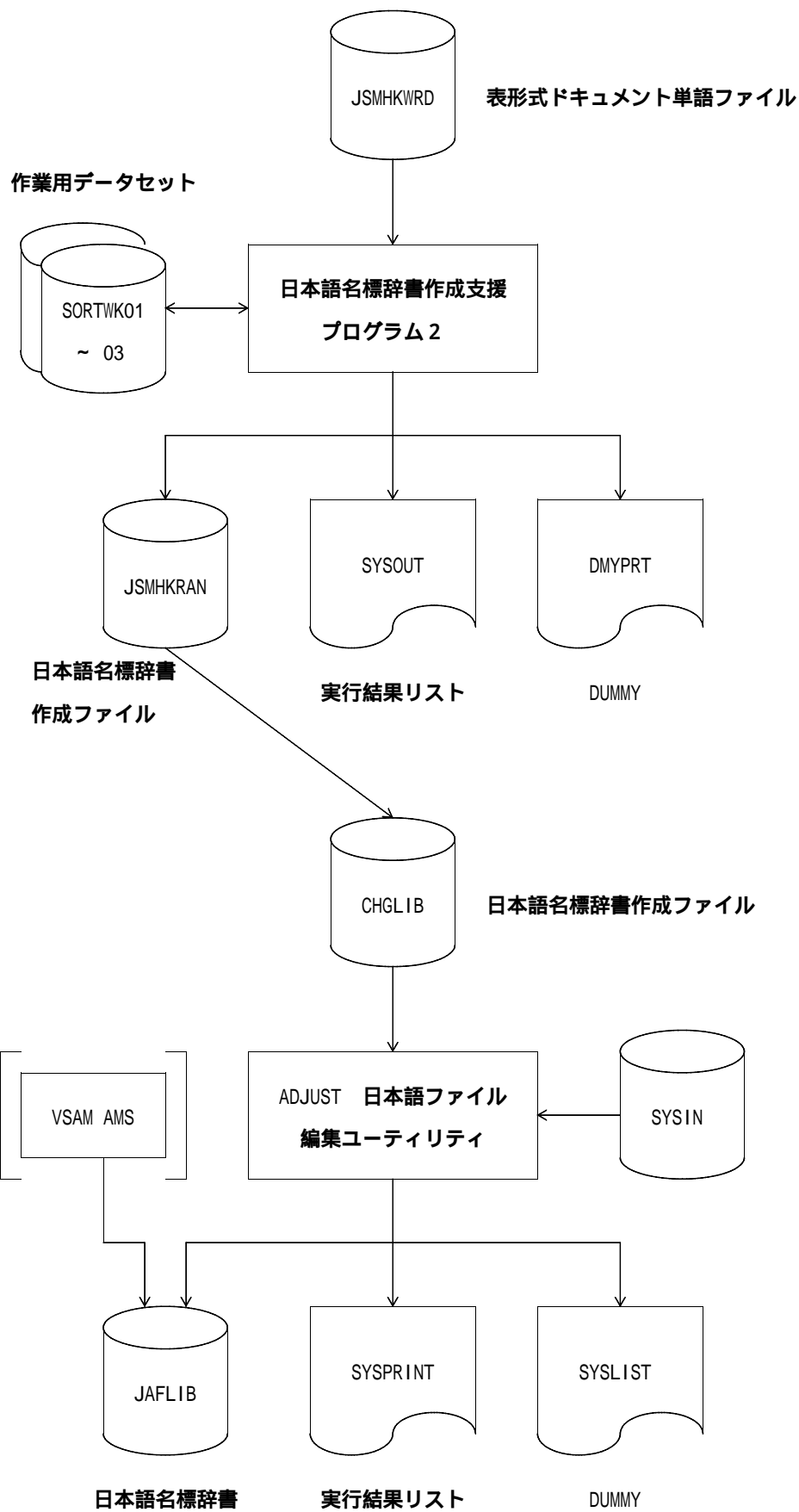
使用例

付F.5.1 ジョブ制御文

日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するために必要なジョブ制御文および実行時オプションについて述べる。日本語名標辞書作成支援プログラムを使用するために必要な入出力データセットとそれぞれのDD名を付図F.6 に示す。



付図F.6 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名(続く)



付図F.6 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名 (続き)

付F.5.1.1 EXEC文

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能呼び出し実行させるためのジョブ制御文である。指定する内容には次のものがある。

付F.5.1.1.1 プログラム名

日本語名標辞書作成支援プログラムの呼び出しプログラム名を以下に示す。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 : JSMKDSS1

日本語名標辞書作成支援プログラム 2 : JSMKDSS2

付F.5.1.1.2 リージョンサイズ

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 および日本語名標辞書プログラム 2 のリージョンサイズは、1024K バイトを指定する。

付F.5.1.1.3 実行時オプション

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションを指定する。実行時オプションの記述形式と意味については、“付F.5.1.2 実行時オプションと意味”で述べる。

当オプションは以下の場所に指定する。

OS IV / MSP の場合には、EXEC文のPARMパラメタ

OS IV / XSP の場合には、PARA文

なお、日本語名標辞書作成支援プログラム 2 には、実行時オプションは存在しない。

付F.5.1.2 実行時オプションと意味

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションの記述形式と意味を述べる。

付F.5.1.2.1 オプションの記述形式

オプションの記述形式を以下に示す。

$$\left[\left\{ \begin{array}{l} \text{SL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{30} \\ n \end{array} \right\} \\ \text{HYP1} \\ \text{HYP2} \end{array} \right\} \right] \left[, \text{DPL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} \right] \left[, \text{ISL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{8} \\ n \end{array} \right\} \right] \\ \left[, \text{IPL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} \right] \left[, \left\{ \begin{array}{l} \underline{\text{UNIQUE}} \\ \text{NOUNIQUE} \end{array} \right\} \right]$$

{ } は、いずれか一つを選択することを示す。

[] は、省略可能なオプションであることを示す。ただし、省略された場合は下線“ ”のものが選択されたものとみなす。

各オプションは“ , ”で区切って指定する。

UNIQUEとNOUNIQUEには簡略形が存在する。それぞれUNI とNOUNI である。

付F.5.1.2.2 オプションの意味

オプションでは以下の事項を指定する。

利用者語の分割規則

利用者語の分割規則を指定するもの

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{SL} = \left\{ \begin{array}{l} 30 \\ n \end{array} \right\} \\ \left\{ \begin{array}{l} \text{HYP1} \\ \text{HYP2} \end{array} \right\} \end{array} \right\}$$

データ項目名、コピー句名、レコード名およびファイル名の分割方法を指定する。

“SL=n”は、利用者語を長さにより分割する場合に、その長さを1～30の数字で指定する。利用者語の先頭から指定された長さで区切り、単語に分割する。

“HYP1”または“HYP2”は、利用者語をハイフンによる分割する場合に指定する。どちらを指定した場合も同じようにハイフンで区切り、単語に分割する。なお、分割後の単語にハイフンは含まれない。

当オプションを省略した場合は、“SL=30”が指定されたものとみなす。

$$\text{DPL} = \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ n \end{array} \right\}$$

データ項目名、コピー句名、レコード名およびファイル名において、分割の対象としない部分の長さを0～9の数字で指定する。利用者語の先頭から指定された長さが分割の対象とならない。

当オプションを省略した場合は、“DPL=0”が指定されたものとみなす。

$$\text{ISL} = \left\{ \begin{array}{l} 8 \\ n \end{array} \right\}$$

プログラム名、二次入口点名、一次入口点名および呼び出し元名を分割する場合に、分割する長さを1～8の数字で指定する。利用者語の先頭から指定された長さで区切り、単語に分割する。

当オプションを省略した場合は、“ISL=8”が指定されたものとみなす。

$$\text{IPL} = \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ n \end{array} \right\}$$

プログラム名、二次入口点名、一次入口点名および呼び出し元名において、分割の対象としない部分の長さを先頭から0～8の数字で指定する。

当オプションを省略した場合は、“IPL=0”が指定されたものとみなす。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{UNIQUE} \\ \text{NOUNIQUE} \end{array} \right\}$$

利用者語を分割した単語において、重複が発生した場合の表形式ドキュメント単語ファイルへの出力方法を指定する。重複した単語の出力を抑制する場合は、“UNIQUE”を、重複した単語の出力を抑制しない場合には、“NOUNIQUE”を指定する。

当オプションを省略した場合は、“UNIQUE”が指定されたものとみなす。

備考1．UNIQUEおよびNOUNIQUE指定時における重複した単語の扱いについて説明する。

単語の重複は、表形式ドキュメント単語ファイルの単語、資産種別、および利用者語の三つをキ

ーとして判断する。なお、表形式ドキュメント単語ファイルのフォーマットに関しては、“付F.3 表形式ドキュメント単語ファイル”を参照されたい。

UNIQUE指定

単語が同じであれば、資産種別または利用者語が異なる場合でも重複とみなす。

したがって、出力される単語は重複しない。

NOUNIQUE指定

単語が同じであっても、資産種別または利用者語が異なる場合には重複とみなさない。

したがって、出力される単語は重複する可能性がある。

備考2．利用者語を単語に分割しない場合は、UNIQUEまたはNOUNIQUE以外のオプションを指定する必要はない。

付F.5.1.3 注意事項

日本語名標辞書作成支援プログラムを使用する場合の注意事項を次に述べる。

クロスリファレンス情報出力機能にて出力されるCSV 形式ファイルについて

出力された内容を変更したCSV 形式ファイルを入力とした場合は、動作を保証しない。

入力のCSV 形式ファイルは、必要とするCSV 形式ファイルの一つ以上指定する。必要としないICS

V 形式ファイルはDUMMY 指定する。

表形式ドキュメント単語ファイルについて

規定のフォーマットに従っていない表形式ドキュメント単語ファイルを入力とした場合は、動作を保証しない。

表形式ドキュメント単語ファイルの転送について

ホストからパソコンへの転送

テキスト転送にて行う。

(FIMPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル受信を選択する。)

パソコンからホストへの転送

テキスト転送にて行う。ただし、レコード形式は可変長、レコード長は 133バイトとすること。

(FEXPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル送信を選択する。)

付F.5.1.4 実行に必要なDD文

付表F.1 に、日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するときに必要なDD文とその用途を示す。

付表F.1 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なDD文とその用途（続く）

DD名 (注1)	用途	編成 (注2)	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)
DMYPRT	- 作業用データセット - 必須データセット - 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する	—	—	—	—
JSMHKCNE	- クロスリファレンス情報出力機能にて出力されるコピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル - 必須データセット (必要としない場合は, DUMMY 指定とする)	PS	V,VB	79	レコード長の倍数+4以上
JSMHKDAL	- クロスリファレンス情報出力機能にて出力されるデータ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) CSV 形式ファイル - 必須データセット (必要としない場合は, DUMMY 指定とする)	PS	V,VB	223	レコード長の倍数+4以上
JSMHKDPR	- クロスリファレンス情報出力機能にて出力されるデータ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル - 必須データセット (必要としない場合は, DUMMY 指定とする)	PS	V,VB	77	レコード長の倍数+4以上

付表F.1 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なDD文とその用途（続き）

DD名（注1）	用途	編成（注2）	レコード形式	レコード長（バイト）	ブロック長（バイト）
JSMHKENT	- クロスリファレンス情報出力機能にて出力される二次入口点情報編集出力（対一次入口点，呼び出し元）CSV形式ファイル - 必須データセット（必要としない場合は，DUMMY 指定とする）	PS	V,VB	55	レコード長の倍数+4以上
JSMHKRAN	- 日本語名標辞書作成ファイル - 必須データセット	PS	F,FB	124	レコード長の倍数
JSMHKSAL	- クロスリファレンス情報出力機能にて出力されるサブスキーマ情報編集出力（対プログラム，DML 命令，レコード）CSV形式ファイル - 必須データセット（必要としない場合は，DUMMY 指定とする）	PS	V,VB	104	レコード長の倍数+4以上
JSMHKWRD	- 表形式ドキュメント単語ファイル - 必須データセット	PS	V,VB	133	レコード長の倍数+4以上
SORTWK01 ~ 03	- ソート用のワークデータセット - 必須データセット - 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する	PS	—	—	—
SYSOUT (LIST)	- 実行結果リスト - 必須データセット	PS	VBA	141	レコード長の倍数+4以上

注1) 表中のDD名欄は，OS IV/MSP でのDD名を示す。()内は，OS IV/XSP でのアクセス名がOS IV/MSP でのDD名と異なる場合のみ，そのアクセス名を示す。

注2) 編成欄の記号と意味は，以下のとおりである。

PS：順編成データセット

備考．日本語名標辞書作成支援プログラム2において，VSAMのDEFINE CLUSTER（プログラム名：KQCAMS）
およびADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティ（プログラム名：JRQJAFE）のDD文については，
それぞれのマニュアルである“AMS コマンド文法書”および“ADJUST使用手引書 バッチ処理機能
編”を参照されたい．

付F.5.2 使用例

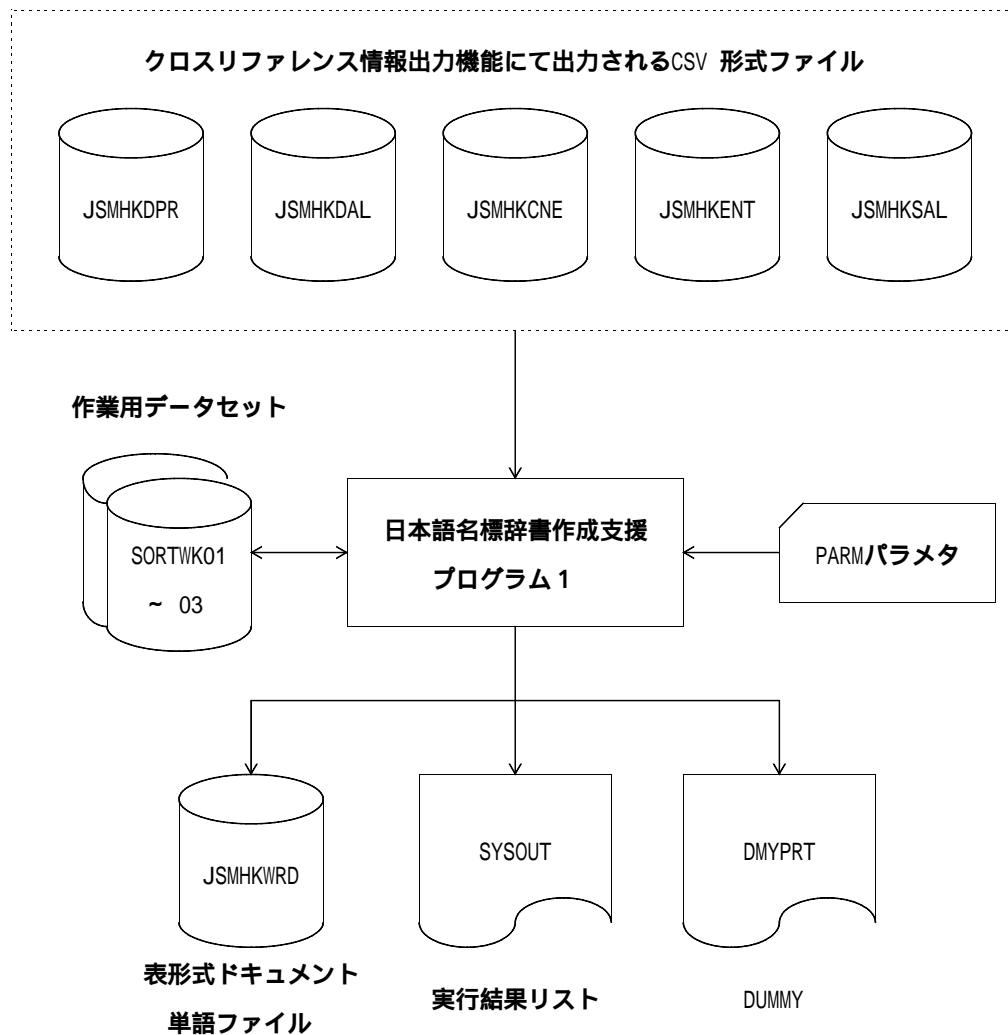
日本語名標辞書作成支援プログラムの使用例として以下の事項を述べる。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、表形式ドキュメント単語ファイルを出力する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 2 にて、日本語名標辞書を作成する場合

付F.5.2.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、表形式ドキュメント単語ファイルを出力する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用するために必要な入出力データセットとそれぞれのDD名を付図F.7 に示す。



付図F.7 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行に必要な入出力データセットとDD名

付図F.8 に日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用する場合は OS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図F.9 に OS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMKDSS1,REGION=1024K,
// PARM='HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHKDPR DD DSN=USER01.DATPR.CSV,DISP=SHR
//JSMHKDAL DD DSN=USER01.DATAL.CSV,DISP=SHR
//JSMH KCNE DD DSN=USER01.CPYNE.CSV,DISP=SHR
//JSMHKENT DD DSN=USER01.ENT.CSV,DISP=SHR
//JSMHKSAL DD DSN=USER01.SBSAL.CSV,DISP=SHR
//JSMHKWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//
```

付図F.8 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 のジョブ制御文例 (OS IV/MSP)

```

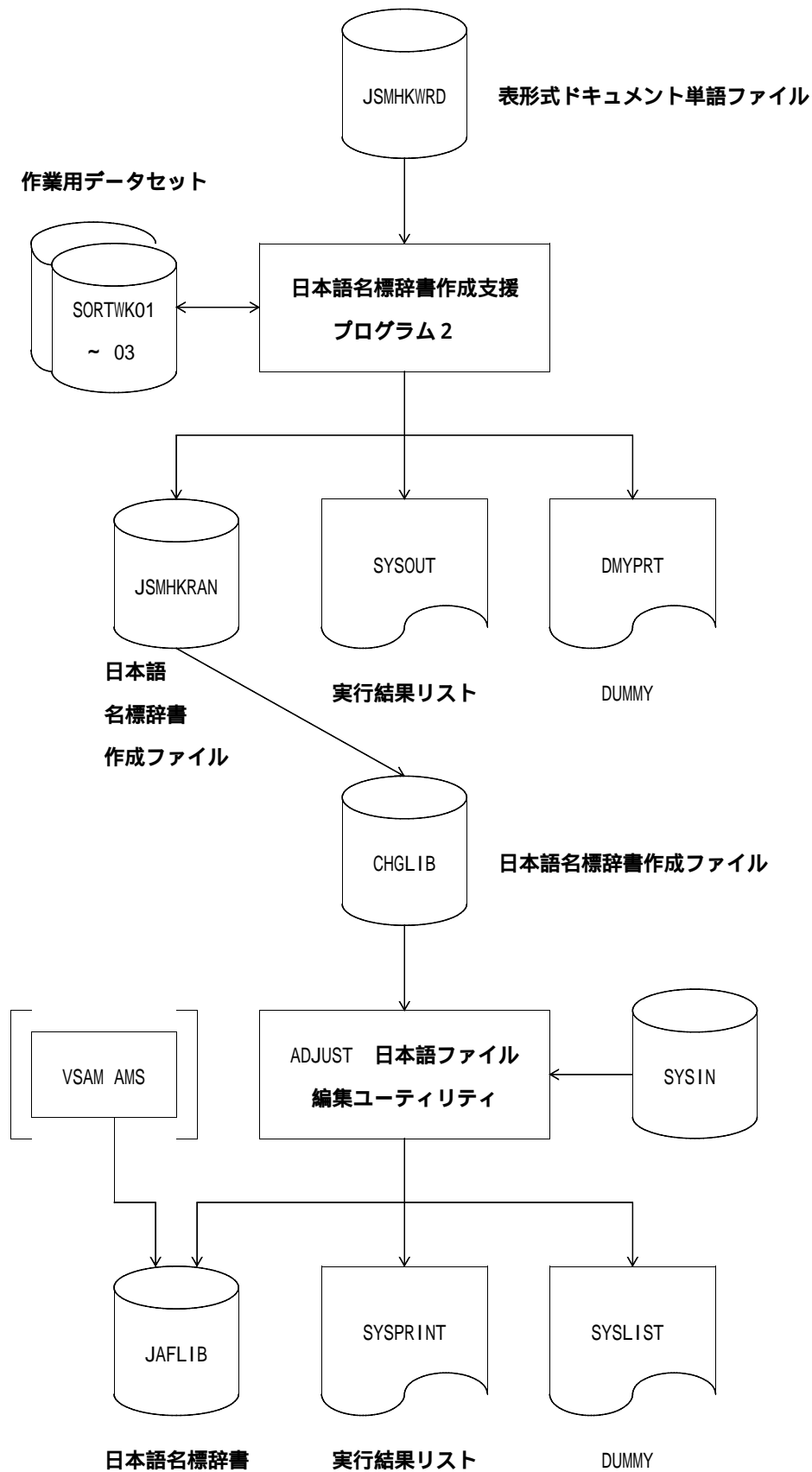
¥ JOB   USER01A,PSW=TEST,LIST=(T,JD)
¥*****
¥**                日本語名標辞書作成支援プログラム 1                *
¥*****
¥STEP1   EX   JSMKDSS1,RSIZE=1024
¥   PARA  HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE
¥   FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥   FD    PRGLIB=DA,FILE=USER001.CROSSCOB.UTYLOAD
¥   FD    CF=DA,FILE=C.ALIB
¥   FD    JSMHKDPR=DA,FILE=USER001.DATPR.CSV
¥   FD    JSMHKDAL=DA,FILE=USER001.DATAL.CSV
¥   FD    JSMH KCNE=DA,FILE=USER001.CPYNE.CSV
¥   FD    JSMHKENT=DA,FILE=USER001.ENT.CSV
¥   FD    JSMHKSAL=DA,FILE=USER001.SBSAL.CSV
¥   FD    JSMHKWRD=DA,VOL=DASDXX,FILE=USER001.WORD.CSV,
        DISP=CAT,TRK=(30,10,RLSE),
        FCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196)
¥   FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥   FD    SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥   FD    SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥   FD    SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥   FD    DMPRT=DUMMY
¥ JEND

```

付図F.9 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例(OS IV/XSP)

付F.5.2.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2にて、日本語名標辞書を作成する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム2を使用するために必要な入出力データセットとそれぞれのDD名を付図F.10に示す。



付図F.10 日本語名標辞書作成支援プログラム2の実行に必要な入出力データセットとDD名

付図F.11に日本語名標辞書作成支援プログラム2を使用する場合のOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図F.12にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```

//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.CROSSCOB.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.AJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*          日本語名標辞書作成支援プログラム2          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMKDSS2,REGION=1024K
//JSMHKWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR
//JSMHKRAN DD DSN=&&CROSSCOB,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
//          COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
        (NAME(USER01.RAN.NDICT) -
        INDEXED -
        UNIQUE -
        KEYS(30 0) -
        IMBED -
        VOLUMES(DASDXX) -
        TRK(5) -

```

付図F.11 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例 (OS IV/MSP) (続く)


```

RECORDSIZE(124 124)          -
DATA                          -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) -
INDEX                          -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX))

/*
//*****
//**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
//*****
//JAFE1  EXEC  PGM=JRQJAFE,REGION=1024K,
//          COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD  SYSOUT=*
//SYSLIST  DD  DUMMY
//SYSIN    DD  *
-  ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
-  FORMAT  SAME
-  CHGIN   IN(CHGLIB)
-  END
/*
//JAFLIB  DD  DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR
//CHGLIB  DD  DSN=&&CROSSCOB,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

付図F.11 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例 (OS IV/MSP) (続き)

```

¥ JOB   USER001X,PSW=TEST,LIST=(T,JD)
¥*****
¥**           日本語名標辞書作成支援プログラム2           *
¥*****
¥STEP1   EX   JSMKDSS2,RSIZE=1024
¥  FD   STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD   PRGLIB=DA,FILE=USER001.CROSSCOB.UTYLOAD
¥  FD   CF=DA,FILE=C.ALIB
¥  FD   JSMHKWRD=DA,FILE=USER001.WORD.CSV
¥  FD   JSMHKRAN=DA,VOL=WORK,DISP=CONT,TRK=(10,10,RLSE),
        FCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
¥  FD   LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥  FD   SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD   SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD   SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD   DMPRT=DUMMY
¥*****
¥**           DEFINE CLUSTER           *
¥*****
¥KQCAMS1 EX   KQCAMS,RSIZE=1024,COND=+20
¥  FD   STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD   SYSPRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥  FD   SYSIN=*
        DEFINE CLUSTER                -
          (NAME(USER01.RAN.NDICT))      -
          INDEXED                       -
          KEYS(30 0)                    -
          IMBED                          -
          VOLUMES(DASDXX)               -
          TRACKS(5)                     -
          RECORDSIZE(124 124))          -
          DATA                          -
          (NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) -
          INDEX                          -
          (NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX))
¥/

```

付図F.12 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS IV/XSP)(続く)

```

¥*****
¥**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
¥*****
¥JAFE1      EX  JRQJAFE,RSIZE=2048,COND=+20
¥  PARA  CNTL=-
¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD    PRGLIB=DA,FILE=SYS.AJUST.LINKLIB
¥  FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥  FD    CHGLIB=/,SW=JSMHKRAN
¥  FD    JAFLIB=DA,FILE=USER01.RAN.NDICT
¥  FD    PRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥  FD    COIN=*
-  ADD  OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
-  FORMAT  SAME
-  CHGIN   IN(CHGLIB)
-  END
¥/
¥  JEND

```

付図F.12 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS IV/XSP) (続き)

日本語名標辞書作成支援プログラムの制限事項について、以下に述べる。

COBOL 言語以外のプログラム名は、日本語名標辞書作成支援プログラムの対象とはならない。

日本語名標辞書作成支援プログラムの出力する診断メッセージについて説明する。
なお、診断メッセージの形式については、“第5章 診断メッセージ”を参照されたい。
ただし、メッセージ番号において機能を示す5文字目には、ユーティリティを意味する“U”が出力される。

JSMKU001-S

指定されたパラメタが 100バイトを超えています。

[メッセージの意味]

100 バイトを超えてPARMパラメタを指定した。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタを100 バイト以内で指定して再度実行する。

JSMKU002-S

実行時オプションに文法エラーがあります。

[メッセージの意味]

文法に合致しない記述方法で実行時オプションが指定されている。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

JSMKU003-S

実行時オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションに誤った指定がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

JSMKU004-S

@1オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションの@1オプションの指定に誤りがある。

[システムの処理]

処理を中止する .

[パラメタの意味]

@1 : 誤りのあるオプション

[利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する .

JSMKU005-E

@1

に単語採取のデータが存在しません。

[メッセージの意味]

入力として指定されたCSV 形式ファイルに , 採取可能な単語のデータが存在しない .

[パラメタの意味]

@1 : 入力として指定されたCSV 形式ファイル

データ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル(JSMHKDPR)

データ項目情報編集出力 (対プログラム , ファイル , レコード , コピー句) CSV 形式ファイル(JSMHKDAL)

コピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル(JSMHKCNE)

二次入口点情報編集出力 (対一次入口点 , 呼び出し元) CSV 形式ファイル(JSMHKENT)

サブスキーマ情報編集出力 (対プログラム , DML 命令 , レコード) CSV 形式ファイル(JSMHKSAL)

[システムの処理]

処理を中止する .

[利用者の処置]

メッセージに出力されているCSV 形式ファイル (DD名 : JSMHKDPR , JSMHKDAL , JSMHKCNE , JSMHKENT , JSMHKSAL) を確認する .

JSMKU006-W

単語が重複しています。重複した単語は抑止されました。

単語 = @1 , 種別 = @2 , 利用者語 = @3

[メッセージの意味]

入力として指定されたCSV 形式ファイル (DD名 : JSMHKDPR , JSMHKDAL , JSMHKCNE , JSMHKENT , JSMHKSAL) から採取する単語が重複したため , 表形式ドキュメント単語ファイル (DD名 : JSMHKWRD) への出力を抑制した .

[パラメタの意味]

@1 : 重複した単語

@2 : 重複した単語の種別

C1D : データ項目名

C2P : プログラム名 , 二次入口点名 , 一次入口点名または呼び出し元名

C3F : ファイル名
C4R : レコード名
C5C : コピー句名
C6S : サブスキーマ名
C7R : サブスキーマのレコード名

③ : 重複した単語が属する利用者語

[システムの処理]

処理を続行する .

JSMKU007-W

単語が重複しています。

単語=① , 種別=② , 利用者語=③

[メッセージの意味]

入力として指定されたCSV 形式ファイル (DD名 : JSMHKDPR, JSMHKDAL, JSMHKCNE, JSMHKENT, JSMHKSAL) から採取する単語が重複したが、種別または利用者語が異なるため、表形式ドキュメント単語ファイル (DD名 : JSMHKWRD) へ出力した .

[パラメタの意味]

① : 重複した単語 .

② : 重複した単語の種別

C1D : データ項目名
C2P : プログラム名, 二次入口点名, 一次入口点名または呼び出し元名
C3F : ファイル名
C4R : レコード名
C5C : コピー句名
C6S : サブスキーマ名
C7R : サブスキーマのレコード名

③ : 重複した単語が属する利用者語

[システムの処理]

処理を続行する .

JSMKU008-E

単語が採取できませんでした。DD名=① , 種別=② , 利用者語=③

[メッセージの意味]

メッセージに出力している利用者語からは、単語が採取できなかった .

[パラメタの意味]

① : 単語が採取できなかったDD名

JSMHKDPR : データ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル
JSMHKDAL : データ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) CSV
形式ファイル
JSMHKCNE : コピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル

JSMHKENT : 二次入口点情報編集出力 (対一次入口点, 呼び出し元) CSV 形式ファイル

JSMHKSAL : サブスキーマ情報編集出力 (対プログラム, DML 命令, レコード) CSV 形式ファイル

イル

@2 : 単語が採取できなかった利用者語の種別

C1D : データ項目名

C2P : プログラム名, 二次入口点名, 一次入口点名または呼び出し元名

C3F : ファイル名

C4R : レコード名

C5C : コピー句名

C6S : サブスキーマ名

C7R : サブスキーマのレコード名

@3 : 単語が採取できなかった利用者語

[システムの処理]

処理を続行する .

[利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する .

JSMKU009-U

@1

アクセスエラー 入出力状態=@2

[メッセージの意味]

日本語名標辞書作成支援プログラムにおいて, アクセスエラーが発生した .

[パラメタの意味]

@1 : アクセスエラーが発生したデータセット

データ項目情報編集出力 (対プログラム) CSV 形式ファイル(JSMHKDPR)

データ項目情報編集出力 (対プログラム, ファイル, レコード, コピー句) CSV 形式ファイル(JSMHKDAL)

コピー句情報編集出力 (階層表示) CSV 形式ファイル(JSMHKCNE)

二次入口点情報編集出力 (対一次入口点, 呼び出し元) CSV 形式ファイル(JSMHKENT)

サブスキーマ情報編集出力 (対プログラム, DML 命令, レコード) CSV 形式ファイル(JSMHKSAL)

表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD)

日本語名称辞書作成ファイル(JSMHKRAN)

@2 : COBOL85 の入出力状態値

[システムの処理]

処理を中止する .

[利用者の処置]

COBOL85 の入出力状態値の意味を調べ, エラーの原因を取り除いて再度実行する .

JSMKU010-S

全てのCSV 形式ファイルに入力データが1件もありませんでした。

[メッセージの意味]

入力として指定されたCSV 形式ファイル (DD名: JSMHKDPR, JSMHKDAL, JSMHKCNE, JSMHKENT, JSMHKSAL) に、データが1件も存在しなかった。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

入力として指定したCSV 形式ファイル (DD名: JSMHKDPR, JSMHKDAL, JSMHKCNE, JSMHKENT, JSMHKSAL) を確認する。

JSMKU011-S

@1への出力データが1件もありませんでした。

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) または日本語名標辞書作成ファイル (DD名: JSMHKRAN) に、データが1件も出力されなかった。

[パラメタの意味]

@1: 対象のデータセット

表形式ドキュメント単語ファイル(JSMHKWRD)

日本語名称辞書作成ファイル(JSMHKRAN)

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する。

JSMKU012-S

@1列目のデータが正しくありません。レコード番号=@2

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) において、メッセージで示されるデータが正しくない。

[パラメタの意味]

@1: エラーとなった該当の列

@2: エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される。7桁を超える場合には、レコード番号の最後に“*”が出力される。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) の該当箇所を確認し、修正する。

日本語の切捨てを行いました。単語=@1，レコード番号=@2

切捨て後=@3

切捨て前=@4

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) において、メッセージが示す単語に対応する日本語データに半角データが含まれていたため、半角データ以降を切り捨てた。

[パラメタの意味]

@1: 該当の単語

@2: エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される。7桁を超える場合には、レコード番号の最後に“*”が出力される。

@3: 切捨て後の日本語データ

@4: 切捨て前の日本語データ

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) の該当箇所を確認し、必要ならば修正する。

単語が重複しています。処理を中断します。

単語=@1，種別=@2，利用者語=@3

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) の単語が重複している。

[パラメタの意味]

@1: 重複した単語

@2: 重複した単語の種別

C1D : データ項目名

C2P : プログラム名, 二次入口点名, 一次入口点名または呼び出し元名

C3F : ファイル名

C4R : レコード名

C5C : コピー句名

C6S : サブスキーマ名

C7R : サブスキーマのレコード名

@3: 重複した単語が属する利用者語

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) の該当箇所を確認し、修正する。

日本語が未入力です。データを無視しました。単語=@1, レコード番号=@2

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) において, メッセージが示す単語に対応する日本語データが入力されていないため, 該当の単語を無視した。

[パラメタの意味]

@1: エラーとなった該当の単語

@2: エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される。7桁を超える場合には, レコード番号の最後に“*”が出力される。

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) の該当箇所を確認し, 必要があれば修正する。

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) に入力データが1件もありませんでした。

[メッセージの意味]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) に, データが1件も存在しなかった。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

表形式ドキュメント単語ファイル (DD名: JSMHKWRD) を確認する。

16. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

参照 → 4

表16.1 プログラム修正事項

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>クロスリファレンス情報出力機能およびマトリックス情報出力機能において、解析対象資産の日本語文字に以下の内部コードが含まれる場合、区切り文字と見なし正しく解析されない。</p> <p>終止符 “.” [X'4B']，左括弧“(” [X'4D']， 右括弧“) ” [X'5D']，コンマ“,” [X'6B']， コロン“: ” [X'7A']，引用符(アポストロフィ)“' ” [X'7D']， 引用符(クォーテーションマーク)“ ” [X'7F']</p> <p>SYSIN 制御文に指定した日本語文字に以下の内部コードが含まれる場合、区切り文字と見なし制御文に誤りがあるというエラー(JSMKC082-U, JSMKC090-U)になる。</p> <p>斜線“/ ” [X'61']，コロン“: ” [X'7A']， 引用符(アポストロフィ)“' ” [X'7D']，等号“=” [X'7E']</p> <p>(対処) 日本語文字に区切り文字と同じコードが含まれる場合でも正しく解析されるように修正した。</p>	JSMK0050 JSMK0680
2	<p>クロスリファレンス情報出力機能のデータ項目情報編集出力(対プログラム)において、部分参照または添字付けしているデータ項目名がシフトコードを含めて62バイトを超える場合、62バイトを超えた部分のデータ項目名がドキュメントに出力されない。</p> <p>(対処) 部分参照または添字付けを含めて62バイトを超えた場合、部分参照または添字付けで使用しているデータ項目名もドキュメントに出力されるように修正した。</p>	JSMK0150 JSMK0170 JSMK0680
3	<p>検索対象のデータ項目名の直前の行に行内注記(“*>”)が存在する場合、検索結果に出力されない。</p> <p>(対処) 直前の行に行内注記が存在するデータ項目名(レコード名を含む)が検索結果に出力されるように修正した。</p>	JSMK0150 JSMK0170
4	<p>COBOL ソースプログラムまたはコピー句に空白行が含まれる場合、データ項目名が正常にドキュメントへ出力されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> — データ部の場合、定義しているデータ項目名が出力されない場合がある。 — 手続き部の場合、定義していないデータ項目名が出力される場合がある。 <p>(対処) COBOL ソースプログラムまたはコピー句に空白行が含まれる場合、データ項目名が正常にドキュメントへ出力されるように修正した。</p>	JSMK0140 JSMK0180

FUJITSU